

第七十五回帝國議會
衆議院
所得稅法改正法律案外三十件
委員中地方稅法案外七件

小委員會會議錄(速記)第六回

會議

昭和十五年三月九日(土曜日)午前十時三十分開議

出席委員左ノ如シ

小委員長 小山倉之助君

理事川崎末五郎君 理事內藤正剛君

理事石井德久次君 理事瀧澤七郎君

長野 高一君 成島 勇君

池本甚四郎君 飯田 助夫君

塚本 三君 伊藤 五郎君

宮本雄一郎君 上田 孝吉君

山川頼三郎君 森田 福市君

小見山七十五郎君 永江 一夫君

青木 作雄君 武田德三郎君

同日委員成島勇君及塚本三君辭任ニ付其ノ補闕トシテ伊藤五郎君及池本甚四郎君ヲ委員長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

內務大臣 伯爵兒玉 秀雄君

出席政府委員左ノ如シ

內務政務次官 鶴見 祐輔君

內務省地方局長 挾間 茂君

內務書記官 三好 重夫君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

地方稅法案(政府提出)

府縣制中改正法律案(政府提出)

市制中改正法律案(政府提出)

町村制中改正法律案(政府提出)

北海道會法中改正法律案(政府提出)

北海道地方費法中改正法律案(政府提出)

地方分與稅分與金特別會計法案(政府提出)

出)

○小山委員長 是ヨリ開會致シマス、前會ニ引續キ宮本君ノ發言ヲ許シマス

○宮本委員 私ハ疑問ノ要點ダケ申述ベテ御答辯ヲ伺ヒタイト思ツテ居リマシタガ、

其ノ要點ノ意味ガ十分ニ御諒解ガ出來ルヤウニ申上ゲラレナイヤウナ感ガ致シマス

ノデ、極メテ簡單ニ自分ノ意見ヲ申述ベマシテ、質問ノ要旨ヲ御諒解願フヤウニ致シ

タイト考ヘマス、最近內務省ノ自治體ニ關スル指導監督ノ御方針ガ、非常ニ從來ヨリ違

ツテ來タヤウニ考ヘルノデアリマス、此ノ地方稅制問題、分與稅問題等ニ付キマシテ、

他ノ委員ノ方ヨリモ、中央集權ノ嫌ヒガアルト云フヤウナ批評ヲ加ヘテノ御質問モア

ツタノデアリマスガ、總括的ニ此ノ稅ヲ檢

討致シマス、今回ノ地方稅制改正ニ付キマシテハ、何ト御辯解ニナリマシテモ此ノ方針

ハ中央集權デアリマス、此ノ制度ハドウ云フヤウナ御辯解ガアリマシテモ、中央集權

デアリマス、斯ノ如ク中央集權的ニ御持ヘニナツタ所ノ稅法ヲ今後施行スルニ、左様

ナ氣持ヲ以テ施行セラレルニ於テ自治精神ヲ沒却セラレヤシナイカ、斯ウ云フ私ハ疑

問ヲ持ツテ居ル、併シ一應此ノ稅制ヲ認メルト致シマシテモ、其ノ精神ハ何處マデモ

自治精神デアリマシテ、自治精神ヲ沒却スルヤウナコトハ絕對ニ避ケナケレバナラス

ト云フコトハ申上ゲルマデモナイ次第デアリマス、故ニ此ノ法律ヲ實施セラレル場合

ニ於キマシテハ、其ノ運用上ニ於キマシテ自治精神ヲ沒却セザルヤウニ其ノ運用ヲシ

ナケレバナライ、斯様ニ考ヘマス、此ノ自治精神ヲ何處ニ置クノカ、軍人ニハ申上

ゲルマデモナク軍人精神ヲ示サレテアリマス、自治體ノ公民ニハヤハリ自治精神ガ示

サレテアルノデアリマス、局長サンハ此ノ自治精神等ニ付キマシテハ、私ガ申上ゲル

マデモナク能ク御承知ノコトデ、私ノ方ガ、學校ノ先生ニ色々御伺スルヤウナ立場

付託議案

地方稅法案(政府提出)(第四七號)

地方分與稅法案(政府提出)(第四八號)

府縣制中改正法律案(政府提出)(第四九號)

市制中改正法律案(政府提出)(第五〇號)

町村制中改正法律案(政府提出)(第五一號)

北海道會法中改正法律案(政府提出)(第五二號)

北海道地方費法中改正法律案(政府提出)(第五三號)

地方分與稅分與金特別會計法案(政府提出)(第五四號)

地方分與稅分與金特別會計法案(政府提出)(第五四號)

ニ於テ御伺センケレバナラスヤウナ關係ニ考ヘテ居リマスガ、併シ最近ノ監督官廳ト

シテノ御方針ガ、ドウモ此ノ自治精神ニ反スルヤウナ嫌ヒガアツテナライノデス、

此ノ自治精神ハ何ヲ指スカト申シマス、市町村制發布當時ニ示サレマシタ理由書ガ

アル、此ノ理由書ハ長イモノデアリマスガ、其ノ一節ニ、軍人精神トシテ示サレタ

ト同ジヤウニ此ノ自治精神ト云フモノガ示サレテアルノデアリマス、私共ハ之ヲ尊重

シテ居ル、是デナケレバナライ、此ノ自治精神ニ依ツテ監督官廳モ監督モシ、指導

モサレルグラウト常ニ考ヘテ居ツタノデアリマスガ、ソレガ段々ニ違ツテ來ルヤウナ

感ジガ致シマス、又實例ニ於キマシテモ、今回ノ稅制改正ノ如キモ、地方カラ中央ヘ

取ツテサウシテ之ヲ地方ニ還元スルノデアリマスケレドモ、又之ヲ地方ニ與ヘルト云

フヤウナコトガ既ニ中央集權デアアル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、併シ是ハ實施ニ

於テ左様ナコトノナイヤウニ施行センケレバナライ、昨日モ內務大臣ニ他ノ委員會

デ、自治體ノ監督指導ノ御方針ヲ伺ツタノデアリマシテ、之ニ付キマシテ、只今申上

ガマシタ自治制度ノ施行當時ニ於ケル其ノ理由書、詰リ私が自治精神ハ斯ノ如キモノデナケレバナラナイト感ジテ居ル自治精神ノ理由書ハ、全文ハ讀上ゲマセスガ、他ノ委員會ニ於キマシテハ委員長ノ承諾ヲ得テ速記録ニ留メテ貰フコトニ致シタノデアリマス、茲ニハ極メテ其ノ一節ヲ申上ゲマシテ、是ハ御承知ト存ジマスガ、之ヲ深く御承知ノ上デ、之ヲ以テ自治精神トスルト云フコトデアリマスレバ、斯ノ如キ立法ニ付テハ内務省モ餘程御考ニナツタコトデアラウト思ヒマスガ、併シ出來マシタ以上ハ、今後之ガ實施ノ上ニ於キマシテ自治精神ヲ沒却セヌヤウニセシケレバナライ、故ニ其ノコトヲ申上ゲル以前ニ、委員長ノ御許ヲ得テ簡單ニ此ノ理由書ノ一節ヲ茲ニ讀上ゲマス、維新ノ後政務ヲ集攬シテ一ニ之ヲ中央ノ政府ニ統ヘ地方官ハ各其ノ職權ヲ盡モ政府ノ委任ニ依テ代テ事ヲ處スル過キス今地方ノ制度ヲ改ムルハ即チ政府ノ事務ヲ地方ニ分任シ又人民ヲシテ之ニ參與セシメ以テ政府ノ繁雜ヲ省キ併セテ人民ノ本務ヲ盡サシメントスルニ在リ而シテ政府ハ政治ノ大綱ヲ握リ方針ヲ授ケ國家統御ノ實ヲ舉クルヲ得可ク人民ハ自治ノ責任ヲ分チ以テ専ラ地方ノ公益ヲ計ルノ心ヲ起スニ至ル可シ蓋人民參政ノ思想發達スルニ從ヒ之ヲ利用シテ地方ノ公事ニ練習セシメ施政ノ難易ヲ知ラシメ漸ク國事ニ任スルノ實力ヲ養成セントス是將來立憲ノ制ニ於テ國家百世ノ基礎ヲ立ツルノ根源タリ故ニ分權ノ主義ニ依リ行政事務ヲ地方ニ分任シ國民ヲシテ公同ノ事務ヲ負擔セシメ以テ自治ノ實ヲ全カラシメントスルニハ技術專門ノ職若クハ常識トシテ任ス可キ職務ヲ除クノ外概ネ地方ノ

人民ヲシテ名譽ノ爲メ無給ニシテ其職ヲ執ラシムルヲ要ス而シテ之ヲ擔任スルハ其地方人民ノ義務ト爲ス是國民タル者國ニ盡スノ本務ニシテ丁壯ノ兵役ニ服スルト原則ヲ同クシ更ニ一步ヲ進ムルモノナリ然レトモ人民ヲシテ普ク此義務ヲ帶ハシムルトキハ其任又輕シト爲サス故ニ一朝ニシテ此制ヲ實行セントスルハ頗ル難事ニ屬スト雖モ其目的タル國家永遠ノ計ニ在リテ效果ヲ速成ニ期セス漸次參政ノ道ヲ擴張シテ公務ニ練熟セシメントスルニ在リ是ヲ以テ力メテ多ク地方ノ名望アル者ヲ擧ケテ此任ニ當ラシメ其地位ヲ高クシ待遇ヲ厚クシ無用ノ勞費ヲ負ハシマス倦怠ノ念ヲ生セサシムルトキハ漸ク其責任ノ重キヲ知リ參政ノ名譽タルヲ辨スルニ至ラントスハ是ハホシノ理由書ノ一節中ノ尙ホ一節デアリマスガ、是ガ私共ハ公民トシテ自治體ニ盡サナケレバナラヌ自治精神デアルト考ヘテ今日マデ參ツタノデアリマス、此ノ精神カラ行キマス、甚ダシク今回ノ稅制ハ中央集權デアルト云フ感ジガドウモ拔ケナイノデアリマス、併シマア之ヲ此ノ場合議論致シマシテモ解決ガ着クモノデハナイノデアリマスカラ、之ヲ實施スルニ付キマシテ、先刻申上ゲマシタヤウナ方針ヲ御執リヲ願ハナケレバナラスト考ヘマス

ソコデ此ノ法律案ノ内容ニ付キマシテノ問題デアリマスガ、昨日モ私ノ質問ノ要旨ノ述べ方ガ惡カツタノデ、十分満足スル御答辯ヲ得ナカツタノデアリマスガ、私ハ何處マデモ國民トシテ稅ノ負擔ヲスルト云フコトハ收入本位、一家ノ經營ノ上カラ、一世帶ト致シマシテ納稅義務ヲ盡スト云フコトニ付キマシテノ其ノ稅負擔ノ根本ハ、何レノ業態ヲ問ハズ、收入ヲ本位トスルト云フ建前ガ最モ均衡ヲ得ルコトデアルト云フ確信ヲ持ツテ居ルノデアリマス、各國ノ例ヲ引イテ申上ゲル必要ハナカラウト思ヒマスガ、是ハ多クノ自治制度ヲ先ニ布カレマシタ各國ノ稅制制度ヲ御承知ダト存ジマスガ、此處ニ重點ヲ置イテアルト云フコトハ申スマデモナイ次第デアリマス、故ニ政府ガ國稅ヲ所得稅ニ其ノ體系ヲ執ラレタト云フコトハ、是ハ稅ノ根本ノ性質カラ行キマシテ極メテ妥當デアルト考ヘテ居リマス、然ルニ今回ノ改正ニ依リマシテ、所謂地方稅、即チ府縣稅、市町村稅ニ於キマシテ——尤モ府縣稅、獨立稅ノ中ニハ稍、認メナケレバナラスト考ヘルモノデアリマス、又町村ノ中ニモ、市ニ準ズベキ町ト致シマシテハ、此ノ稅ヲ取上ゲテモ差支ナイダラウト考ヘルモノデアリマスガ、農村自治體ト致シマシテハ今回ノ獨立稅ハ甚ダ當ヲ得ナイノデアリマス、只今申上ゲマシタ納稅義務者ノ稅負擔ノ根本ハ、其ノ業態經營ノ收入ニ本位ヲ置クト云フコトデアリマスレバ、尙更ニ町村ノ獨立稅ト云フモノハ意義ヲ成サスノデアリマス、殊ニ畜犬稅デアルトカ、金庫稅デアルトカ、扇風機稅デアルトカ云フヤウナモノハ農村ニハ殆ドナイノデアリマス、其ノ課稅スル物件ガアルナイニ拘ラズ、其ノ根本ニ於キマシテ甚ダ當ヲ得テ居ラナイ、課稅ノ根本方針ニ違ツテ居ルト云フコトヲ感ズルノデアリマス、然ラバ此ノ場合此ノ施行ニ當リマシテ之ヲドウスルカト云フ點デアリマス、私ハ今回ノ農村自治體ニ對スル稅制ハ、モウ少シ内務省ニ於キマシテモ御研究セラレタラウト考ヘテ居ツタノデアリマスシ、又廣ク其ノ方面ノ町村長

ノ意見ヲモ徵セラレテ立法セラレルノデハナイカト考ヘテ居ツタノデアリマスガ、左様ナコトニ至ラナカツタコトニ付キマシテハ、非常ニ失望シタヤウナ譯デアリマス、此ノ町村稅ニ農村關係ノ獨立稅ト致シマシテハ、金額ハ少イノデアリマスガ、之ヲナゼ國稅ノ所得稅免稅點以下ノ町村民ノ所得ヲ基準トセナカツタノデアルカ、私ノ質問ノ要點ハ斯ウ云フ點デアリマス、此ノ法律ニ於テ、之ヲ實施スルニ當ツテ左様ナルコトガ出來ルカ、今法文ニ示サレマシタ物件稅ノ住民稅以外ノモノハ——是ハ該當スルモノガナケレバ已ムヲ得マセスガ、自轉車稅ノ如キハ若干農村ニアリマス、現在ニ於キマシテハ自轉車ガ農村ニ於ケル交通機關、或ハ各種ノ業態ニ必要ナル機關デアルトコトハ、他ノ委員ノ方カラ屢、申上ゲマシタ通りデアリマス、是等課稅物件ガ若干アリマスガ、之ヲ全部廢メテ、住民稅ダケハ色々ノ御趣旨モアリマスカラ、是ハ存置シナケレバナラスト思ヒマスガ、其ノ他ノ獨立稅ハ全部廢メテ、國稅以外ノ所得ヲ基準トシテ町村稅ヲ賦課スルト云フコトニ、現在ノ法律ニ於テ町村ガ獨立稅ヲ設ケル——即チ茲ニ條例ヲ編成スルニ付キマシテ、左様ナコトガ出來ルカドウカト云フコトヲ伺ヒタイ、尙ホ私が此ノ質問ヲ致シマスニ付キマシテ、以上申述べマシタ自治精神ニ關聯ヲ致シマシテ、此ノ實施ニ當ツテ之ヲ沒却セナイヤウニスルニ付テハ斯ウ云フ風ニスルト云フ局長サンノ御所信ヲ御伺シタイ、甚ダ長クナリマシタガ、私が質問ヲ致ス趣旨ハ以上デアリマスルガ、ソレニ付キマシテ御答辯ヲ願ヒタイト存ジマス

○挾問政府委員 第一ノ點ハ地方自治ノ監

督方針及ビ今回ノ稅制ノ實施上ニ付テノ御意見デゴザイマスガ、地方自治體ニ對スル政府ノ監督方針ニ付キマシテハ、從來ト現在及ビ將來ニ於テ何等變更ハナイモノト思ヒマス、即チ政府ノ監督方針ハ主トシテ之ヲ事後ノ監督ニ置キ、事前ニ自治ニ干渉スルト云フ態度ヲ執ルコトハ、自治ノ圓滿ナル發達ヲ期スル所以デナイト思フノデアリマス、無論自治體ノ行政ノ運用ガ適當ニ參リマスヤウニ必要ナ指導ヲ致ス、之ヲ監督ト申シマスレバ、所謂指導的ノ監督ト云フコトハ或ル程度必要カモ知レナイト思ヒマスガ、大體ノ方針トシマシテハ、概ネ自治監督ハ事後ノ監督ニ依ツテ、ソレガ不適當ナ場合デアレバ之ヲ匡正スル、事前ニ於キマシテハ自治ニ對スル干渉ニ互ルヤウナコトハ全然之ヲ避ケマシテ、專ラ指導ニ重キヲ置クト云フコトデ參リタイト思フノデアリマス、是ハ從來ト雖モ、又、將來ニ於キマシテモ、政府ノ方針ニハ變更ハナイコトト考ヘマス、

又今回ノ稅制ニ付テノ御所見デゴザイマスガ、是ハ稅制全體ヲ御覽戴キマスレバ、隨分從來ノ規定ニ依リマシテ自治體ノ自由ヲ拘束致シテ居リマシタ點ニ付テ、其ノ自由ノ範圍ヲ擴張シ、許可、認可ノ整理ヲ致シマシテ、各自自治體ノ自由ヲ活動ヲ廣ク認メルヤウニ致シタ點ガアルノデアリマシテ、是ハ法文ニ付テ御覽ヲ戴キマスレバ明瞭ニナルコトト思フノデアリマス、唯分與稅制度ハ、國ガ一定ノ財源ヲ一定ノ方法ヲ以テ分與スルノデアリマシテ、其ノ意味ニ於キマシテハ國ノ力ガソコニ加ハルノデアリマスガ、是ハ一ツノ方法トシテ已ムヲ得ザルコトデアリマシテ、決シテ中央集權ト云フ

意味ヲ持ツテ居ルノデハナク、之ニ依ツテ寧ロ地方財源ノミニ於テ、ヨリ以上ノ自治體ノ財政力ヲ擴充シヨウト云フ方針ニ出テ居ルノデアリマス、還付稅ニ付テノ御意見モゴザイマシタケレドモ、是ハ全ク實質上ニ於キマシテハ獨立稅タルモノヲ、負擔ノ衡平ヲ期スル上ニ於テ斯様ナ形ヲ採ルト云フニ過ギナイモノデアリマシテ、凡ソ分與稅ノ分與ノ方法等ニ付キマシテモ、法律ヲ以テハツキリト規定ヲ致シマシテ、官廳ノ自由裁量ト申シマスカ、オ手盛ト云フヤウナコトヲ許サナイヤウニ致シマシテ、ソコニ官僚獨善ト云フカ、斯様ナ分子ノ入ラナイヤウナコトニ對シマシテハ、出來ルダケノ注意ヲ拂ツタ積リデアリマスカラ、只今御述ニナリマシタ點ニ付キマシテ、細心ノ注意ヲ致シテ居ルト云フコトヲ此ノ機會ニ申上ゲテ置キタイト存ジマス、

ソレカラ地方稅ノ本質ト申シマスカ、稅ノ主體ノコトニ付テノ御意見デゴザイマシタガ、今回ノ稅制ニ於キマシテノ體系ト致シマシテハ、國稅ガ所得稅ヲ其ノ大宗トシ、地方稅ハ稅ノ性質ト致シマシテ、國稅ヨリモヨリ地方稅ガ明確ニ分離シタ稅ノ體系ヲ採ルコトガ色々ナ意味ニ於テ必要ナコトデアリマスノデ、且ツ地方施設ト稅ノ關係カラ考ヘマシテ、地方稅ハ其ノ主體ヲ收益稅體系ニ持ツテ行クノガ適當デアルト考ヘマシテ、今度ノ稅制ヲ打立テタノデアリマス、ソレデ只今御述ニナリマシタ一ニモ收入、二ニモ收入ト云フコトニナリマスコトハ、地方稅トシテハ如何ナモノデアラウカト思フノデアリマス、御述ニナリマシタヤウナコトハ、即チ國稅ト致シマシテハ所得稅ガ其ノ主體ニナルト云フ御意見ト全ク一致シ

テ居ルト思フノデアリマスガ、地方稅トシマシテハヤハリ地方施設ニ依ツテ利益ヲ受ケルコトヲ課稅ノ一ツノ對象トシテ考ヘル必要ガアルト思フノデアリマシテ、收入ガ六百圓以上ノ者デナケレバ、假令車ヲ持ツテ居ツデモ之ニハ課稅ヲシナイ……是ハ各市町村ノ自由ニ依ツテソコハ出來ルト思ヒマスケレドモ、課稅物件ト致シマシテハ、地方施設ニ依ツテ利益ヲ受ケルト云フコトガ、其ノ課稅ヲ致シマスル本ニナル譯デアリマス、隨テ地方稅トシマシテ獨立稅ニ於テ認メマスモノハ大體ニ於テ物件稅デアリマスカラ、御述ニナリマシタヤウナコトハ主トシテ國稅ニ於テ豫想ヲ致シテ居リマス、地方稅ニ付テハ物件稅的ナモノノミガ舉ゲラレテ居リマスノデ、只今御述ニナリマシタヤウナ御趣旨トハ異ツタ觀點カラ、法律ニ列舉シタヤウナ稅制ヲ立テタノデアリマス、是ハ從來ノ稅制ト何等異ル所ハナイノデアリマス、但シ市町村民稅ニ付キマシテハ、其ノ標準ノ取扱等ニ付キマシテハ、所得額ト云フヤウナモノヲ標準ニスルコトガ出來ル譯デアリマス、此ノ意味ニ於キマシテハ御述ニナリマシタ御趣旨ニ副ウテ課稅ガ出來ルコトト考ヘテ居リマス、

ノ戶數割デアリマシテ、縣稅ハ自治體ヲ一區域トシテ、其ノ年度ニ要スル戶數割ノ豫算ニ依ル一戸平均額ヲドノ町村ニモドノ町村ニモ賦課致シタノデアリマス、此ノ賦課ヲ受ケマシテ其ノ資産ノ狀況、總テノ點ヲ參酌致シマシテ、等級ニ依ツテ之ヲ納稅義務者別ニ分賦致シタト云フコトハ御承知ノ通りデアリマス、其ノ當時ハ市町村トシテハ、附加稅デアリマシテ、縣稅ガ戶數割トシテ本稅デアツタノデアリマス、其ノ等級ヲ査定スルト云フコトガ、自治精神ヲ公民ニ涵養スル上ニ於キマシテ非常ニ深長ナル意義ガアツタ、是ハ監督官廳トシテ、其ノ後御忘レニナツタ結果、其ノ制度ヲ變ヘラレタノデハナイカト考ヘテ居ルノデアリマスガ、町村民或ハ自己ノ生活上ニ於キマシテ、又社交上ニ於キマシテ、或ハ婚姻ヲ爲ス等ニ於キマシテ、先ツ出來ルダケ自分ハ戶數割等級ノ上ニナランコトヲ一ツノ目的トシテ、農村ニ於テハ活動シテ居ル者ガ多カツタノデアリマス、今年ハ其ノ村ノ四等ナリ五等ナリノ等級ヲ受ケタケレドモ、段々働イテ生活狀態ヲ良クシテ少シデモ等級ノ上ニナランコトヲ、農村ニ於テハ一ツノ樂ミトシテ働イテ來テ居ル、ソレヲ斯ノ如キ精神ガ含マレテ居ル制度ヲ止メマシテ——是ハ又其ノ時代ノ考モアルコトダラウト思ヒマスガ、サウシテ現行制度ニナツテ居ル、是ハ私ハ弊害モアルカモ知レマセヌガ、其ノ弊害ハ監督ノ方針ニ於テ十分除クコトガ出來ル、公民ノ訓練、指導ニ於テ十分除クコトガ出來ルト思フ、必ズシモ惡イ制度デハナイト私ハ考ヘテ居リマス、殊ニ六割ヲ所得ニ求メルト云フコトハ非常ニソコニ意義ガアル制度デアリマス、又見立割ニ依リマシ

テソコニ若干ノ等差ヲ付ケルト云フコトハ、自治體ノ公民訓練ノ上ニ於キマシテハ、中々勝手ガ強クテ名譽職ヲ嫌フト云フヤウナ者モ中ニハアル、サウ云フヤウナ者ニハ見立割ニ於テ若干ノ重課ヲスルト云フヤウナ、隣保共助ノ精神ヲ尊重セザル者ヲ幾分社會的ノ制裁ヲ加ヘルト云ヒマシタラ語弊ガアルカモ知レマセヌガ、左様ナ意味ニ於キマシテ自治體ノ公民トシテノ思想ヲドウシテモ訓練ニ於テ涵養ガ出來ナイヤウナ者ハ、幾分左様ナ制裁ノ意味ヲ加ヘテ反省ヲセシムルト云フウヤウナコトガ、地方ニ於キマシテハ隣保共助ノ精神ノ生レル一ツノ長イ慣行ニナツテ居ル、是ハ全國至ル所ニ左様ナコトガアルダラウト思ヒマス、左様ナ考デアツテハイケナイト云フコトデソコニ隣保共助ノ精神ガ涵養セララル、隣リ同士デオ五ニ仲好クセンケレバナラナイト云フヤウナ自治精神ガソコニ涵養セラルルノデアリマス、ソレ等ノ點カラ行キマシテ一部ハ見立割デアル、一部ハ所得デアルト云フコトハ、非常ニ其ノ建前ハ宜シイノデス、恐ラク戸數割ト云フモノハ弊害ガアルト云フコトハ、何處カラ御聞キニナツタカ能ク知リマセヌガ、其ノ弊害ヲナサシメナイヤウニ指導監督シテ行ケバ私ハ差支ナイト考ヘテ居ルノデアリマス、其ノ意味カラ致シマシテ今回ノ住民稅ハ大體見立割ニ依ル、即チ等級ヲ設ケテ賦課スルモノデアリマシテ、其ノ他現在ノ所得ニ戸數割ヲ賦課スル制度ヲ尊重致シマシテ、此ノ制度ノ運用上ニ於キマシテ、物件稅ハ全部廢メデシマフ、賦課スル所ノ物件ガアリマシテモ、自轉車等ニ於キマシテモ全然課稅ハシナイ、國稅ノ免稅點以下ノ者ヲ調査致シマシテ、現在ノ戸數割ノ約六割ト云フヤ

ウナ程度ヲ一ツノ制限ト致シマシテ、國稅以外ノ所得ヲ調査シテ之ニ賦課スルト云フコトガ、稅ノ負擔ノ根本精神ニモ適ヒマスシ、住民稅ハ等級ニ依ツテ課ス、其ノ他ノモノハ之ヲ標準トシテ六割程度ノモノヲ所得ニ依ツテ、所得稅ト云フカ或ハ所得割ト云フカ、從來ノ戸數割ノ六割ヲ賦課シタ方針ニ依ツテ——而モ此ノ制度ハ十年以上モヤツテ居ル、大分事務的ニモ訓練ガ付イテ居ルノデアリマスカラ、コゴデ國稅ハ營業收益稅、所得稅ト云フモノ一ツノ制限ヲ付ケマシテ、國稅トシテ納稅義務ヲ果ス、又之ニ府縣稅、町村稅ノ附加稅モ課カルノデアリマス、ソレ以下ノモノモ若干ノ收入ヲ標準トシテ、其ノ自治體ニ限リ若干ノ負擔ヲスルト云フコトガ、一番公平ニ負擔モ行クト思ヒマス、左様ナコトガ公平ニ行カナイ、ヤレナイト云フヤウナ所ハ、又ハ是改正法ニ依ツテ物件稅ヲ賦課スルト云フコトモ已ムヲ得ナイト思ヒマスガ、其ノ自治體ノ經營上全般ニ互リマシテ其ノ制度ノ方宜シイト云フコトデアレバ、此ノ法律ニ於テソレガ出來ルカドウカ、勿論ハ條例ヲ拵ヘマシテ監督官廳ノ許可ヲ受ケナケレバナラス問題デアリマスガ、住民稅ト此ノ所得割ト二本建デ行ク、サウシテ物件稅ハ課ケナイ、斯ウ云フヤウナコトガ此ノ法律ニ於テ條例ヲ制定スレバ出來ルカドウカ、此ノ點モ出來ルナラ出來ル、出來ナイナラ出來ナイト云フコトヲ御答辯願ヘレバ結構デゴザイマス

○**狹間政府委員** 戸數割ニ付キマシテハ色ノ弊害ガアリマスノデ、今回之ヲ廢止スルコトニシタノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ理由等ヲ述ベルコトハ避ケテ置キマスガ、今回ノ市町村民稅ニ於キマシテ、今御述ベニナリマシタヤウナ課稅標準ヲ所得ニ取ルト云フヤウナコトハ無論各市町村ノ自由デ出來ルコトデアリマス、但シ住民稅ヲ課シ且又所得割ヲ取ルト云フコトハ是ハ認メラレマセヌガ、市町村民稅ノ課稅標準ヲ所得ニ求メルト云フコトハ、各市町村ガ課稅標準ヲ如何ニ決定スルカト云フコトガ自由ニナツテ居リマスノデ、其ノ手段ヲ取ルコトガ出來ルト思ヒマス

○**宮本委員** 甚ダ駄目ヲ押サユデアリマスガ、極端ナコトヲ申上ゲマスト、市町村ノ獨立稅ト云フモノハ——住民稅ハ是ハ差支アリマセヌガ、其ノ他ノモノハ、假ニ課稅スル物件ガナイトスレバ住民稅以外ハ全然收入ガナイ、實例ニハ左様ナコトデアリマセヌケレドモ、假定シテ議論致シマスレバ左様ナコトモ考ヘラレル、サウ云フヤウナ場合ニハ住民稅ト云フモノヲ從來ノ戸數割ノ調査ノ資産ノ狀況等ヲ參照シテ、其ノ他ノ國稅以外ノ所得ヲ調査シテ、ソレヲ標準トシテ一ツノ制限ヲ設ケテ之ニ課スル、私ハ左様ナ建前ニ於テ市町村稅ハ今回改正セラレルダラウト思ツテ居ツタ、左様ナ意見モ內務省ノ内ニモ一部アツタノデハナイカ、其ノ程度位マデハ研究セラレテ、進ンダ所ノ新シキ御方針ヲ採ラレルデハナイカト思ツテ居ツタノデアリマスガ、左様ナコトニ行カナカツタト云フコトハ、マダ——內務省ノ方ガ——失禮デアリマスケレドモ、自治體ノ實情ノ御研究ガ足リナイ、國稅ニ於テハ或ル程度ノ制限ヲ付ケテ所得稅ナリ營業稅ヲ取ル、是ハマア宜シイ、其ノ制限以下ノモノニ對シテ或ル制限ヲ付ケテ、物件稅ヲ廢メテシマフト云フコトガ一番宜イデヤナイカト思ヒマス、是ハ御研究ニナレバ、自轉車ニ付テ一臺幾ラト云フヤウナ均一稅ヲ取ルヨリモ、ソレガ私ハ一番理想的デアツテ、又實情ニ於キマシテモ一番宜シイト思フ、住民稅ハ自ラ制限ガアリマスカラ、此ノ住民稅ヲ計上致シマシテ、ソレ以外ノモノハ住民稅ノ標準ニ依ツテ制限ヲ六割ナラ六割ト云フコトニ決定シテ、ソレガ出來得ルト云フコトニ今回ノ改正案ガ解釋ガ出來マスレバ、左様ナ運用方法ヲ設ケラレルコトニ付キマシテハ、是ハ決シテ出來ナイコトハナイ、極端ニ申シマスレバ、住民稅以外ノ物件稅ヲ課セルモノガナケレバ、住民稅ダケノ收入シカ獨立收入ハ得ラレナイ、斯ウ云フ點カラ御伺致シタ譯デアリマスガ、住民稅ヲ課ケレバ所得割ト云フヤウナモノハ出來ナイ、是ハ營業稅トカ國稅ニ依ル所ノモノハ、全然法律ニ據ツテ取扱フシテ行クヨリ仕方ガナイ、其ノ免稅點以下ノ者ノ所得ヲ、現在ノ戸數割ヲ課ケテ居ルヤウナモノヲ調査シテ、之ニ應分ノ、極メテ低イ程度ノモノヲ課セルト云フコトガ、今回ノ改正法律ノ運用上ニ於テ出來レバ、自治精神ノ運用上ニ付キマシテモ、又公民ヲ指導スル點ニ付キマシテモ、極メテ妙味アル方法デハナイカト存ジマス、是ハ意見ノ相違ニナリ

マスカラ此ノ程度ニ對シテ置キマス

ソコデ住民税ニ付キマシテハ屬ニ質問ガ
出マシテ、私モ皆様ノ御意見又御答辯ヲ拜聽
シテ居ツタノデアリマスガ、唯茲ニ一點伺
ツテ置キタイコトハ、四圓、六圓、八圓ト三階
級ニ分ケテ越旨カラ致シマシテ、最高千圓
ト云フノガ、四圓ノ納稅義務者ノ平均カラ
行キマス二百五十戸ニナル、六圓ノ方ハ
百六十六戸餘ニナリ、八圓ノ方ハ百二十五
戸ト云フコトニナル、故ニ三階級ニ分ケテ
趣旨カラ見マスルト、武田サンカラモ斯様
ナ質問ガ出タヤウデアリマスガ、四圓ノ二
百五十戸分ノ千圓ガ妥當デアラウト云フコ
トデアレバ、ヤハリ二百五十戸分ト云フ割
合ヲ六圓ニ適用シ、八圓ニモ適用スルコト
ガ妥當デハナイノデアリマスガ、サウ致シ
マセスト四圓、六圓、八圓ト三階級ニ分ケ
タ趣旨ガ何處ニアルカ分ラナイト思フ、此
ノ點如何デアリマスカ

○三好政府委員 市町村民税ノ最高千圓ノ
制限ノ問題デゴザイマスガ、是ハ八圓、六
圓、四圓ト分ケテ、團體毎ニ所得ノ多イ者
ガ同ジ割合デ、同ジ數デ居リマスルナラバ
御説ノヤウナ場合ガ起リマス、此ノ八圓、
六圓、四圓ト平均ノ制限ニ段階ヲ付ケナケ
レバナラヌ實體ガ何處ニアルカト云フト、
結局千圓或ハ八百圓ト云フ風ナ高額ナ稅ヲ
課セラレル人間ガ、大都市、都市等ニ於テ
ハ澤山居ルト云フコトデゴザイマス、隨ヒ
マシテ假ニ八圓ヲ取リマス大都市デ千圓ヲ
課セラレル者ガ町村ニ比較シマシテ倍居ル
ト云フコトニナレバ、ヤハリ二百五十戸ト
フ割合ハ同ジニナツテ來ル譯デアリマスガ
ラ、ソレガ澤山居ルカ居ナイカト云フコト
ノ認定ノ問題ニナルカト思ヒマス

○宮本委員 モウ重ネテ申上ゲマセスガ、

私ハ左様ナ意味デアレバ、町村ハ四圓デ大
都市ハ八圓デアアル、此ノ建前カラ行キマス
ト寧ロ八圓ノ方ガ二百五十戸デアルト云フ
反對デ行ケバ一應ノトスルコトニナリマス、
四圓、六圓、八圓ト云フ三階級ニ分ケテ、
四圓ノ方ガ二百五十戸、八圓ノ方ガ二百
五十戸、是ガ反對ニナレバ宜シイ、一戸平均額
ノ四圓ノ方ハ幾分擔稅力ガ平均シテ低イト
云フコトモ、三階級ニ分ケタ一ツノ理由デア
ラウト思フ、サウナレバ反對デス、故ニ此ノ
一戸平均額ノ二百五十戸分負擔スルト云フ
コトガ明ニナツテ居リマセスガ、二百五
十戸分ト云フコトガ、八圓ノ二百五十戸分
ナラバ若干意味ガアル、何カ是ハ立法當局
ノ御考達ヒデナイカト思ヒマスガ、是レ以
上ハ議論ニナリマスカラ此ノ問題ハ此ノ程
度ニ止メテ置キマス——ソレカラ文部省ノ
方ハ見エマシタカ

○小倉委員 見エテ居リマスカラドウゾ
願ヒマス

○宮本委員 ソレデハ是ハ内務省ト兩方ニ
關係ヲ持ツテ居リマスカラ、ドチカラ御
答辯ヲ願ツテモ宜シイノデス、今回ノ教員
俸給ヲ府縣支辨ニ致シマシタ根本意義ハ何
處ニアリマスガ、ソレヲ先ニ御伺致シマス
○狹間政府委員 小學校教員ノ俸給費ヲ道
府縣ノ負擔ニ移管致シマスコトハ、教育上ノ
理由ト財政上ノ理由ト兩方面ガゴザイマシ
テ、私ヨリ財政上ノ理由ヲ申上ゲテ置キタ
イト思ヒマス、御存ジノ通り教員俸給ハ町村
ノ歳出ノ中デ相當ノ部分ヲ占メテ居リマシ
テ、而モ年々數百萬圓ヲ増加スルト云フ膨
脹ノ非常ニ大キナ經費デアリマス、斯ウ云
フ經費ヲ財政力ノ弱イ町村ノ支辨ト致シテ

置クト云フコトハ、將來市町村ノ財政ヲ壓

迫スルコトニナル、其ノ結果トシテ又町村
ノ負擔ノ過重ヲ來ス、同時ニ各地域ノ間ニ
於キマシテ負擔ノ不均衡ヲ來スト云フコト
ニナル譯デアリマス、斯ウ云フ關係カラ見
マス、財政力ノ強イ府縣ノ負擔ニ移シテ
置キマスコトハ、地方財政ノ跛行狀態ヲ是正
スルコトガ出來ルノト、ソレカラ一面小學
校教育費ト云フモノヲ、是ハ國ノ事務ト地
方ノ事務ト相關シタ經費ト見ラレルノデア
リマスカラ、此ノ負擔區分ヲハツキリト致
シマス爲ニ、國ガ一部分ヲ負擔シ、府縣ガ
一部分ヲ負擔シ、市町村ガ又一部分ヲ負擔
スル、斯ウ云フ風ニ負擔區分ヲハツキリスル
ト云フノガ、今回小學校教員俸給費ヲ市町
村費ヨリ府縣費ニ移シタ財政上ノ理由デア
リマス

○宮本委員 其ノ御答辯デ一層疑問ヲ深ク
致シタノデアリマスガ、現在教員俸給費ガ
一億三千百萬圓ト聞イテ居リマス、之ヲ國
庫ニ於キマシテハ御承知ノ如ク八千五百萬
圓負擔シテ居ル、將來學級ガ毎年殖エテ參リ
マシテ、隨テ教員數モ殖エルコトハ當然デア
リマシテ、毎年何百萬圓ト云フ程度ニ俸
給費ガ殖エルコトト存ジマスガ、其ノ増加ニ
伴ヒ、半額ハ國庫ガ負擔スルノデアリマス
カラ、是ハ國ノ財政トシテ姑ク措キマシテ、
其ノ半額ヲ府縣費ニ於テ支出スルト云フ其
ノ府縣ノ財源ハ、是ハ色々ノ財源ガ綜合セ
ラレルコトト考ヘマスガ、其ノ増加スルモ
ノニ對スル府縣ノ財源ヲ此ノ稅法ニ於キマ
シテ何處ニ目標ヲ持ツテ居ラレルカ
○狹間政府委員 此ノ點ハ屢、申上ゲテ居
ルノデアリマスガ、將來ノ稅制ノ持ツ彈力
性ニ依リマシテ、將來ニ於ケル負擔増ニ對

應スルト云フコトニ考ヘテ居リマス

○宮本委員 私ハ今回ノ稅法ノ改正ハ、自
治體ノ財政ガ鞏固デナイカラ、將來之ヲ強
化スルト云フコトガ一ツノ目的デアアル、又
府縣ニ於キマシテモ左様ナ意味ガ十分含マ
レテ居ル、教員俸給ヲ府縣費ニ於テ半額負
擔スルト云フコトニ於テハ、將來毎年増加
スルト云フコトハ分リ切ツテ居ル、此ノ分
リ切ツテ居ルモノモ、府縣ノ財政力ヲ此ノ
法律ノ改正ニ依ツテ強化シテ差支ナイヤウ
ニスル、斯ウ云フノナラバ、一步進シテ府
縣ノ財政ヲ強化スルト同時ニ、市町村ノ財
政ヲモ強化スル、此ノ法律ノ改正ヲ今一步
進メテ其ノ運用ヲ圖リマシテ、サウシテ市
町村支辨ト云フコトニシテ置イテモ差支ハ
ナイノデハナイカ、斯ウ云フコトガ言ヘル
ト考ヘマス、財政關係以外ニ、府縣費支
辨スルコトガ教員ノ素質モ向上セラレル、
又現在小學校ノ經營ガ財政關係ニ於テ各町
村ノ自由ナ立場ニ置カレテアル爲ニ、學級
ノ編制等モ、或ル町村ニ於テハ七十名以上
ノ學齡兒童ヲ法定數マデ一學級ニスル、又
擔稅力ノ豐富ナル町村ニ於テハ七十名ヲ一
寸超エタ位デモ二學級ニスル、ソコニ小學
校教育ノ效果ニ非常ナ不公平ヲ生ズル、故
ニ左様ナコトノナイヤウニ劃一的ニ小學校
教育ノ監督指導スル、故ニ此ノ教員俸給ヲ
府縣費支辨ニスルコトハ左様ナコトガ目的
デアルト云フコトデアレバ、一應其ノ意義
ハ諒解ガ出來マス、地方團體ノ財政力ガ惡
イカラ、今マデハ財政狀態ガ洵ニ宜クナイ
カラ、之ヲ強化シテ一層自治體ノ經營ヲ全
國ノニ指導監督スルト云フナラバ、財政問
題ハ離レテ居ル、是モ一ツノ理窟ニナルカモ
知レマセスガ、内務大臣モ左様ナ答辯ヲセ

ラレテ居ル、教員俸給ノ支拂ノ出來ナイヤ
ウナ自治體ガ今マデアツタカラ、サウ云フ
ヤウナコトヲ無カラシムル爲ニ之ヲ府縣費
支辨ニスルト云フコトガ主ナル改正ノ意味
デアレバ、今度ハ府縣ノ財政ヲ強化スルニ
止マラズ、一步進シテ自治體ニモモウ少シ
財源ヲ與ヘルヤウニシテ、之ヲ自治體ノ支
辨ニスレバ宜イデハナイカ、斯ウ云フ理窟
モ言ヘルコトニナルト存ジマス、併シ私ハ
モウ少シ外ニ此ノ教員俸給ノ府縣費支辨ニ
シタト云フコトニ付テハ、根本意義ガナケ
レバナナイト思フ、是ハ文部省ノ方カラ
御答辯ヲ願ヒタイ

○中野政府委員 只今地方局長カラ財政上
ノ理由ヲ述ベラレマシタガ、教育上ノ理由
ニ付キマシテ私カラ申上ゲマス、他ノ機會
ニ於テ文部大臣カラモ度々申述ベラレタト
思ヒマスガ、尙ホ簡單ニ申上ゲマス、教育
上ノ意義ニ付キマシテハ、第一教員ノ異動
ヲ行ヒマス場合ハ、御承知ノ通り府縣知事
ガ此ノ異動ヲ行フノデアリマスガ、教員俸
給ガ市町村ノ豫算ニ計上サレテ居リマスノ
デ、就中町村ニ於キマシテハ其ノ町村ノ豫
算ニ拘束セラレマシテ、適材適所主義ガ十
分ニ發揮出來ナイト云フ點ガ一ツ、ソレカ
ラ第二ノ點ハ、御承知ノ通り町村ノ財力ニ
非常ナ差等ガアリマスノデ、財力ノ豊カナ
町村ニ勤務シテ居リマス教員ト、財力ノ裕
カナラザル町村ニ勤務シテ居リマス教員ト
ノ間ニ於キマシテ、非常ナ待遇上ノ差等ガア
ル、其ノ結果、或ル町村ニ於キマシテ最モ
優良ナル教員デアリ、且ツ町村ノ當局トモ
折合ガ非常ニ宜シイ、小學校教育以外ニ各
方面ノ仕事ニモ大イニ努力シテ居ル、町村
デモ永ク居ツテ貰ヒタイ、本人モ永ク其ノ

町村ニ勤務シタイト云フ者ガ、町村ノ財政
ニ拘束セラレマシテ非常ニ不利ナコトニナ
ル、同僚デ他ノ裕カナ町村ニ勤務シテ居リ
マス者ハドン／＼俸給ガ上ル、然ルニ其ノ
教員ハ何時マデ經ツテモ上ラヌト云フコト
ニナリマスルト、勢ヒ財政ノ餘裕ノアル町
村ヘ其ノ教員ヲ異動セシメナケレバナラナ
イト云フヤウナコトガ起ルノデアリマシテ、
其ノ點ハ教員ニ對シテモ町村ニ對シテモ非
常ニ遺憾ナコトデアリマスシ、教育上カラ
考ヘマシテモ非常ニ遺憾デアル、サウ云フ
點ガ府縣ノ負擔ニナリマスルト是正サレル
ト云フコトニナリマス、隨テ町村ノ財政力
ノ如何ニ拘ラズ、或ハ都會地ニ居リマシテ
モ山間僻地ニ居リマシテモ、或ル程度マデ
其ノ待遇均等ニ爲スコトガ出來ルト云フ
點デアリマス、モウ一ツ御考ヲ願ヒタイト
思ヒマスコトハ、假ニ比較的財力ノ裕カナ
町村ニ勤務シテ居リマス教員ニ付キマシ
テハ、別ニ現在ニ於キマシテモ大シテ不都
合ハナイト致シマシテモ、御承知ノ通り非
常ニ多勢ノ教員ガ居リマス學校或ハ町村ト、
極ク少數ノ教員ノ居リマス學校若クハ町村
ト、假ニ平均給ガ同額デアルト致シマシテ
モ、人數ノ多イ方ガドウシテモ融通ガ付キ
マスノデ、比較的高給者ガ置キ得ルト云フ
現狀デアリマスガ、ソレガ町村カラ更ニ縣
ヘ廣イ範圍ニ入リマスド、假ニ平均給ヲ現
狀ヨリモ上ゲマセズ現狀ノ儘デアリマシ
テモ、ソコニ非常ニ融通ノ範圍ガ廣クナル、
隨テ昇給ノ機會モ多クナル、又比較的高給
ナル教員モ置ケルト云フコトニナリマス、
隨テ從來ノヤウニ尙ホ働キ盛リノ教員デア
リナガラ、比較的俸給ガ早ク上ツタ、高給
ニナツテ居ルト云フ爲ニ退職シナケレバナ

ラナイト云フヤウナ遺憾ナ事モ避ケ得ルト
思フノデアリマス、斯ウ云フ風ニナリマス
ルト、教員ガ非常ニ現在ノ自分ノ任地ニ就
キマシテ安心ヲシテ教育ニ從事スルコト
ガ出來ル、何トカシテ財力ノ裕カナ町村
若クハ都市ニ轉任シタイト云フヤウナ氣
持ガナクナリ、現在ノ地位ニ安ジテ專
心シテ教育ノ事ニ從事スルコトニナリマ
スノデ、其ノ教育上ニ及ボス好イ結果ト
云フモノハ相當期待シ得ルト思フノデアリ
マス、尙ホ先程御述ニナリマシタ俸給不拂
ト云フヤウナコトモ、是ハ府縣ガ教員俸給
ヲ負擔致シマス以上、先ヅ起リ得ナイコト
ト考ヘマスノデ、教員ノ生活ノ安定ト申シ
マスルカ、生活ニ對スル不安ヲ除クト云フ
コトニモナリマシテ、氣分が大イニ明朗闊
達ニナル、隨テ教育ニ専心從事スルコトガ
出來ル、斯ウ云フヤウナ非常ナ利益ガアル、
斯ウ考ヘルノデアリマス

○宮本委員 教員ノ俸給ノ不拂ト云フヤ
ウナコトモ御答辯ノ中ニアリマスシ、他ノ
委員ノ方ノ質問ニ對シマシテモ文部大
臣、内務大臣カラモ左様ナコトヲ聞イテ居
リマスガ、ソレハ何ニモ御答辯ノ意味ヲ成
サナイ、今回ノ稅制改正ニ於テ市町村ノ財
政力ガ薄弱デアルカラ、色々ナ制度ヲ作り
マシテ財政力ヲ鞏固ニスルト云フコトデア
リマスガ、左様ナコトハ答辯ニナラナイノ
デス、之ヲ府縣費ニスルト云フコトニ於テ、
唯昇給ノ途ガ早イトカ、待遇上ト云フヤ
ウナ物質上ノ待遇モ必ズシモ必要デハナ
イ、是モ無論センケレバナラナイガ、併シ
ソレ以外ニ教育ノ效果ヲ如何ニシテ擧ゲル
カト云フ所ニ根本意義ガナケレバナラナイ
ト考ヘマス、ドウモ文部省ノ監督ノ方針ハ
物質ト云フコトヲ先ニセラルルヤウデス
ガ、寧ロ教員ノ養成ニ付キマシテハ、モウ
少シ精神力ノ涵養ト云フコトニ重キヲ置ク
ヤウニ、文部省トシテハ御考ヲ願ハナケレ
バナラヌト思フ、教員ガ自ら進ンデ精神力
ニ重キヲ置カズシテ、ドウシテ兒童ノ精神
力ヲ涵養スルコトガ出來ルデアラウカ、國
民精神總動員中央聯盟ノ人々ナドガ地方ニ
講演ニ參リマシテ、頭髮ヲ長クセズ坊主刈
デナケレバナラヌト言ツテ講演シマシテモ
講演者自身頭髮ヲ長クシテ「チック」ヲ付ケ、
髮ヲ分ケテ居ツタノデハ何ノ效果モナイト
同様デアル、學校生徒ニ對シテ日ノ丸辨當
ヲ持ツテ來ナケレバナラヌト云フ教員自身
ガ、汽車通學ヲシテ汽車辨當ヲ買ツテ來テ
一段高イ所デ食ベナガラ、兒童ニ日ノ丸辨
當ヲ勸メマシテモ、是ハ先生ノ精神力ガ足
リナイカラ效果ガナイ、勿論物質モ必要デ
アルケレドモ、モウ少シ精神力ト云フコト
ニ重點ヲ置カナケレバナラナイ、無論從來
教員俸給ノ不拂ト云フコトモアツタデセ
ウ、ソレヲナクスルコトノ必要ナコトハ當
然デアリマスガ、ソレト同時ニ教職ニ當ル
者ニモウ少シ精神力ヲ持ツヤウニ御指導願
ヒタイト思ヒマス、更ニ伺ヒタイコトハ、
先刻モ申シマシタ通り現在ハ學校建築ニモ
財源ガナイ、又學校經營上ニ於テモ學級ヲ
殖ヤスコトハ出來ナイト云フ町村ガ大分
アリマシテ、七十人以上、即チ法定數ノ八
十名近ク一學級編制ニシテアル町村ガ大
分アルト思フ、ソレガ今度府縣費支辨ニナ
ルト、擔稅力ノアル町村ト同様ナ學級編制
ヲ希望スルコトハ當然デアル、校舍ノ設備
ガナイカラ仕方ガナイデヤナイカト云フコ
トニナレバ已ムヲ得マセヌケレドモ、併シ兒

道ニ對スル教育ノ效果ヲ均霑ナラシメルト云フ點カラスレバ、一學級ノ編制モ、擔稅力ノアル町村ダカラト云ツテ三十五名トカ四十名ト云フコトデ行ク譯ニハ行カナイト思フ、斯ウ云フ關係ニ於テハ學級數が大分殖エルデアリマセウシ、又殖ヤシテ小學校教育ノ均霑ヲ圖ルヤウニ考慮モシナケレバナラヌコトデアルト思フ、モウ一ツハ財政力ノ關係ヨリ致シマシテ代用教員ヲ使ツテ居ル所ガ相當アル、是ハ平均給ガ低イカラ仕方ガナイ、所ガ是ガ府縣費支辨ニナリマス、正教員ノ配當ヲ要求スル運動ガ非常ニ盛ニナルト思ヒマス、之ニ付テハ正教員ノ養成モ大分積極的ニヤツテ居ルデアリマセウカラ、ソレハ假ニ配當ガ出來ルト致シマシテモ、其ノ半面ニ於キマシテ府縣ノ負擔ガ非常ニ是ガ爲ニ増加シハセスカト思ヒマス、是等ノ御調査ハ出來テ居リマスカ、又此ノ扱ヲドウ云フヤウニスルカト云フコトニ付テ御意見ヲ伺ヒタイ

○中野政府委員 教員ノ精神の方面ノコトデアリマスガ、是ハ文部大臣ガ度々述べテ居ラレマス、教員ノ待遇ガ惡イカラモツト良クシナケレバイカヌデハナイカト云フヤウナ御質問ニ對シマシテ、無論待遇ノコトモ考ヘナケレバナラズガ、教員ハ大イニ精神のニ働カナケレバナラヌト云フコトヲ度度述ベラレマシテ、場合ニ依リマシテハ、文部大臣ハドウモ精神のノ事バカリヲ言ツテ居ツテ、物質のノ事ヲ言ハナイガ、ソレハ餘リ同情ガナイト云ツテ御叱リヲ受ケタコトモアル位デアリマス、無論只今ノ御話ノ通りニ、精神の方面ハ大イニ昂揚セシメナケレバナラナイト考ヘテ居リマス、ト同時ニ物質の待遇ノ方モ出來ルダケ考ヘナケ

レバナラヌ、斯ウ云フ意味デ申上ゲタ積リデアリマス

今ノ教員俸給ヲ道府縣費ニ移管致シマシテモ、教室ノ設備等ニ付キマシテハ、是ハ依然トシテ市町村ノ負擔デアリマスカラ學級増加等ニ伴フ建築費、或ハ一學級ノ定員ノ問題等ニ付キマシテハ、町村ノ負擔トシテ殘ル部分ガ多イガ、是ハドウカト云フ御尋デアツタデアリマス、是ハ財政上ノ問題ニモ關聯致シマスノデ、私ダケ申上ゲテモドウカト思ヒマスガ、教員ノ俸給ハ年々全國的ニ見マスと數百萬圓増加致シテ參リマス、隨テ將來數百萬圓増加致シマス教員ノ俸給ガ、府縣ニ移リマシタナラバ、少クトモ將來ノ市町村ノ負擔ノ加重ト云フコトガ避ケラレル、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、是ハ財政ノ方面ニ付テハ素人ノ文部省達ツテ居リマシタナラバ、内務省ノ方面カラ御訂正ヲ願ヘバ宜イト思ヒマス、隨テ直チニソレダケ餘裕ガ出來ルト言ヘルカドウカ分リマセヌガ、此ノ學級増加ニ伴フ所ノ費用、或ハ學校建築ニ要スル所ノ費用ニ付キマシテ、直チニ其ノ財源ガ十分ニ浮シデ來ルトハ申セナイデアリマセウケレドモ、現在ヨリモ町村ガ樂ニナルデアアラウト云フコトヲ、文部省ニ於テハ想像致シテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ現在ハ其ノ町村ノ財政力ニ於キマシテ、學校ノ設備等ニ非常ナ差等ガアリマス、或ハ學級ノ編制ニ付キマシテモ非常ナ差等ガアル、教員ノ素質ニ付キマシテモ非常ナ差等ガアル、是ガ教員俸給費ノ道府縣費移管ニ依リマシテ、直接間接ニ色々影響ヲ齎シマシテ、教員ノ素質ニ付キマシテモ漸次均等化ノ方向ニ向

ツテ行ク、學校ノ設備ニ付キマシテモ、漸次現在ノ惡イ所ガ比較的良クナツテ行クト云フヤウナコトヲ期待致シテ居ルノデアリマス、ソレカラ道府縣費ニ教員ノ俸給ガ移管セラレマシタ結果、現在ノ代用教員ヲ正教員ニ替ヘテ貰ヒタイト云フ希望ガ、町村方面カラ府縣當局ニ對シテ爲サレルト云フコトハ、只今御説ノ通り豫想致シテ居リマス、是ハ無論府縣ノ財政ノ許ス範圍ニ於テ爲サレルコトデアリマスガ、文部省ノ立場トシテ考ヘマスナラバ、代用教員ガ漸次正教員ニ替ツテ行クト云フ傾向ハ、非常ニ喜バシイ傾向ダト思フノデアリマス、併シナ

ガラ是ハ府縣ノ財政ニ關係ガアリマスノデ、府縣當局ニ於キマシテ其ノ財政ノ許ス範圍ニ於キマシテ、漸次教員ノ素質ヲ改善スルト云フ方法ヲ執ルヨリ外ニナイト思フノデアリマシテ、其ノ爲ニ直チニ府縣ノ財政ガ壓迫サレルトカト云フコトハ、是亦文部省トシテハ素人デアリマスガ、先ヅナイノデハナイカ、斯ウ云フヤウニ考ヘテ居リマス學級編制ニ付キマシテモ、是ハ只今前段ニ御答辯申上ゲマシタ通りニ、直チニ改善サレル、即チ現在ノ定員ヲ超過シテ居ル所ガ直チニ解消スルト云フ風ニハ考ヘマセヌガ、併シ漸次ソレガ定員以內ニ收マルト云フヤウナ方向ニ向ツテ行クノデハナイカ、斯ウ云フ風ニ期待致シテ居リマス其ノ理由ハ、只今申上ゲルヤウニ教員俸給費ガ道府縣ニ移リマスコトハ、是ハ將來ニ對シテ町村財政ノ負擔加重ト云フモノヲ除クノデアリマス、直チニソレニ依ツテ非常ナ餘裕ガ出來ルト云フコトハ、或ハ言ヒ過ギカモ知レマセヌガ、少クトモ餘裕ガ出來ル可能性ガアル、斯ウ云フ風ニ考ヘマスノデ、町村ノ財政ニ餘

裕ガ生ジマシタナラバ、ソレニ依ツテ漸次設備ノ改善、隨テ學級ノ増加モ圖リ得ルコトニナルノデハナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○小山委員長 一寸御注意申上ゲマスガ、此ノ問題ハ度々繰返サレタ問題デアリマスカラ、御意見ハ餘リ御加ヘニナラズニ、疑問ノ點ダケヲ御質問下サルト大變結構デアリマス

○宮本委員 御注意ノ點ハ能ク分リマシタ、成ベク私ハ意見ヲ申述ベナイヤウニシテ、質問ヲ致シテ來タ積リデアリマス、少シハ意見ヲ申上ゲナイト、質問ノ要旨ガ徹底シマセヌカラ、一寸意見ヲ加ヘタノデアリマスガ、モウ是デ終リマス

今色々御答辯ヲ伺ヒマシタガ、現在財政力ノ薄弱ナ町村ニ於キマシテハ、已ムヲ得ズ一學級七十名以上ト云フコトニナツテ居リマスガ、是ハ教育ノ效果ノ上ニ於テ、甚ダ遺憾デアリマスケレドモ、財政力ノ關係カラ左様ナコトヲヤツテ居ル、今度府縣費支辨ニ致シマシテ、負擔區分ヲ、國庫ト府縣トノ間ニ半額ト云フコトニセラレテ居ル、ソレニハ斯ウ云フ學級編制ノ町村ヲ指導シテ一學級ニサセルト云フコトモ其ノ目的ノ一ツデアルト思フ、實際一學級七十名以上ト云フコトデハ如何ニモ教育上ニ於テ不便ガアルシ、隨テ教育ノ效果ニ影響スルト云フコトヲ考ヘラレタノデ、之ヲ二學級ニサセルベク指導スルト云フ建前デ行カナイト、洵ニ此ノ府縣費支辨ニシタト云フコトガ意義ヲ成サナイト思ヒマス、府縣費支辨ニスルト同時ニ、國民教育ノ效果ヲ擧ゲルト云フ御方針ヲ執ラレナケレバ、甚ダ從來資力薄弱町村ノ經營上ニ於テ、不幸ナル學齡兒童デアアルノデアリ

マス、ソレ故ニ之ヲ不幸デナイヤウニ、國民教育ノ均衡ヲ圖ルト云フコトガ、今回府縣費支辨ニシタコト云フコトノ意義デナケレバナラスト思フノデアリマス、政府ニ於テモ左様ナ方針デオヤリニナルコト存ジマスカラ、之ニ付テハ御答辯ヲ願ハナクテモ宜シウゴザイマスガ、是非ハ左様ナ方針ノ下ニ實施セラレルヤウニ、特ニ文部省トシテ御考慮ヲ願ヒマス

次ニ住民稅ニ付テ一寸聽キ漏ラシマシタカラ此ノ際御聽キシテ置キマス、住民稅ノ制限ノコトハ能ク分ツテ居リマスガ、災害或ハ傳染病等ノ非常災害ニ依ル所ノ制限外ノ課稅ヲスル場合ニハ、住民稅ノ制限ニ付テモ同一比率ニ於テ制限外ノ課稅ヲ認メルヤ否ヤト云フコトニ付テ一點伺ヒマス

○挾間政府委員 住民稅ニ付キマシデハ、制限外課稅ハ全然認メナイ積リデアリマス

○宮本委員 甚ダ御約束ノ時間ヲ超過致シマシテ申譯アリマセスガ、一應此ノ程度デ質問ヲ打切ツテ置キマス

○小山委員長 伊藤五郎君

○伊藤委員 此ノ地方稅制改正ノ根本ノ目的トスル所ハ、地方稅負擔ノ均衡ト、地方團體財政ノ基礎ヲ確立スルコトニアルヤウデアリマス、其ノ中一番先ニ御質問申上ゲタイコトハ、此ノ地方稅改正案ニ付テ見マスルト、分與稅トシテ地租、家屋稅及營業稅ノ三ツノ獨立財源ヲ認メタコトデアリマス、私ガ先ゾ御同致シタイノハ一體今日地租ト云フモノハ、稅源トシテ最も弱イモノデ、之ヲ地方團體ノ獨立財源ニ認メルコトハ、私ハ地方稅源ヲ確保スル所以デハナイト思フノデアリマス、私ハ國稅タル地租ニ付テハ一番疑問ニ思ツテ居ルノデスガ、地租

ト云フモノハ將來廢止ノ運命ニアルノデハナイカト思ヒマス、明治ノ初年ニ於テハ地租ハ我國ニ於テ財政ノ主ナル財源デアツタケレドモ、今日ハ最早ハ稅源トシテ一番弱イモノニナツテ居リマス、是ハ我國ダケデハナク、世界ノ各國ニ於テハ悉ク國稅タル地租ヲ廢止シテ居ルノデス、英吉利ダケガ稍、殘ツテ居リマスケレドモ、是モ近イ將來ニ於テ地租ヲ廢止スルコトニ相成ツテ居ルサウデアリマス、將來ドウシテモ沒落過程ニアル地租ヲ地方財源ノ獨立財源ニ持ツテ行ツタコトハ、私ハ根本的ニ間違ツテ居ルト思フノデアリマス、營業稅ニ付テ見マス

營業ハ今日ノ如キ「インフレ」時代ニ於テハ或ハ盛ンニヤツテ居ツテ、稅源モ或ル程度確保出來ルカモ知レヌト思フノデアリマスケレドモ、「インフレ」景氣ガ逆轉シテ、營業ガ萎靡沈滞ニ陥ツタ場合ニ營業者ハ一番打撃ヲ受ケテ、其ノ結果稅源ニモ非常ナル影響ヲ及ボスモノト思フノデアリマス、家屋稅モ亦決シテ善イ財源デハアリマセス、斯ノ如キ財源ヲ地方ニ持ツテ行ツタコトハ、一體ドウ云フ意味デセウカ、或ハソレハ大藏省ニ壓サレタノデアルカ、内務省ガ希望シタノデアルカ、私ハ是ハ將來ノ爲ニ洵ニ遺憾ニ思フノデアリマスガ、内務當局ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス

○挾間政府委員 私共ハ此ノ地租營業稅ノ如キハ最も強イ財源デアルト思ツテ居リマス、御存ジノ通り地租、營業稅ヲ地方ニ委讓スルコトハ、年來議會デ非常ニ大キナ問題トサレマシテ、政府當局モ議會ト共同ノ考ヲ持ツテ此ノ問題ヲ研究シテ、漸ク今回之ヲ全部地方ノ獨立財源トスルコトニ成功シタ譯デアリマス、吾々ハ大藏當局ト共

ニ多大ノ熱意ヲ持ツテ、之ヲ地方ニ委讓スルコトニ全力ヲ擧ゲテ致シタノデアリマス、地方ノ財源トシテ今回ノ稅制案デハ地租家屋稅、營業稅ハ地方稅ノ中樞ヲ成スモノデアツテ、殊ニ營業稅ノ如キハ十億三千万圓ノ中二億八千万圓ト云フ大キナ稅源デアリマスカラ、ドウゾ左様御承知ヲ願ヒマス

○伊藤委員 其ノ考ガ間違ツテ居ルノデス、地租ト云フモノハ嘗テハ明治ノ初年カラ日本ノ文化ヲ作ルニ付テ最も強イ稅源デアリ、日本ノ文化ヲ形成スルニ付テ其ノ土臺石トナツタコトハ私モ認メル、ケレドモ今日ハ此ノ地租ノ負擔ノ重課ノ爲ニ農村ハ困ツテ居ルノデス、農村ガナゼ地租ノ負擔ニ困ツテ居ルカト云フト、其ノ割合ヲ調べバ分ル、農村ハ土地ノ負擔ガ一番多イ、世界各國ノ色々ナ例ヲ調べテ見テモ、地租ハ結局將來廢止セラレル運命ニアルト思フノデス、ソレヲ唯漫然ト現在地租ガ強イカラト云ツテ地方稅ニ委讓スルノハイケナイ、勿論土地ニ稅金ヲ課セルノハ取り易イ、ケレドモ取り易イカラト云ツテ漫然ト良イ稅源デアルド考ヘテハイカス、地租ノ稅源ガ強イト云フノハ過去ノコトデス、サウシテ世界各國ガ之ヲ廢止シテ居ル、是ハ御認メニナルデセウ、サウ云フ將來廢止ノ運命ニアル地租ヲ一番良イ稅源デアルト云ツテ、之ヲ地方ニ持ツテ行クコトハイカスデハナイカト

思ヒマス、恐ラク將來稅制改革ガアル場合ニハ地租ハ廢止セラレルト思フ、アナタ方ハ大藏當局ノ御考ト違フカドウカ知りマセヌケレドモ、段々地租ト云フモノハ廢止ノ傾向ニアル、調ベテ御覽ナサイ、明治ノ初年カラサウナツテ居ル、ソレヲ非常ニ良イ財源ダト云ツテ地租ヲ飽クマデモ地方ニ持

ツテ行クコト云フコトハ、考ガ違フノデハナイカ、地租ガ一番良イト云フコトハイカヌト思フ、私ハ地方負擔ノ均衡ヲ圖ル上ニハ、將來ヤハリ地租ハ廢止スルコト云フ所ニ持ツテ行カナケレバナラスト思フ、是ハ日本ダケデナク、世界中何處デモサウナノダカラ、世界ノ傾向ニ順應シテ、地租ハ廢止シテ行クベキデハナイカ、其ノ稅ヲ非常ニ良イ稅源ダト云フ御答辯ハ間違ツテ居ルノデハナイカ、營業稅ニ付テモサウデス、嘗テハ議會ニ於テサウ云フ要望ガアツタカモ知レヌケレドモ、ソレハ時代ガ違ツテ居ル、營業稅ハ今大變澤山ナ稅額ニ上ツテ居ルケレドモ、今ハ景氣ガ好イカラデ、之ヲ土臺トシテ地方ニ色々施設ヲシテ置カナケレバナラストデセウ、併シ若シ「インフレ」ガ逆轉シテ、「デフレーション」時代ニナツテ、非常ニ營業稅、激減シタ場合ニハ、地方ノ施設ハ施行出來ナイヤウニナリハシナイカト云フ虞ヲ持ツテ居ル、ソレヲ現在良イカラ地方ニ持ツテ行クコト云フノハドウデスカ、斯ウ云フ意味ヲ以テ御尋シタノデス

○小山委員長 一寸關聯シマシテ——地租ガ各國ニ於テ廢止サレル運命ニアル、サウ云フ實例ガアルト云フコトデゴザイマスガ、サウ云フ御調査ハ出來テ居リマスガ、全ク變ツタ意見ヲ茲ニ伊藤君ガ發表サレタ譯デアリマスガ、私共モ其ノ點ヲ能ク知りタイノデアリマス、内務省ノ方ノ御取調ハドウデアルカドウカト云フコトヲ付加ヘテ御答ヲ願ヒマス

○挾間政府委員 地租ガ廢止ノ運命ニ各國トモアルト云フ御話デゴザイマスガ、地租ト云フ同ジ形デアルカドウカト云フコトハ、是ハ別個ノ問題トシマシテ、土地ニ對

スル課税が漸次廢止ノ傾向ニアリ、又各國廢止シテ居ルト云フコトハナイト思ヒマス

○三好政府委員 只今ノ地租ノ各國ニ於ケル取扱ノ狀況デアリマスガ、私共ノ取調ベマシタ範圍デハ成程國稅トシテハ是ハゴザイマセヌ、併シナガラ地方稅トシテハ不動產稅、或ハ土地稅トシテ取ラナイ國ハ、小サイ國ハ分リマセヌガ、強國ノ中デハナイヤウニ記憶致シテ居リマス、又之ヲ廢止シナケレバナラヌト云フ議論モ讀ンダコトハゴザイマセヌ

○挾間政府委員 ソレカラ先程ノ御質疑ニ御答致シマスガ、現在ノ景氣ノ好イ時ノ狀態デ、營業稅ヲ抑ヘ、又廢止ノ運命ニアル地租ヲ抑ヘルト云フコトハ詰ラヌデハナイカト云フ御意見デアリマスガ、吾々ハ左様ニハ考ヘテ居ナイノデアリマシテ、御存ジノヤウニ今日マデ國稅ノ中心ハ所得稅デアツテ、ソレニ對シテ地租ト營業收益稅ト云フモノガ大切ナ補完稅トシテアルノデアリマシテ、ソレヲ地方ニ移讓スルコトガ地方ノ財源ヲ強化スル所以デアルト云フコトハ年々主張サレテ居ルコトデアツテ、是ハ決シテ今日ニ始マツタ問題デハアリマセヌ、サウシテ今度ノ稅制改正ニ於キマシテモ、今景氣ノ好イ時ニ營業稅ヲ抑ヘルト云フノデハナクシテ、收益稅ト致シマシテ土地、家屋、營業ト云フモノガ最も有力ナ稅源デアルト私ハ思ヒマス、果シテ之ヲ除キマシテ然ラバ何ヲ抑ヘルカト云フト、此ノ地方稅法ヲ御覽戴キマシテモ分リニナルヤウニ、獨立稅トシテハ極ク微細ナモノデアリマス、他ニ如何ナル稅ヲ取ルカト云フテ考ヘマシテモ、各地方團體ガ稅ヲ漁リニ漁ツテ實ハ適當ナル稅源ノナイコトハ、伊藤サ

シモ十分御承知ヲ戴イテ居ルコトと思フノデアリマシテ、土地、家屋、營業ニ對スル稅源ノ如キハ、地方財源トシテハ私ハ今日ニ於キマシテモ、又將來ニ於キマシテモ有力ナ財源デアルト云フコトニハ變リハナイト考ヘテ居リマス

○伊藤委員 是ハ餘リ議論ニナリマスカラ是レ以上申上ガマセヌガ、地租ニ付テハサウ云フ傾向ニアルノデスカラドウカ御調ヲ願ヒタイト思ヒマス、地租ハ將來各國トモニ廢止ノ運命ニアル、今殘ツテ居ルノハ英吉利ダケダト思ヒマス、併シモヤハリ近キ將來ニ於テ或ル條件附デ廢止スルコトニナツテ居ル、ソレヲアナタ方ガ知ラナイト云フコトハワカシイデスネ、私ノ是カラ申上ガタイノハ地租ハヤハリ日本ニ於テモ將來廢止シナケレバナラヌモノダト思ヒマス、別個ノ意味ニ於テ土地ノ或ル收益ニ付テ稅金ヲ課ケルト云フハ別デスガ、土地其ノモノニ課稅スルト云フ取り方ハ將來廢止シナケレバナラヌト云フ、地租ヲ廢止シナケレバ、本當ニ地方ノ負擔ノ均衡ハ取レナイ、私ハサウ云フ考ヲ持ツテ居ルノデス、私ハ將來ハ斯ウ云フ廢止ノ運命ニアル所ノ地租ヲ、地方ノ良イ稅源トシテ持ツテ來タコトハ一寸御考ガ違フノデアリマスガ、是ハ議論ニヲシタト云フノデアリマスガ、是ハ議論ニナリマスカラ、今日之ヲドウセヨト云フ話デハナイノデス、各國ノ色々ナコトヲ調ベテモ、サウ云フヤウナ傾向ニアルカラシテ一ツ大イニ考究シナケレバナラヌデヤナイカ、斯ウ言フノデス

次ニ私ハ之ニ關聯シテ申上ガタイノハ、配付稅トシテ遊興飲食稅ト入場稅ヲ配付稅ノ稅源ニ持ツテ行ツタガ、是ハ一體非常ニ考

ヘ方ガ違フノデヤナイカト思ヒマス、此ノ配付稅ト云フモノハ一番今度ノ地方稅制改革ノ眼目デアアル、ガカラ配付稅ノ稅源ハ非常ニ立派デ相當額ノ配付稅ヲ地方ニ還元シテヤルト云フ風ニヤラナケレバ、今度ノ地方稅制改革ノ根本目的ハ達セラレナイ、斯ウ云フ大切ナ配付稅ノ稅源トシテ遊興飲食稅ト入場稅ヲ持ツテ行ツタコトハ、內務省ノ認識不足ダト思フ、何故カト云フト、アタタ方ハ遊興飲食稅ト云フ名前デ取ルカ知ラヌガ、此ノ稅ヲ取ルト云フ目的ハ自肅自戒、將來ハ遊興飲食ト云フヤウナコトハ廢メサセヨウト云フノガ一ツ目的デセウ、戰時下ニ於ケル所ノ遊興飲食稅ハ、オ前達ハ遊興ナンカシテハイカヌ、自肅自戒シナケレバイケナイト云フ、一種ノ懲罰的ノ意味ニ於テモ遊興飲食稅ヲ課スルノデハナイカト思フ、サウ云フ風ニ將來國民ガ本當ニ自肅自戒シテ、殆ド遊興シナイト云フ時代ガ或ハ來ルダラウト思フ、日本ノ將來ハ益々難カシク、國民ガ一層緊張シテ、戰爭目的遂行ノ爲ニ舉國一體トナツテ働カネバナラヌ時ガ來ル、何人モ遊興飲食ト云フヤウナコトハシナイト云フ時代ガ來ナケレバナラヌ、又サウ云フ時代ガ來ナケレバ聖戰目的ノ完全ナル遂行ガ出來ナイデヤナイカ、今日ノヤウニ有ユル階級ノ人々ガ自動車ヲ乘廻シテ大ニ遊興ヲヤツテ居ルアノ姿ヲ見テ、私ハ此ノ現狀デ行ツタナラバ日本ノ將來ハドウナルカト云フ考ヲ持ツテ居ル、ガカラ私ハイツモ考ヘテ居ル、遊興、飲食稅ナント云フ名前ハイカヌ、是ハ遊興飲食自肅自戒稅ト云フ名前ヲ付ケナケレバナラヌト云フノガ私ノ持論デアアル、遊興飲食稅ハ懲罰デアツテ、遊興飲食ハ自肅自戒ヲシナケレ

バナラヌト云フ稅目デナケレバナラヌ、斯ウ云フ將來ハ日本全國民ガ自肅自戒シテ中止ノ運命ニアル遊興飲食稅ヲ、地方ノ配付稅ノ稅源トシテ持ツテ來タコト云フコトハ、內務當局ノ考ガ違フノデヤナイカト思フ、將來私ノ考ヘタヤウナ時代ガ來テ、全國民ガ遊興シナイト云フ時ガ來タナラバ、此ノ配付稅ハドウナルカ、稅源ガナクナリハシナイカト思フ、入場稅モサウ云フ意味ニ於テ、地方ニ還元スルニハ最も弱イ稅目デス、本當ニ長期戰ガ續イテ、國民ガ本當ニ緊張シタ場合、活動ヲ見タリ、芝居ヲ見タリ、サウ云フモノニ入ルコトハ本當ニ自肅自戒シナケレバナラヌ、サウ云フ時ガ來ル、又來ナケレバナラヌ、サウ云フ稅源ヲ配付稅ノ最も大切ナ稅源トシテ茲ニ置イタト云フコトハ間違ツテ居ルト思フ、今日ノヤウナ狀態ニ於テハ相當ノ稅收ガアルト思ヒマスガ、聽テ近イ將來ニ於テハ遊興飲食稅モ入場稅モ、殆ド取レナイト云フ時ガ來ルト思フ、サウ云フ時ニナツタナラバ此ノ配付稅ノ稅源ガナクナルノデハナイカ、然ラバ其ノ際ニ於テドウ云フ方法ヲ以テ地方ニ配付スルカ、私ハ之ヲ聽カントスルノデアリマス、サウ云フ時代ガ來タナラバ、此ノ配付稅ノ稅源ノ財源ヲ何處カラ持ツテ來ルカ、コ、コ、コ、今度ノ地方稅制改正ニ於ケル最も根本的ノ缺點ガコ、ニアル、配付稅ノ稅源ガ斯ウ云フ薄弱ナモノデアツテ、是ダケノ配付稅ノ稅源デハ駄目デアルト云フコトガ根本的ノ缺點デアルト私ハ斷ジテ居ル、政府ハ此ノ點ヲドウ御考ニナツテ居ルカ

○挾間政府委員 配付稅ノ稅源ニ付テ色々考究シマシタ結果、所得稅、法人稅ノ外ニ遊

興飲食稅、入場稅ヲ加ヘタノデアリマスガ、決シテ遊興飲食稅ガ懲罰的ノ課稅デハナイト云フコトニ付キマシテハ、他ノ稅制委員會ニ於テ大藏當局カラ縷々説明サレテ居ル通りデアリマス、奢侈重課ノ目的ヲ持ツテ居ルノデアツテ、懲罰課稅デハナイト云フコトハ伊藤サシモ御承知ノ通りガラウト思ヒマス、稅源ノ配分ニ付キマシテハ、所得稅、法人稅ガ大體配付稅ノ八割、遊興稅ト入場稅ヲ加ヘテ、是ガ配付稅ノ二割程度ニナツテ居リマス、政府當局ト致シマシテハ、此ノ配分ヲ以テ地方財政ヲ十分調整スルコトガ出來ルト考ヘテ居ルノデアリマス、成程御述ベニナリマシタ通り、法人稅、所得稅ニ比ベマシテ、安定性ニ多少缺ケテ居ルト云フコトハ、御話ノ點モ一應ハ吾々モ考ヘマスケレドモ、此ノ點ニ付テハ國稅全體ノ關係等モ考慮ヲ致サナケレバナリマセヌシ、吾々ノ研究ヲ致シマシタ結果ハ、今ノ如キ振合ニ於テ此ノ四稅ヲ配付稅ノ財源トスルコトガ適當デアルト考ヘタノデアリマス

○伊藤委員 ドウモ地方局長サンハ一寸御考ガ違ヒハシナイカト思フノデス、私ハ懲罰ダケトハ言ハヌノデス、併シ遊興ハ多少懲罰スルト云フ意味ガアルデセウ、今日ノ非常時下ニ於テ斯ウ云フ稅金ヲ拂フコトハ名譽デスカ、餘リ名譽デハナイデセウ、內務省ニ於テハ所謂國民精神總動員運動ニ參加シテ居ツテ、一面ニ於テ遊興ハ怪シカラス、贅澤ナ物ヲ食ツテハイカス、詰ラナイ活動ヤ芝居ヲ觀テハイカスト言ツテ居ル、之ニハ吾々モ參加シテ居ル、一面ニ於テハ自肅自戒シナケレバナラス、遊興スルコトハ今日ノ國情ニ於テハ國辱デハナイカト云フ考ヲ以テ、堂々タル宣傳ナドヲヤツテ國民精神

ヲ緊張サセテ居ル、其ノ反面ニハ、此ノ遊興飲食稅、入場稅ヲ地方ノ稅源ニ與ヘテ、此ノ稅收ガ多カラシコトヲ希望シテ居ル、是ハ全然チグハグナ、相離反シタ所ノ考デハナイカト思フノデス、結局內務省自體ニ於テモ、將來遊興飲食稅ナドハ少クスルヤウニシナケレバナラスト思フノデアリマス、將來國民ガ本當ニ最小限度ノ、萬已ムヲ得ザル以外ニハ遊興飲食稅ナドヲ拂フコトハ非常ニ不名譽デアルト云フ所マデ徹底シナケレバ、此ノ國難ヲ突破スルコトハ出來ナイト私ハ思ヒマス、吾々ハサウ云フコトヲ願ツテ居ル、內務省ニ於テモ、文部省ニ於テモ、總理大臣ニ於テモサウ云フコトヲ願ツテ居ル、サウ云フ芳シカラヌ稅源ヲ地方ニ還元スルト云フコトガ、抑、私ハ間違ヒダト思フノデス、サウシテ地方ハ此ノ薄弱ナル汚所ノ稅源ヲ本ニシテ、公共的的使命ヲ遂行スル爲ニ學校トカ色々施設ヲシナケレバナラス、サウ云フ財源ヲ最モ良イ財源トシテ地方ニ配付スルト云フコトハ間違ツテ居ルヤウニ思フノデスガ、モウ一度御答辯ヲ願ヒタイ

○挾間政府委員 御述ベニナリマシタヤウニ、此ノ遊興飲食稅、入場稅等ヲ配付稅ノ財源ニ致シマシテ、此ノ稅ノ多カレカシト云フコトヲ希望シテ之ヲ入レタノデハ決シテナイノデアリマス、配付稅ノ稅源トシテ此ノ稅種ヲ選擇シタト云フコトデアアルノデアリマシテ、國民精神總動員其ノ他社會教化ノ立場ニ於テ、遊興ト云フコトガドウナルカト云フ問題ハ、此ノ稅ヲ設定シテ居ルト云フコトハ別個ノ問題トシテ、國民運動トシテ展開シテ行カケレバナラスダラウト思フノデアリマス、稅種ノ選擇ト云フ

コトニ付キマシテハ、別段此ハ稅ヲ益、増徴シテ行カウ、増額スルデアラウト云フコトヲ見越シテ之ヲ入レタ譯デハアリマセヌノデ、先程申上ゲマシタ通り、所得稅、法人稅ト併セマシテ、此ノ四種ノ稅ヲ配付稅トシテ入レルコトガ、先ヅ現在ノ國稅、地方稅ノ全體ノ振合カラ見テ適當デアラウト云フノデ選シタ譯デアリマス

○小山委員長 伊藤君、御議論ノ御趣旨ハ十分政府ニモ徹底シタト認メラレマスカラ、ドウゾ簡單ニ御質問ヲ願ヒマス

○伊藤委員 分リマシタ——兎ニ角弱イ稅源デアアルコトハ私ハ御認メニナルト思ヒマス、私ハ先ヅソコカラ色々質問シテ行キタイト思ヒマス、然ラバ配付稅ノ財源トナル所得稅、法人稅等ニ付テ見ルニ、今日ノ日本ノ現狀ニ於テ此ノ所得ハ最高限ニ達シテ居ル、收入ガ最高限ニ達シテ居ル當時ニ於テハ、所得稅モ、法人稅モ相當ノ稅收ガアルト思フ、併シ是ガ一朝インフレ「カラ」デフレ「ジョン」不景氣ニ逆轉シタ場合ニハ、此ノ所得稅、法人稅ノ收入ハ非常ニ少クナル、其ノ少イ稅收ノ中カラ何分ノ一ヲ地方ニ還元スル、コソヲ能ク聽イデ下サイ、今日ハ財源、收入ガ相當ニアツテ、其ノ幾分ヲ地方ニ配付還元スルカラ、地方ニ於テモ仕事ガ出來ルカモ知レナイガ、近キ將來ニ於テ「デフレ「ジョン」ガ來テ、不景氣ガ來タ場合ニ、稅收入ガ、所得稅ニ於テモ、法人稅ニ於テモ、又ハ遊興飲食稅ヤ、入場稅ニ於テモ、非常ニ少クナルコトヲ豫想シナケレバナラス、今日配付シテ居ル所ノ稅源ノ三分ノ一ニ減少シタト云フ場合モ想像出來ルト思フ、恐ラク近キ將來ニ於テサウ云フコトハアルト思フ、若シ是ガナイト言フナ

ラバ、是ハ全然獨斷デアツテ、恐ラク日本ノ今日ノ景氣ハ最高潮ニ達シテ居ツテ、一番稅收入ノアル時デアル、其ノ幾分ヲ配付稅トシテ配付スル、地方ハ今日ノ景氣ノ好イ時代ノ配付稅ヲ財源トシテ色々仕事ヲスルカモ知レナイガ、近キ將來ニ於テ非常ニ稅收ガ減ツテ、其ノ配付額モ今日ヨリ三分ノ一位ニ減ルト云フヤウナ時代ヲ私ハ想像シテ見ナケレバナラスト思ヒマス、サウ云フコトガアツタ場合、一體地方自治團體ガ安シジテ仕事ガ出來ルカ、其ノ他ノ有ユル公共事業ノ經營ガ出來ルカ、私ハ配付稅ノ配付ガ非常ニ少クナツテ、到底仕事ガ出來ナイ時代ガ來ルガラウト思フノデアリマス、私ガ地方稅制改正デ一番心配シテ居ルノハソコデス、サウ云フ御心配ハ一體考ヘタコトモナカツタノデアリマスガ、ソレヲ承リタイト思ヒマス

○挾間政府委員 是ハ大藏省ト言ハズ、內務省ト言ハズ、所得稅、法人稅ハ最モ強イ稅デアルト思ヒマス、ソレヲ今回ノ配付稅ノ財源トシテ居ルノデアリマスガ、若シ何カ是以外ニヨリ以上適當ナ配付稅ノ財源ガアルト云フコトデアリマスレバ、一ツ御示シヲ願ヘレバ大イニ攻究シタイト思ヒマス、ドウモナイノデハナイカト思ヒマス、私共ハモウ是以上ノ良イ稅、有力ナ稅ハナイト思ツテ居リマスカラ、最モ適當デアルト思フノデアリマス

○伊藤委員 良イ稅、惡イ稅ノコトバカリ聽イテ居ルノデアリマセヌ、私ハ現在ハ相當澤山ノ稅收ガアツテ、其ノ何分ノ幾ツカヲ地方ニ配付還元スルノダカラ、ソレヲ以テ地方ガ色々公共事業ヲヤルコトガ出來ケレドモ、萬一非常ニ稅收ガ少クナツタ

場合、所得税ナラ所得税、遊興飲食税ナラ遊興飲食税ノ稅收ガ少クナツタ場合ニ、其ノ何分ノ幾ツカヲ貰フ所ノ地方ハ非常ニ金ガ少クナル、今マデ一万圓使ツタノガ、今度ハ五千圓シカ配付ガ來ナカッタト云フコトガアリ得ルト思フ、ソコヲ聽イテ居ルノデス、其ノ五千圓シカ來ナカツタ、サウ云フ場合如何ナル方法ヲ以テ地方ノ仕事ヲヤラセルヤウニスルカ、ソコヲ聽イテ居ル

○三好政府委員 御説ノ如ク營業稅ニ於キマシテモ、所得稅、法人稅ニ於キマシテ、景氣變動ノ如何ニ依ツテハ減收ヲ生ズル時ガ來ルコトハ確カデアリマス、ソレ故ニ今回ノ制度ニ於キマシテハ、配付稅ニ於テ地方ノ稅收入ノ安定性ヲ期スル爲ニ、年度間ノ調整ヲ行ヒ、自然増收ガ馬鹿ニ多カッタ年デモ其ノ地方團體ニソレダケヤラス、自然減收ガ相當多額ニアリマシテモ、自然増收多カリシ時代ニ溜メテ置イタ金デ、其ノ減收ガ直チニ響カヌヤウニスルト云フ方法ヲ講ジテ居ルノデアリマス、ソレ以外ニ然ラバ方法ガアルカト云フト、ソレ以上ハ私共ノ智慧デハ中々出ナイノデアリマス、ソコデ三收益稅モ地方稅トシテ適當デナイ、又配付稅トシテ所得稅、法人稅モ適當デナイ、然ラバ地方稅ヲ如何ナルモノデ構成スルカト云フト、各種ノ稅ノ中デ一等優秀ノ稅組立デテ居ルノデアリマスガ、ソレ以外ニドウ云フ方法デヤレバ宜イカト云フコトハ、寧ろ伊藤サンノ御智慧ヲ拜借シナケレバナラスノデアリマス

○伊藤委員 結局此ノ地方稅制改正法案ト云フモノハ、ソコニ於テ非常ニ薄弱ナモノニナツテ來ル、ガカラ私ノ是カラ言ハントスル方法ヲ講ズベキデアツテ、ソレハ結局

煎ジ詰メテ行ケバ、地方ハ斯ウ云フ浮動性ノアル所ノ稅源ニ依ツテハ仕事ガ出來ナイノデ、結局國家全般ノ力ニ依ツテ、國家ノ全財政ニ依ツテ、即チ一種ノ地方財政調整交付金制度ヲ新ニ法案トシテ設ケナケレバ、本當ニ地方ノ行詰ツタ現狀ヲ打開スルコトガ出來ナイト思フ、サウ云フ制度ヲ作ルカドウカ、結局問題ハソコデス、私ハ言ヒマスガ、數年後ニサウ云フ制度ガ必ず出テ來マス、地方ガドウシテモ是デハ色々ナ公共事業ガ出來ナイト云フ時代ニナルト、稅源モナイ、借金モ出來ナイト云フ場合ニハ、結局ヤハリ國家全體ノ責任ニ於テ地方財政調整交付金制度ヲ確立スル以外ニ方法ガナイ、吾々議員モ恐ラク其ノ時代ニナレバ地方財政調整交付金制度ヲ要求スルダラウト思フ、サウ云フ場合ニ本當ニドウシテモ地方自治團體ガ仕事ガ出來ナイ、如何ナル方法ヲ以テモ仕事ガ出來ナイ場合ニハ、國家ノ力ニ依ツテ地方財政調整交付金制度、或ハ一ツノ救済金制度ニ依ツテ地方ヲ救済スル以外ニ方法ガナイト思フ、之ヲ私ハ聽イテ居リマス、ナゼ斯ウ云フ制度ヲ確立シナカツタカ、サウスレバ若シ災害ガ生ジ或ハ稅源ガ少クトモ、國家ガ或ル一定ノ何億圓ト云フ金ヲ出シテ地方ノ振興ヲ圖ルコトガ出來、地方ノ救済ヲ圖ルコトガ出來テ、非常ニ重寶デアルト思ヒマス、ソレニ付テ如何ナル御考デアリマスカ

○伊藤委員 恐ラク伊藤サンノ御考ハ、財政調整交付金ヲ設ケテ定額ニ各國體ニ交付スル、斯ウ云フコトダト思ヒマスガ、今回ノ配付稅制ハ、其ノ交付金制度ニ彈性性ヲ持タセ、地方財源トシテノ意義ヲ十分加味スルト云フコトニ致シテ居ルノデアリマシテ、若シ財政調整交付金制度ヲ三億圓ヨリモ多ク五億、六億ト致シマスレバ、自治ト云フモノハ殆ド其ノ形ヲ失ツテシマフト云フコトニナルノデアツテ、此ノ委員會デモ非常ニヤカマシク御述ニナツテ居リマス、自治ヲ破壞サレルノデハナイカト云フ議論ガ益々強クナルト思フノデアリマス、其ノ意味ニ於キマシテ吾々ハ調整交付金制度ヨリモ、分與稅制度ノ方が遙ニ地方自治ヲ尊重シ、地方ノ獨自ナル財政經理ガ出來ルヤウニナル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ此ノ制度ヲ立テタノデゴザイマス

○伊藤委員 アナタノ言フコトハ分ルノデスガ、例ヘバ斯ウ云フ場合ガアリマス、關西ニ非常ナ災害ガアツタ、サウ云フ場合ニハ關西ナラ關西ニ配付稅ヲ餘計ヤラナケレバナラス、ソレハ配付稅カ何カ知リマセヌガ、兎ニ角何カ餘計ヤラナケレバナラス、サウスルト其ノ金ダケガ他ノ方面ニ行ク金カラ減ルノデハナイカ、ソレヲドウ云フ風ニシテ調整スルカ、ソレバ配付稅ダケデハイカス、追加豫算ヲ取ルトカ、或ハ救済費ト云フ名目デ取ルカ、サウ云フ風ニシナケレバナラスノデハナイカ、是デナケレバ配付稅ヲ設ケタ根本ノ目的ハ達成シナイノデハナイカ、之ニ於テハドウ云フ風ナ御考ヲ持ツテ居リマスカ

○伊藤委員 能ク分リマシタ、ソレハ昨日私此處デ詳シク御話シマシタ、ソレハ交付金ノ問題デハゴザイマセヌ、此ノ配付稅ハサウ云フ大キナ災害等ガアツタ場合モ是デ處理スルト云フノデナク、是ハ程度ノ問題ニナルト思ヒマスガ、非常ナ災害ガアツタ場合ハ、特別ノ立法ガ必要デアルト思ヒマス、關東ノ大震災ノヤウナ時ハ御存ジ

ノヤウニ特別ノ立法ヲ以テ國家ガ保護ヲ致シテ居リマス、ソレ程デナイ場合ニモ、特別ノ財政援助ノ方法ヲ講ジナケレバナラスト思ヒマス、普通ノ救済ノ程度デ済ムモノデアレバ此ノ配付稅デ行キマスガ其ノ限度ヲ超エタモノハ特別ノ立法ナリ、特別ノ救済ノ手段デ、別個ノ方法ヲ以テ國家ガ地方財政救済ヲシナケレバナラスト云フノデアリマス、其ノ點ニ付キマシテハ御話ノコトハ能ク分ツテ居リマス

○伊藤委員 ソレデハ實例ヲ申上ゲマス、例ヘバ東北ニ昭和七年、八年、九年ニアツタヤウナ、アア云フ冷害ガ再ビアツタ場合、アレバ配付稅ヲ以テドウ云フ風ニ處置シマスカ、アレバ別個ニ追加豫算カ救済費カ何カ救済スルノデアルカ、單ニ配付稅ニ依ツテ之ヲ救済スルト云フ程度ニセラレルカ、之ヲ承ツテ置キタイノデアリマス

○三好政府委員 冷害ノ程度如何ニ依ル問題デアリマスガ、歲入ニ減少ヲ生ジタト云フヤウナ時代ニ於キマシテハ、自然配付稅デ澤山廻ツテ行キマスガ、其ノ配付稅デ廻リマス限度デドウシテモイケナイ、救済ヲ要スルト云フコトニナレバ、別個ニ補助ヲシテ出スヨリ外仕方ガアリマセヌ

○伊藤委員 別個ニ救済スルト云フノデスガ、大體金額ハ下ノ程度ヲ以テ別個ニ扱ヒマスカ、何千万圓トカ何億圓トカ云フ程度ガ分リマスカ

○三好政府委員 程度如何ニ依リマシテ數字ハ動ク譯デアリマス、是ハ調整交付金制度ヲ採リマシテモ、斯ウ云フ問題ガ起ルコトハ同ジデアリマス

○伊藤委員 額ハ大體下ノ位ノ程度カ分リマスカ、調整交付金程度デ賄フノデアリマ

スカ、或ハ何千万圓位カ、例ヘバ静岡ニ大火災ノアツタヤウナ場合ハ配付税ニ依ツテヤツテ行クカ、或ハ追加豫算デヤルカ、或ハ別個ニ何カノ救済費デヤルカ、サウ云フコトヲ今言明出來ルト思ヒマス

○三好政府委員 被害ノ程度ニ依ルコトデアリマスカラ、ドノ程度ト云フコトハ分リマゼス、又調整交付金制度ニ於キマシテモソレハヤハリ分ラナイノデアリマス

○伊藤委員 ソレデハ斯ウ云フコトヲ聞キタイ、是マデ地方財政調整交付金——財政補給金ノ名デ一億何千万圓ヲ各貧弱町村ニ一定ノ補給金ヲ分配シテ居ツタ、地方自治團體ハ其ノ補給金ニ依ツテ一定ノ公共事業ヲヤツテ居ツタ、サウスルト今度ノ配付税ニ於テハ各地方々々ハ、今マデノ補給金以上ノ金ヲ何處ノ市町村モ貰ヘルカドウカ、之ヲ一寸御聴キシタイ

○三好政府委員 大變失禮デアリマスガ、現在デハ地方財政調整交付金ト云フモノハゴザイマセス、今アルノハ臨時地方財政補給金デゴザイマシテ、此ノ補給金ハ専ラ減税ダケヲサセテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ事業費ニ充テルト云フ意味ニ於テハ毫モ支出致シテ居ラナイノデアリマス、是ハ今度ノ稅收入ノ總體ニ織込マレデ居リマスカラ、具體的ノ各團體ニ付デドウナリマスカ、稅制ノ根本ガ變リマスカ分リマセヌガ、地方稅法ノ施行ニ支障ノナイ程度ニハ大抵配付稅ガ貰ヘル、斯ウ云フコトニナリマス

○伊藤委員 一寸聴キ損ヒマシタガ、例ヘバ「エー」ト云フ町村ガ今マデ財政補給金ヲ二千圓貫ツテ居ツタ、現在ノ此ノ配付稅制度ニ於テハ少クトモ今マデ貫ツテ居ツタ二千圓

圓ヨリモ餘計貰ヘルカ、安心シテ居ラレルカ、今マデ通りカト云フコトデス

○三好政府委員 數字ニ付テハ申上ゲ兼ネマス、ナゼナラバ小學校教員俸給等ヲ移シテ居リマスカラ、戶數割ヲ從前取ツテ居ツタ制度トシテ見レバ、戶數割ヲ少ク取ルコトニナル、隨テ其ノ戶數割ヲ取ルコトヲ前提ニシテヤツテ居リマス補給金ハ減ルト云フコトニナルノデアリマスガ、安心シテ宜イカドウカト云フ問題ハ是ト別個デアリマシテ、從前ノ補給金ヨリハ、市町村ハ事業費ニ使ヘル程度ニ豐富ナ財源ヲ得ルコトニナリマスカラ、隨テ安心ト云フコトハ大安心シテ居ツテ宜シイデヤナイカ、斯ウ考ヘマス

○伊東委員 ソレデハ分與稅ニ付テ一ツノ委員會ヲ作ルサウデスガ、是ハ定員十六名ニツツテ居ルサウデス、其ノ中衆議院議員ハ何人、貴族院議員ガ何人、官吏ガ何人デアツテ、ソレノ權限ガドウ云フ風ナ權限ニナツテ居ルカ、之ヲ簡單ニ御知ラセ願ヒタイ

○挾間政府委員 是ハ官制ニ依ツテ決マル問題デアリマシテ、十六名デアリマス、其ノ割振リヲドウスルカト云フコトハ、官制ヲ制定致シマス際ニ決定致シタイト思ツテ居リマスガ、大體ハ貴衆兩院議員ト關係各省ノ關係官ト云フモノデ組織スル積リデアリマス

○小山委員長 休憩致シマシテ午後一時半ヨリ始メマス

午後零時三十四分休憩

午後二時三分開議

○小山委員長 是ヨリ開會致シマス——伊藤君

○伊藤委員 私ハ配付稅ノ配付ニ付テ御伺致シタイト思フノデアリマス、此ノ改正案ニ依リマスレバ、配付稅ノ配付ニ付キマシテハ、第一ハ財政力、第二ハ財政需要ニ依ツテ、大體分配スルト云フヤウニ承ツテ居ルノデアリマスルガ、其ノ後者デアル財政需要即チ人口ノ如何ニ依ツテ其ノ配付稅ヲ配付スルト云フコトハ、是ハ餘程考究ヲシナケレバナラナイ大キナ問題デハナイカト思フノデアリマス、普通ニ考ヘマスルナラバ、人口ノ多イ所ハ相當財政需要モ多イヤウニ考ヘラレ易イノデアリマスルケレドモ、今日ノ日本ノ人口ノ分布狀態ヨリ見マスルナラバ、人口ノ多イコト必ズシモ財政需要ガ多イノデハナイノデアリマス、寧ロ人口ノ少イ所ガ財政需要ガ多イト云フヤウナ逆ノ現象ニナツテ居ルト云フコトヲ、內務當局ハ深く研究ヲシナケレバナラナイト思フノデアリマス、然ラバ農村ト都市トノ人口ノ分布狀態ガドウ云フ風ニナツテ居ルカト云フコトヲ、一應御説明申上ゲナケレバナラナイト思フノデアリマス、農村ヨリ都市ヘノ人口移動ノ結果ハ、當然人口ノ集中スル都市ニハ生産年齡ノ人口ガ大デアリマシテ、兒童人口ハ比較的少ク、人口ノ流出スル所ノ地方ハ兒童人口ガ大デアツテ、生産年齡ノ人口ガ比較的少イノデアリマス、此ノ統計ニ依ツテ見マスルト、我國ノ人口増加ノ大部分ハ農村ニ於ケル出生ニ因ルモノデアアルノデアリマス、然ルニ其ノ兒童人口ノ大部分ハ青年トナルマデ、農村ニ居リマシテ、然ル後都市ニ移動スルノデアリマス、都市ハ是等ノ青年人口ヲ迎ヘルコトニ依リ、自然増加以上ニ遙ニ大ナル青年壯年人口ヲ入レルコトニナルノデアリマス、之

ニ反シテ農村ニハ青年壯年人口ガ相當ニ縮小シテ、サウシテ新潟縣ノ如キハ殆ド瓢箪形ノ人口構成圖ヲ成シテ居ルノデアリマス、更ニ此ノ顯著ナル事實ヲ經濟的ニ言フナラバ、農村ハ實數ニ於テ特ニ大ナル出生數ヲ有シ、其ノ出生兒童ヲ養育シ少クトモ小學校教育ヲ施シタル上都市ニ送ルノデアリマス、ソレガ爲大ナル所ノ兒童人口ニ非常ニ莫大ナル所ノ教育費ヲ要スルノデアリマス、是ガ爲ニ農村ハ非常ナル負擔ヲ致シテ居ルノデアリマス、換言スルナラバ地方教育費ノ大部分ハ、將來都市ニ於テ働クベキ者ノ爲ニ支拂ハレテ居ルノデアリマシテ、實ニ農村ハ近代都市ニ對スル所ノ養育院化シ、又養老院化シテ居ルト言ツテモ、私ハ敢テ過言デハナイト思フノデアリマス、此ノ故ヲ以テ農村ノ負擔ヲ輕減スルト云フコトカラ、此ノ配付稅ノ配付ノコトヲ考ヘテ行カナケレバナラナイト思フノデアリマス、即チ言ヲ換ヘテ言フナラバ、今日ノ農村ニ於テハ小學兒童ト働クコトノ出來ナイ所ノ老人バカリガ揃ツテ居ツテ、其ノ生産年齡ニアル青年壯年ト云フモノハ殆ド都會ニ集中シテ居ルト云フ事情カラ考ヘテ、配付稅ノ配付ヲ考ヘナケレバナラナイト思フノデアリマス、然ルニ何ゾヤ、此ノ配付稅ノ配付ノ標準ト云フモノヲ、唯漠然ト人口ノ如何ニ依ツテ決定セントスルガ如キハ、洵ニ私ハ內務當局ノ認識不足ニ因ルモノデアルト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス、此ノ法案ハ實ニ此ノ意味ニ於テ非常ナ缺點ヲ持ツテ居ルト思ヒマスカラ、內務當局ガ此ノ配付稅ノ配付ヲ爲スニ當リマシテハ、人口ノ多寡ニ依ツテ、配付稅ノ配付ヲ爲スニアラズシテ、寧ロ所謂青年壯年等働キ得ル所ノ

能力ノアル人口數ニ逆比例シ、サウシテ
兒童人口ニ正比例シテ此ノ配付税ノ配付ヲ
ナサナカツタナラバ、斷ジテ公平ナル所ノ
配付デハナイト私ハ思フノデアリマス、
ナゼ此ノ配付税ノ配付ヲナスニ當リマシテ
サウ云フコトニ御氣付ニナラナカツタ
ノデアルカ、ソレニ加フルニ其ノコトニ依
ツテ初メテ農村ト都市ノ負擔ノ均衡ヲ圖ル
コトガ出來ルト思フノデアリマス、其ノ爲
今私ノ申上ゲマシタヤウナ配付ノ仕方ヲス
ルナラバ、農村ニ於テハ喜ンデ兒童ヲドシ
ドシト教育ヲ致シマシテ、其ノ教育ヲシタ
所ノ人々ヲ都市ニ送ツテ、都市ノ生産力ノ
擴充ノ爲ニ貢獻シ得ルト私ハ思フノデアリ
マス、斯ノ如キ大キナ眼カラ此ノ配付税ノ
配付ヲ研究シナカツタ云フコトハ、私ハ
内務當局ノ大ナル認識ノ誤デアラウト考ヘ
ルノデアリマス、之ニ對スル所ノ内務當局
ノ御意見ト、是カラ此ノ配付税ノ配付ヲヤ
ツテ萬一ニモ不都合ナ場合ハ、私ノ申上ゲ
マシタヤウナ方法ニ依ツテ、將來此ノ配付
税ノ配付ノ仕方ヲ變ヘル御意思ガアルカド
ウカヲ承リタイト思フノデアリマス、

○**挾間政府委員** 洵ニ御尤モナ御意見デ十
分拜聽致シタノデアリマス、配付税ノ配付
ノ基準ニ付キマシテハ、種々考究致シマシ
タ結果、斯ウ云フ標準ヲ設ケタノデアリマ
スガ、只今御述ベニナリマシタ地方團體ノ
住民ノ年齡構成ガ、都市ト農村トデ非常ニ
違フテ居ルト云フコトハ十分認メテ居リマ
ス、唯ソレヲ此ノ税制ノ上ニ如何ニ現ハス
カト云フコトニ付キマシテハ、多少吾々ノ
見ル所ト、伊藤サンノ御考ト違フ點ガアル
カト思ヒマスガ、大體論ト致シマシテ、私
ハ大イニ傾聽致シタノデアリマス、唯只今

御審議ヲ願フテ居リマス案ト致シマシテハ、
此ノ配付税ガ單純ニ人口ノミニ依ツテ居ル
ノデハナクシテ、一面ニ於テ財政需要ノ標
準トシテ人口ヲ用ヒマスガ、他ノ一面ニ於キ
マシテハ財政力ヲ用ヒテ居ルデアリマス、
サウシテ財政力ハ、其ノ團體ノ國稅附加税
ヲ以テ計算致シマスカラ、其ノ團體ノ稅收
入ノ力ノ強弱ト云フモノハ、之ニ依ツテ明
瞭ニ現ハレルト思ヒマス、財政需要ノ問題
トシテ人口ヲ用ヒテ居リマスガ、是ハ今御
述ベニナリマシタ年齡構成ノ上ニ於キマシ
テモ、寧ろ是デ押ヘルノハ、經費ノ掛カル
人間ガドレダケ多イカト云フコトヲ押ヘル
コトガ、此ノ方面ニ於テノ標準トシテハ適
當デアルト思フノデアリマス、サウシテ其
ノ意味ニ於キマシテ、此ノ案ニ於テハ割増
人口ノ方法ヲ用ヒテ居リマス、市町村ニ於
キマシテハ平均致シマシテ八百ヲ加ヘルト
カ、尙ホ小學校ノ兒童ノ全市町村ノ平均率
ヲ超過シテ居ル部分ハ、ソレダケヲ割増人
口トシテ加フルト云フコトニシマシテ、成
ベク財政需要ノ實情ニ應ズルヤウナ手段ヲ
講ジテ居ルノデアリマス、併シ此ノ財政需
要ヲ如何ナル標準デ決定スルカト云フコト
ニ付キマシテハ、尙ホ將來此ノ制度ヲ施行
致シマシタ上ニ於テ、考究ヲ繼續シナケレ
バナラナイコトト思フノデアリマシテ、御
述ニナリマシタ點ハ十分拜聽致シテ、吾々
ノ研究ノ對象ニ致シタイト考ヘテ居リマス
○**伊藤委員** 大體御話ハ分リマシタノデス
ガ、ヤハリ私ハ此ノ際一ツ速急ニ配付税ノ
配付ノ標準ハ、働キ得ル青年壯年ト云フ人
口ガ多ケレバ多イ程、ソレニ逆比例ヲシテ此
ノ配付ヲスルト云フヤウナ方針ヲ執ツテ行
クノガ當然デハナイカル思ヒマスカラ、其處

ニ主力ヲ注イデ御研究セラレルヤウニ、重
ネテ御願ヲスルト同時ニ、モウ一度速急ニ
サウ云フコトヲ御研究シテ下サルカドウカ
ヲ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス
○**挾間政府委員** 其ノ點ハ一寸考ヲ異ニ
致シテ居リマス、詰リ財政需要ト云フノハド
レダケ其ノ團體ノ經費ガ必要デアルカト云
フコトヲ測定スル標準デアリマスカラ、生
產階級ガ多イカ少イカト云フコトヨリモ、
團體ニドレダケノ經費ガ必要デアルカト云
フノデ、經費ノ掛ル階層ト云フモノガ、第
二種ノ方ノ配當ノ基準トナル問題デアリマ
ス、生産階級ノ多寡ト云フ問題ハ、結局ハ
是ハ其ノ團體ノ財政ト申シマスガ、其ノ方
面ノ問題デゴザイマスカラ、割増人口ヲ計
算スル場合ニ於キマシテモ、其ノヤウナ意
味デハ考慮ヲスルコトハ困難カト思フノデ
アリマス、伊藤サンノ御述ニナリマシタ大
體ノ趣旨ニ於キマシテハ、私ハ割増人口ヲ
如何様ニ見ルカト云フコトヲ十分檢討ヲ加
ヘテ見タイト考ヘテ居リマス
○**伊藤委員** サウスルト此ノ配付税ノ配
付ニ付テハ、只今ノ所デハ兒童人口ニ比例
シテ配付ヲスルト云フ方針ハ依然トシテ變
ラナイト思フノデアリマスガ、ソレハ如何
デスカ、兒童人口ガ多ケレバ多イ程、其ノ
配付税ヲ餘計配付スルト云フコトハ、是ハ
間違ヒナイノデスネ
○**挾間政府委員** 兒童人口ト云フノハ學齡
兒童デスカ(伊藤委員「サウデス」ト呼フ)學
齡兒童ガ平均率ヨリモ多ケレバ多イダケソ
レガ財政需要ヲ増シテ居ルト云フコトデ配
付額ガ多額ニナルト云フコトニナツテ參リ
マス
○**伊藤委員** 私ハ押問答シマセスケレドモ、

結局唯漠然ト人口ヲ標準トシテ配付税ノ配
付ヲ爲スト云フコトハ、大イニ考ヘナケレ
バナラヌ問題ダト思ヒマスカラ、ドウカ人
口ノ分布狀態、特ニ都市ト農村ノ人口ノ分
布狀態ハ、全ク私ガ申上ゲマシタ通りデア
リマスカラ、此ノ點ニ付テ十分ノ御考慮ア
ランコトヲ御願申上ゲルノデアリマス、私
ハ是デ質問ヲ終リマス
○**小山委員長** 森田君——宜シウゴザイマ
スカ
○**森田委員** 私ハ大臣ニデス
○**小山委員長** ソレデハ次ハ飯田君ニナツ
テ居リマス
○**飯田委員** 私ノハ極メテ簡單デアリマス
ガ、實ハ長野君カラ御質問ノアリマシタ地
方税ノ配付及ビ分與ニ付テ質疑ヲシタイト
考ヘテ居ツタノデアリマス、是ハ長野君ニ
依リマシテ、各方面ノ角度カラ相當突込シ
デ御質問ニナツテ居リマスガ、是ハマダ速
記録ヲ十分讀ンデ居リマセスカラ、速記録
ヲ讀ミマシタ上、更ニ又御質問ヲ申上ゲル
點モアラウト思フノデアリマス、大體私ノ
伺ヒマスコトハヤハリ其ノ部分ニ屬シテ居
ルノデアリマスガ、分與稅法案ノ中ニ、災
害ニ關スル所ノ規定、制度ヲ設ケルカト云
フコトデアリマス、分與稅法案ハ、地方財
政間ノ不均衡ヲ是正スルト云フ目的ヲ主眼
トシテ居ルノニモ拘ラズ、災害ニ因ル所ノ
地方財政ノ困難窮乏ニ依ル不均衡ヲ矯正ス
ル上ニ於テ、甚ダシク缺ケテ居ル所ガアル
ノデハナイカト思フノデアリマス、御承知
ノ如ク我國ハ災害頻繁ノ國柄デアリ、震災、
風水害等ノ災害ガ次カラ次ヘト出テ來ルノ
デアリマス、然ルニ之ニ對シテ災害地方ハ
色々ト團體ノ事情ハ違フノデアリマスガ、

併シナガラ其ノ災害ガ地方團體ニ及ボス所ノ影響ト云フモノハ非常ニ多イト云フコトハ私ガ申上ゲルマデモナイノデアリマスガ、政府ハ果シテ此ノ點ニ付テ十分ナル御考慮ガ拂ハレテ居ルノデアラウカドウカ、地方稅法案中、災害地方ニ關スル費用ノ爲ニ制限外課稅ヲスルト云フ途ハ認メテアリマス、併シ是ダケハ災害ニ基因スル巨額ノ災害債ノ重壓ニ呻吟スル所ノ災害地方財政ノ更正救済ニハ役立タナイト思フノデアリマス、勿論災害地方ノ住民ハ、所謂禍ヲ轉ジテ福ト爲スト云フ更生復興ノ意氣ハハ燃エテ立上ツテ居ルノデアリマスカラ、國家トシテモ是ハ勿論國力發展ノ基礎トモナリ、其ノ全企畫ニ對シマシテハ國家ガ常ニ十分ナル救援ト鼓舞ヲスル方策ガアツテ然レバシト思フノデアリマス、惟フニ分與稅一般ノ配付標準デアアル所ノ地方團體ノ財政事情ヲ人口ニ依ツテ表現セラレテ居ル法案ノ精神ハ、一般地方債ニ於テハ團體ガ自ラ進ンデ負擔シテ來タモノデアリマスノデ、不都合ハナイト言ヘマセウガ、併シナガラ天災地變等ニ依リマシテ已ムヲ得ズ災害債ヲ起シタ其ノ元利償還ニ付テハ、到底人口ニ依ツテ表現セラルモノデモナイト思フノデアリマス、仍テ分與稅法案中市町村配付稅總額ノ一定ノ割合、例ヘバ一割ヲ控除シテ市町村災害ノ元利償還額ニ對シテ分與スルノ規定ヲ設ケタラ宜イト考ヘルノデアリマスガ、政府當局ノ之ニ對スル御所見ヲ承ツテ置キタイ

○挾間政府委員 配付稅ノ分與ノ基準ニ關シテ災害ヲ考慮スルト云フ點ニ付テハ、御存ジノ通り今回提案致シマシタ配付稅ノ中デ、道府縣ノ配付稅ニ付キマシテハ、災害債ヲ考慮ニ入レテ居ルノデアリマス、市町村ノ災害債ト云フモノハ、府縣ノ災害ニ比ベマシテ非常ニ少額デアリマス、此ノ率ヲ見マスト道府縣ハ七割八分餘、市町村ガ一割六分餘、即チ稅收入ニ對シマシテ非常ニ率ガ少クナツテ居ルノデアリマス、殊ニ市町村ノ方ノ災害土木費ト云フモノハ、其ノ認定ノ範圍ガ非常ニ不明確、困難デアリマシテ、多ク復興ノ色彩ヲ持チ、市町村ノ意思ニ依ツテ自由ニナルヤウナモノガゴザイマスカラ、之ヲ配付稅ノ配付ノ基準ニ用ユルト云フコトハ權衡上適當デナイト思ヒマスノデ、市町村ニ付キマシテハ配付稅ノ配付ノ基準ニハ災害債ト云フモノハ加ヘナカッタノデアリマス、併シ一面ニ於キマシテ第三種配付額ト云フモノヲ設ケテ、特ニ必要ガアル場合ニハソレニ依ツテ財政ノ調整ヲ致スコトニナツテ居リマス、尙ホ此ノ稅制トシマシテハ財政救済ト云フコトハ考慮ノ中ニ入レテ居リマセヌノデ、其ノ災害ニ依ツテ課稅力ガ減ジタト云フヤウナ場合ニハ、此ノ配付稅ガソコニ救済ノ働キヲ爲シテ行クト云フコトニナル譯デアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○飯田委員 大體政府ノ意ノアル所ハ分ツタノデアリマス、併シナガラ地方分與稅法案ノ中ニハ只今御述ニナツタヤウニ、道府縣ノ財政力算定ノ基準中ニ災害土木費負債ノ十五分ノ一ヲ控除スルト云フ規定ガアリマス、又都市配付稅、町村配付稅ノ配付ニ付キマシテハ百分ノ五ヲ第三種配付稅トシテ、特別事情アル所ノ中小都市、町村ニ配付セラルルノ規定ガアルノデアリマス、災害債ノ巨額デアアル中小都市町村ハ、特別ノ事情アルモノトシテ斟酌セラレル所ノ途ガ開ケテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク道府縣相互間、中小都市相互間、町村相互間ニ於キマシテハ災害債關係ヲ考慮サレル所ノ規定ヲ設ケテアルニ拘リマセズ、何ガ故ニ大都市ニ限ツテ災害ニ基因スル地方財政ノ不均衡ヲ是正調整スル所ノ制度ガ設ケラレナイノデアリマスカ、公平正義ヲ建前トスル所ノ政府ニ於カレマシテハ、當然正義觀ヲ以テ之ニ對處セラレテ行カナケレバナラナイト思フノデアリマス、申スマデモナク我國ノ歷史上ノ大災害トシテハ關東ノ大震災、關西ノ風水害等ガアルガ、是等災害ニ基ク地方財政ノ不均衡ノ事實ヲ、政府御當局ハ看過セラレテ居ルノデアリマスカドウカ、現ニ橫濱市ノ如キハ震災ニ依リマシテ一億八千萬圓ノ市債ヲ持ツテ居リマシテ、市民一人當リノ市債額ハ二百三十圓トナツテ居リマス、而シテ京都市ノ一人當リ五十五圓、名古屋市ノ九十二圓、神戸市ノ百十五圓等ニ比ベマスト實ニ二倍乃至四倍ノ巨額ニ達シテ居ル所ノ狀態ニナツテ居ルノデアリマス、是ガ爲ニ橫濱市ニ於キマシテハ一切ノ乗用車マデ廢シテ、震災ノ爲ニ吏員ノ給與ナドモ削減シ、實際骨ヲ削リ肉ヲ殺グノ思ヒヲ致シテ緊縮節約ヲ爲シ、コソ十數年間ソレヲ繼續シテ居ルヤウナ狀態デアリマス、是等ハ何レモ其ノ災害ニ因ル所ノ借金拂ノ爲ニ忍從シテ居ルノデアリマスガ、併シナガラサリト都市ノ課稅力ト云フモノ、市民一人當リノ負擔ハ京都、神戸、名古屋ノ是等ノ都市ニ決シテ劣ルモノデハナク、六大都市ノ中位以上ヲ占メテ居ルノデアリマス、橫濱市ノ財政困難ハ課稅力ノ爲デハナク、全ク支出ノ非常ニ夥シクソコニ鬱積シテ居ル所ノモノガアル、其ノ重壓ニ因ルモノデ

アリマス、隨テ政府案ノ如キ建前デハ、橫濱市ノ如キ立場ニアルモノハ全ク救ハレル瀕モナイ悲慘ナ狀態ニ迫タマレルモノト考ヘル者デアリマス、仍テ政府ハ法案ノ第十五條中道府縣ノ災害土木費負債額ノ十五分ノ一ヲ控除スル規定ト同様ニ、大都市災害費負債額ノ十五分ノ一ヲ控除スル規定ヲ設ケルコトハ、均衡上當然ノコトデアリヤウニ考ヘラレルノデアリマスガ、之ニ對スル政府ノ御所見ヲ承リタイ

○挾間政府委員 大都市ノ災害ニ對スル起債額等ヲ配付稅ノ配付ノ基準ニハ入レテ居リマセヌ、併シナガラ是ハ道府縣ニ比較致シマスト、此ノ災害ノ起債ノ性質モ非常ニ違ヒマシテ、大體大都市ニ於キマシテハ復興ノ色彩ガ濃厚デアリマスノデ、ソレヲ配付稅ノ配付ノ基準ニ入レマスコトハ、先程申上ゲマシタヤウニ配付稅ノ性質カラ見マシテ適當デナイト思フノデアリマス、ソレカラ只今橫濱市ニ付テ御述ベニナツタノデアリマスガ、先刻御手許ニ差上ゲテ置キマシタヤウニ、此ノ表ヲ御覽ニナリマス、横濱市ニ付テ申上ゲマスレバ、改正前ノ稅總額ハ五百四十八萬餘圓デアリマスガ、改正後ノ稅收入ノ見込ハ八百六十萬圓ヲ超エルヤウナ狀態デアリマシテ、非常ナ稅收入ニ於キマシテ樂ニナルノデアリマス、十分市ノ財政經理ノ上ニ於キマシテハ、大キナ何ト申シマスカ、ヤリ易クナルト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○飯田委員 只今局長サンノ御説ニ依リマス、横濱市ノ財政狀態ハ今度ノ案ニ依ツテ財政上ヤリ良クナルト云フヤウニ承ルノデアリマス、御承知ノ如ク横濱市ハ、只今申上ゲタヤウニ震災後ノ復興更生ノ爲ニ非

常ナ努力ヲ拂ヒ、殊ニ工場招致ナドヲ致シ、埋立地ノ利用價值ナドニ對シテモ非常ナ考慮ヲ拂ヒ、サウシテ工場地ニ對シマシテハ市税ノ五箇年ノ免除等モ致シマシテ、今日ニ於キマシテハ先ヅ以テ我國ニ於キマシテモ有數ナ、工場地帯ヲ造成シテ居ルノデアリマス、此ノ方面カラ年々舉ガル所ノ市税モ約三百萬圓ニ近イ市税ガ舉ツテ來ル見込デアリマス、併シナガラ横濱市ハ震災ニ依ル所ノ復興資金、即チ政府ノ保證セラレテ居リマス所ノ米貨公債ノ利拂、是ガ六分ト云フコトニナツテ居ル、更ニ爲替差損金等ニ依リマシテ、折角造成シ來ツタ所ノ工場地帯カラ舉ル市税ノ殆ド全部ハ、此ノ米貨公債ノ差損金及ビ利拂ノ方ニ振向ケネバナラヌコトニナツタ、殊ニ最モ將來伸ビントスル税デアアル所ノ所得税ノ如キモ、是モ取止メラレコトニ依リマシテ、非常ニ

横濱市ハ財政上更ニ困難ニ迫ラレルノデハナイカト思フデアリマス、是等ニ付テ御當局ハ更ニ米貨公債ノ利拂、サウ云フヤウナコトニ心配ナキヤウニ横濱市ノ財政ヲ致スヤウニ御考慮ガアルカドウカ、此ノ點ヲ承ツテ見タイト思ヒマス

○**挾間政府委員** 先程簡單ニ申上ゲマシタガ、ソレデハモウ少シ詳細ニ數字ヲ申上ゲマス、横濱市ハ改正前ノ税制ニ依リマス五百四十八萬五千圓ノ稅收入ガアルノデアリマスガ、之ヲ改正後ノ新税制ニ依リマスト、獨立稅ト國稅ノ附加稅、ソレカラ府縣附加稅ヲ併セマシテ七百十二萬餘圓ニナリマス、之ニ對シマシテ更ニ配付稅ガ百四十八萬圓アルノデアリマスカラ、八百六十萬圓、即チ五百四十八萬圓ニ對シテ八百六十萬圓ノ稅收入ヲ得ルト云フコトニナツテ居

リマスカラ、三百十數萬圓ノ稅收入ガ普通稅ニ於テ増加スルノデアリマス、ソレカラ都市計畫稅ニ付テノ增收見込額ガ百四十八萬圓アルノデアリマシテ、市ノ財政經理ニ付キマシテハ、將來ノ見込額トシテハ餘程樂ニナルト云フコトハ此處デ申上ゲルコトガ出來ルト思ヒマス

○**飯田委員** 私ノ質問ハ更ニ長野君ト關聯致シマスカラ、保留致シマシテ又其ノ時ニ伺フコトニ致シマス

○**小山委員長** ソレデハ武田君、內務大臣ノ見エルマデ如何デスカ

○**武田委員** 是マデ地方稅ノ各方面ノ角度カラ色々御質問ガゴザイマシテ、私ノ御問セントスルコトハ殆ド盡キテ居リヤウデアリマスガ、極ク僅カナ點ニ付テ二三當局ノ御説明ヲ願ヒタイト思フデアリマス

第一ニ分與稅ノ觀念ニ付テ立案者ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス、今マデ色々御話ヲ承ツテ見ル所ニ依リマシテモ、法案ヲ拜見致シタ上カラ見マシテモ、主トシテ地域の不均衡ヲ是正スルノガ分與稅、殊ニ配付稅ノ主ナル目的デアアルカト私ハ了解シテ居ル、併シ各方面ノ質問ニ對スル御答辯ヲ承ツテ見ルト、單ニ地域の不均衡ヲ是正スルト云フ意味ノミデモナシニ、地方ノ財政ヲ補助スルト云フヤウナ意味デアアルカノヤウノ御答辯ガ屢ミアツタノデアリマス、今ノ飯田君ノ質問ニ對スル御答辯ニモソレガ含マレテ居リヤウニ思フデアリマス、私ハ此ノ觀念ヲ明ニシテ置ク必要ガアリハシナイカト思フ、地方ノ貧弱町村ヲ援助スルト云フヤウナ意味ガ含マレテ居ルト、非常ニ配付ノ方法ナドニ付テモ議論ガ複雑シテ、循環的ノ議論ノミガ重ナルヤウナコトニナリハシナイカ、

現ニ今飯田君ノ御話ニモアツタヤウニ、災害ガアツタ時ニドウスルカト云フヤウナコトニ對シテ、局長ノ御答辯ハ、ソレハ此處デ新シイ稅ト前ノ稅ノ間ニ三百何萬圓ト云フ差ガアルカラ、ソレデ行ケルダラウデハナイカト云フヤウナ御答辯、ドウモソレデハ私ハ甚ダ嫌ラスヤウナ氣ガスル、ソコデ二百萬圓ナリ三百萬圓ノ餘裕ガ假ニアツタト致シマシテモ、ソレハ災害ヲソレニ依ツテ救済スルト云フ目的デソレダケノ差ガ出來タモノカ、一體分與稅ソレ自身ノ觀念ニサウ云フモノヲ含マシテ居ルノデアアルカドウカ、若シソレヲ含マシテ居ルモノトスレバ、若シ今飯田君ガ御話シナツタヨリ以上ノ災害ガ横濱市ニアツタラドウカ、斯ウ云フ問題ガ起ルト思フ、ソレデ分與稅ノ性質ニ貧弱町村ヲ補助シヨウ、援助シヨウト云フヤウナ意味ガ含マレテ居ルモノトスレバ、此ノ分與ノ方法ニ於テ非常ニ違ツタコトデナケレバナラヌシ、又平常ノ「ノーマル」ノ狀態ニ於テ今日ノ所得ノ分配竝ニ財產ノ分配ノ不均等ニ伴ツテ稅收入ガ平均シナイ、其ノ平均シナイ不均衡ヲ是正スル目的デアルトスレバ、自ラ此ノ配付ノ方法ニ付テモ違ツテ來ル、サウシテ災害其ノ他ニ付テ地方團體ガ窮迫シタ場合ハ、是ハ他ノ手段デ國家トシテ救済スル途ヲ執ラナケレバナラヌト云フコトニナルノデアリマスガ、此ノ點ニ付テ地方局長ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス

○**挾間政府委員** 分與稅ノ制度、特ニ其ノ中ノ配付稅制ニ付キマシテハ、御述ニナリマシタ各團體間ノ財政ヲ調整スルト云フコトガ大キナ目的デアリマスガ、同時ニ此ノ稅制ニ依リマシテ、各團體ニ對シテ有力ニシ

テ必要ナル財源ヲ付與スル、斯ウ云フ目的ヲ持ツテ居ルノデアリマス、併シソレハ補助ヲスルト云フ意味デハナクシテ、必要ナル財源ヲ付與スルト云フ積リデアリマス

ソレカラ次ニ御述ニナリマシタ災害ガアツタ場合ニハ、此ノ分與稅ハソレニ對シテ如何ナル働キヲ爲スモノデアアルカト云フ點ニ付キマシテ、此ノ配付稅ノ働キヲ申上ゲマスレバ、是ハ程度ノ問題ニモ關聯スルト思ヒマスガ、通常起ル災害等ニ付キマシテハ、此ノ分與稅ノ制度ニ依ツテ十分働キガ爲シ得ルト思フデアリマス、ト申シマスノハ、其ノ災害ニ依リ地租ガ減少致シマスレバソレダケ課稅力ガ減少シマスカラ、第一種配付額ノ配付ノ標準ガソレダケ變ツテ參リマシテ、交付ノ増額ヲ受ケルコトニナリマス、又火災等デ家屋ガ焼失シマスレバ家屋稅ガ取レナクナルト云フノデ、課稅力ノ減少ト云フ結果ニナツテ參ルト思ヒマス、ソレカラ道府縣ニ付キマシテハ、特ニ此ノ災害債ト云フモノガ分與稅分與ノ基準ニ加ヘラレルノデアリマス、併シ斯様ナ方法ヲ以テシテハ救済ノ目的ヲ到底達シ得ナイト云フヤウナ大キナ災害ガ發生致シマシタ場合ニハ、是ハ此ノ分與稅ガ豫想シテ居ル限度ヲ超エルモノデアリマスカラ、其ノ際ニ於ケル國家トシテ地方團體ノ財政ニ對シテ執ルベキ手段ニ付キマシテハ、自ラ又別箇ノ財政救済等ノ方法ヲ考慮シナケレバナラヌコトニナルノデアアラウト考ヘテ居リマス

○**武田委員** 只今地方局長ノ御話ヲ承ツテ見マス、分與稅ニハ地域の不均衡ヲ是正スル意味ト、有力ナル財源ヲ地方團體ニ與ヘルト云フ二ツノ意味ヲ含ンデ居ルト云フ御話デアリマスガ、此ノ是非ハ姑ク措イ

テ、私ハ地域的ノ不均衡ヲ是正スルト云フコトダケヲ、此ノ分與稅殊ニ配付稅ニ持タスベキモノダト信ジテ居ルノデアリマスルガ、其ノ意見ノ交換ハ別ト致シマシテ、假ニ立案者ノ御意向ノヤウナモノト致シマスルト、斯ウ云フ結論ニナリマスカ、——適當ナル稅種ヲ地方團體ニ與ヘヨウトシテ有ユル御苦心ヲ重ネテ見ラレタケレドモ、ドウシテモナイ、詰リ今三收益稅其ノ他獨立稅、附加稅ヲ認メラレタ以外ニハ、ドウシテ見テモ適當ノ稅種ハ見付カラナイ、仍テ此ノ配付稅ヲ以テ其ノ稅源ヲ與ヘル外途ガナイ、斯ウ云フ結論ニナツタト諒解シテ宜シイデアリマスカ、更ニ若シ左様ニ諒解シテ宜イト云フ御返答デアリマスレバ、詰リ地方ニ獨立ニ與ヘル稅源ハ外ニナイノデ、大體ノ趣旨トシテハ地方稅ハ物稅ヲ主トシ、人稅ハ多少ハ加ヘル程度ニシタイケレドモ、ドウシテモナイ、ソレデ人稅ノ所得稅並ニ法人稅ヲ割イテ地方ヘ與ヘル、併シナガラ所得稅並ニ法人稅ノヤウナ人稅ハ、今日ノ此ノ所得ノ分配ノ不公平ニナツテ居ル日本ノ現狀ニ於テハ一地方ニ固マリ勝チデアルカラ、之ヲ唯其ノ一部ヲ割イテ地方ノ團體ニ與ヘタダケデハ、負擔ノ均衡ハ非常ナ相違ヲ來ス、地域的ノ負擔ガ非常ナ相違ヲ見ルヤウニナルカラ、ソレデ分與ノ名ヲ以テ地方ニ之ヲ與ヘルコトニシタ、要スルニ最早外ニ適當ナ稅種ハナイカラ、所得稅並ニ法人稅及ビ遊興飲食稅、入場稅ノ一部ヲ地方ヘ與ヘル外途ガナカツタノダ、斯ウ云フ風ニ解シテ宜シイデアリマスカ

○狹間政府委員 現在ノ稅制通リ各團體ガ全部ヲ直接ニ課徵スルト云フ方法ヲ以テ致

シマシテハ、今ノ各地方ニ於ケル財源ノ關係カラ致シマシテハ、各團體ニ必要ナル財政收入ヲ得ルノ途ガナイ譯デアリマスノデ、其ノ意味ニ於テ一部分ハ間接課徵ノ方法ヲ以テ地方ノ財源ヲ補足セシメナケレバナラナイ狀態ニ、現在ノ實情ガナツテ居ル譯デアリマス、ソコデ配付稅ト云フ制度ヲ設ケタノデアリマシテ、而シテ配付稅ヲ如何ナル稅種ニ求メルカト云フコトニナリマス、所得稅、法人稅等ノ有力ナル稅種、其ノ外今回ノ提案ヲ致シテ居リマスヤウナ稅種ヲ之ニ選擇スルノガ適當デアラウト云フノデ、此ノ四種ヲ選ンダ譯デアリマス

○武田委員 サウシマスト、私ノ今斯様ニ諒解シテ宜シウゴザイマスカト御問シタノト同ジ意味ニナリマスガ、要スルニ所得稅並ニ法人稅ノ一部、遊興飲食稅、入場稅ノ一部ヲ地方ニ與ヘルト云フ唯方法ヲ變ヘタノデアアル、ソレヲ地方ニ分與スル、丁度三收益稅ヲ地方ニ與ヘタ如キト同様ノ意味ヲ以テ地方ニ與ヘテ行ク、唯其ノ徵收、配付ノ方法ガ違フノダ、斯様ニ私ハ諒解シテ宜シイト思ヒマス、併シ其ノ意味デ更ニ伺ヒタイト思ヒマス、其ノ前ニモウ一ツ伺ツテ置キタイコトハ、三收益稅其ノ他ノ稅以外ニ殆ド稅種ハナイ、斯ウ云フ工合ニ御考ニナツテ居リマスガ、併シ今ノヤウナ觀念カラ致シマスルト、私ハ本會議デモ一寸伺ツタノデアリマスガ、何レノ團體ニモアルトハ申上ガ兼ネマスケレドモ、地方ノ團體ニ最モ適當シタ所ノ稅種ハ必ズシモ三收益稅ノミデハナイ、土地増價稅ノ如キモノモアルデハアルマイカ、或ハ間地稅ノ如キモアルデハアルマイカ、其ノ他尙ホ數ヘレバ若干ノ稅ガアルデアラウト思フ、サウシマシタ

ラサウ云フモノヲ地方ノ團體ニ與ヘル方針ヲ、三收益稅ヲ與ヘルガ如キト同様ナ構成ヲ以テ、先ヅサウ云フ稅ノ構成ヲ新タニ御立テニナルノガ順序デハナカラウカ、之ヲ此ノ地方團體ノ自由ニ設定スル獨立稅ト認メルカ、希望スルモノハ申出デラナラバ、ソレヲ審查シ、內務省ガ許可スルト云フノデハ、是ハ申出デル者モアレバ申出デナイ者モアルト云フコトニナツテ、是ガ地方ノ稅トシテ決ツテ居ラナイ、ヤル所モアレバヤラヌ所モアル、サウスルトソレハ稅收入ハドレダケアルカト云フコトヲ一應押ヘタトラナイ、ソレヲ計算ニ入レズニ置イテ、三收益稅ハ幾ラ、其ノ他ノ獨立稅ハ幾ラ幾ラ、アトニ殘ル所ハ三億五千萬圓ダカラ、之ヲ所得稅並ニ法人稅、遊興飲食稅等ニ充テヨウ、斯ウ云フ案ヲ立テタト云フコトハ先般來、屢、內務大臣モ御話ニナリ、局長モ御話ニナツタ、サウスルトドウシテモ是ダケシカナイカラ人稅ニ之ヲ求メタノダト云フナラバ、有ユル稅種ヲ先ヅ漁ルト言フト言葉ガ惡イフデアルケレドモ、色々檢討シテ御覽ニナツテ、地方稅ニ適當ダト云フモノガアリマスナラバ、先ヅソレヲ地方稅トシテ設定スルノガ順序デハナカツタカ、斯ウ云フ風ニ私ハ思ハレ

ルノデアリマス、ソレカラモウ一ツハ、サウ云フ新稅種ヲ能ク檢討シテ見ルト云フ所ノ必要ト同時ニ、現在ノ稅種ハ現在ヨリ以上稅ガ取レルカドウカ、モツト率ヲ高クスル餘地ガアルカナイカト云フコトヲ御考ニナツタカドウカト云フコトヲ考ヘテ見タイ、一例ヲ以テ言ヒマスナラバ、營業收益稅ノ如キ其ノ附加稅ヲ合セルト、此ノ頃御調ベ戴イタモノヲ見マスルト、十三年度ニハ一

億七千萬圓、今度ノ改正案ニ依ルト一億五千萬圓ニナルヤウニ計算ヲ承ツテ居ル、又地租ノ如キモ率カラ申シマスレバ、現行法デ言ヒマスルナラバ、國稅、地方稅、總テヲ寄セマスルト實價價格ノ一・四ニナツテ居ル、今度ノ改正案ニ依ルト八・〇ニナツテ居ルノデアリマス、非常ナ減稅ニナツテ居ルノデアリマス、此ノ刻下時局多端ノ際ニ、國民ハ有ユル苦痛ヲ忍バナケレバナラヌト云フ此ノ際ニ、殊ニ是等ノ稅種ニ對シテソレ程ノ減額ヲシナケレバナラヌト云フ——是ハ稅ハ輕イ程宜イニ相違ナイノデアリマスガ、併シ今日ノ狀態デ是程マデ減額シナケレバナラヌト云フ必要ニ迫ツテ居ルノデアリマスカ、是ハ地方ニ餘裕ガアツテ減額ニナルナラバ吾等ハ非常ニ之ヲ歡迎スルノデアリマス、又感謝スルノデアリマスガ、有ユル稅ヲ漁ツテ見テドウモナイ、仕方ナクシテ內務省ノ御方針ノ、地方ノ稅ハ成ベク物稅ヲ以テ充テ、已ムヲ得ナイ場合ニ若干ノ人稅ヲ之ニ加ヘヨウト云フ全體ノ構成ニ稍、反シテモ、此ノ現在アル所ノ稅ヨリモ尙ホ少ク徵收シナケレバナラヌト云フヤウナ稅ノ建テ方ヲ御執リニナツタト云フ、其ノ理由ハ何處ニアルカ、隨テ斯様ナ構成ヲナサツタ結果、從來ノ稅ヨリハ今度ノ地方稅ノ人稅ト物稅ヲ比較シテ見マス、人稅ノ方ガ餘計ニナツテ居ル、此ノ點カラ見テモ私ハ內務大臣ノ會テ御聲明ニナツタ地方ノ稅ハ成ベク物稅ニシテ、人稅ハ少クスル、人稅ハ國稅ニ充テルヤウニスルト云フ御趣旨ニ反シハシナイカ、其ノ點ニ付テ內務當局ノ御意向ヲ一ツ伺ツテ見タイと思ヒマス

○狹間政府委員 此ノ稅制全體ノ機構ヲ考

ヘマス場合ニ、土地増價税、間地税、庭園税ト云フヤウナモノヲ考慮ニナゼ加ヘナ

カツタカト云フ御質問デゴザイマスガ、是等ノ税ハ地租、家屋税等ト違ヒマシテ全國普遍的ノモノデモゴザイマセヌシ、又各地方ノ實情ニ應ジテ課税致スベキモノデアリ

マスカラ、三收益税等ト合セテ之ヲ一般ノ財源關係ノ總額ノ中ニ加ヘナカツタノデアリマス、又一面成ベク地方ノ税ニ餘裕ヲ持タセルト云フ必要モアル譯デアリマスカラ、

是ハ許可課目トシテ殘シテ置イタ譯デアリマス、ソレカラ此ノ非常時ニ際シテ土地課税、營業ニ對スル課税等ガ非常ニ安クナツテ居ルデハナイカト云フ御意見デアリマス

ガ、營業税ニ付キマシテハ、只今御示シナリマシタ數字ハ多少計數的ニ違ツテ居リマシテ、平年度ニ於キマシテハ二億八千万圓ト云フ風ニ考ヘテ居リマス、尙ホ地租ニ

付キマシテハ地租其ノモノハ賃賃價格ノ百分ノ八ト云フコトニ致シテ居リマスケレドモ、是ハ國稅、地方稅ヲ通ジテ今度ハ負擔

ノ均衡ヲ得ルヤウニ考ヘナケレバナリマセヌノデ、地租ノ課率ノミヲ上ゲテ置クト云フコトハ負擔公平上不適當デアリマスカラ、

其ノ兩者ヲ混同セマシテ、地租ニ付キマシテハ百分ノ八ト云フヤウニ決定ヲ致シタノデアリマス、ソレカラ物稅、人稅ノ關係

ニ付テノ御質疑デアリマスガ、物稅ヲ地方稅ノ中心ト致シマスト云フコトハ、是ハ獨立

相當多額ナモノヲ見込シテ居ル譯デアリマス

○小山委員長 ソレデハ武田サン、アトノ御質問ハ留保サレマシテ、內務大臣ガ才見エニナリマシタカラ、長野君ガ內務大臣ニ

對スル御質問ヲ留保セラレテ居リマスカラ、此ノ際之ヲ許シマス

○長野委員 內務大臣ニ御聽キシタイト存ジテ居リマシタコトハ、其ノ後他ノ政府委員ノ方ニ依ツテ御答辯ガアリマシタノデ、

稍、明瞭致シテ居ルノデアリマスガ、若シ他ノ方ノ御都合デ御許ガ願ヘマスナラバ、極ク簡單ナコトデアリマスカラ、內務大臣御臨席ノ下ニ政府委員ノ方カラ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

○小山委員長 宜シウゴザイマス

○長野委員 ソレデハ御許ヲ得マシタ、先日私ノ質問中市町村民稅ノ關係ニ付キマシテ、後デ速記録ヲ調べ見ルト、尙ホ十分意味ガ徹底シナイ點ガアリマスノデ、此ノ點ヲ簡單ニ御尋致シマシテ明瞭シテ置キタ

イト存ジマス、ソレハ市町村民稅課稅ノ客體タル納稅義務者ハ、十月一日現在ノ調査ヲ以テ押ヘルト言ハレテ居ルノデアリマスガ、此ノ十月一日ハ前年度ノコトヲ指スノ

デアリマスルカ、乃至ハ當該年度ノコトヲ言ハレルノデアリマス

フ時ニハ手直シヲシテ行キタイ、斯ウ言ツテ居ラレルノデアリマスガ、是ハ殊ニ大都

市ノ如キ、對象デアル納稅義務者ガ百万モ百五十万モアルト云フ場合ハ到底出來得ナイコトト私ハ思フノデアリマスガ、是ガ前

年度ト云フコトデアリマスルト、是ハモウ絶對ニ殖エル筈ハナイノデアリマス、十月一日ガ假ニ一萬アル、八圓デ八萬圓デアリ

マス、而シテ之ヲ其ノ年度ノ終ニ於キマシテ例ヘバ豫算ヲ組ンデ、翌年三月ニ來年度豫算ヲ議決致シマシテモ、實際ハ其ノ間ニ

時日ヲ經過致シテ居リマスカラ、移動ガアリマシテ、此ノ移動ニ依ツテ實際ガ豫算ニ

ハ絶對ニ生ジマシテモ、超過スルト云フ處レシタ爲ニ徵稅ガ全部無効ニナルト云フ處ハ

ナイノデアリマスガ、併シ只今仰セニナリマシタヤウニ、該當年度ノ實績ト云フコトデアリマス、ドウシテモ今ノ數字ニ狂ヒ

ガ生ズルト同時ニ、或ハ手直シト云フコトモ簡單ニ濟マナイ、實際ニ之ヲ扱フ者ノ立

場ニナツテ見マス、非常ニ煩雜ナ仕事ニナルト云フコトヲ心配致シテ居ルノデアリ

マスガ、尙ホ此ノ點ニ付テ明瞭ニ御答辯戴キタイト思ヒマス

○挾間政府委員 前年度ノ十月一日ヲ押ヘルト云フコトニナリマス、前年度ニハ居

ツタガ當該年度ニハ居ナイト云フヤウナ人ガアリ、又前年度ニハ居ナカツタガ今ハ居

ルト云フヤウナ人ヲ押ヘルコトニナリマシテ、是ハ課稅技術上到底前年度ヲ此ノ市町

村民稅デ押ヘルト云フコトハ出來ナイコトデアリマス、ソコデ當該年度ヲ押ヘマス、

納稅義務者ノ數ニ於テハハツキリト指定出來マスガ、例ヘバ千圓課ケル者ガ何人居ル

ト云フ見込デヤツタ所ガ、ソレガ十月一日ニハ數ガ多クナツテ、ソコデ八圓ナラ八圓、

六圓ナラ六圓ニ納稅義務者ノ總數ヲ乘ジマシタモノノ額ヨリ場合ニ依ツテハ超過シナイトモ限リマセヌ、左様ナ場合ハドウシテ

モ此ノ賦課額ニ變更ヲシテ、八圓平均ヲ超過シナイヤウニ、六圓平均ヲ出デナイヤウ

ニシテ賦課ヲシナケレバナラヌノデ、其ノ時ニハモウ一度手數ヲ掛ケナケレバナラヌ

ト考ヘテ居リマス

○長野委員 是ハ例ヘバ昭和十五年度ノ市町村民稅ヲ決定致シマス時ニハ、十四年ノ

十月一日現在ヲ押ヘテ行ツタ方ガ便利デヤナイデセウカ、假ニ昭和十四年ノ十月一日

現在ニ、東京市內ニ此ノ課稅ノ客體ガ十萬アルト致シマシテ、是ガ八圓平均デアリマ

スルカラ、八十萬圓ト云フコトニナルノデアリマス、而シテ是ノ中ニハ千圓モアマセ

ウ、或ハ一圓モアリマセウ、五十圓モ百圓モアリマセウ、兎ニ角總額ニ於キマシテ八

十萬圓ト云フコトデ之ヲ豫算ニ計上シテ、市會ノ議決ヲ經ル、然ルニ是ガ三月後即チ

昭和十五年ノ四月頃カラ徵稅ガ出來ルノデアリマスガ、併シ四月ニハモウ相當ノ時日

ガ對象物デアアルノデアリマスカラ、其ノ點ハ私ハ心配ナイト思ヒマス、斯ウ云フ風ニ致シマスナラバ、仰シヤルヤウニ、比較的後デ數字ノ狂ヒモ生ゼス、又絕對ニハ生ジ得ナイ譯ナンデアリマスガ、ドウシテハサウ云フ風ナ狂ヒノ生ジ、動モスレバ法律上疑義ノアルヤウナ當該年度ヲ押ヘテ課稅ノ期日ト云フコトニナサツタノデスカ、今一度之ヲ御示シテ願ヒタイノデアリマス

○三好政府委員 御心配御尤モト思フノデアリマスガ、何レニシマシテモ前年度ヲ押ヘマスコトハ、移動ノ激シイ大都市等ニモ一齊ニ適用スル制度デゴザイマスカラ、避ケナケレバ相成ラス、成ベク事實ニ近イ所デ押ヘナケレバ相成ラヌト思フノデアリマス、ソレナラバ本年ノ十月一日デ本年度ノ稅ヲ取ルト云フコトハ困難デアアルカト云フ問題ニナリマス、豫算ノ計上額ノ問題ト、實際ノ賦課徵收ノ問題ハ別デアリマスカラ、長野サンノ仰ツシヤルヤウナヤリ方ヲ、十月一日ニ調査シタモノニ付テヤレバソレデ宜シイノデアリマシテ、サウ煩雜ナ問題モナカラウカト思フノデアリマス

○長野委員 サウスルト豫算ヲ餘程内輪ニ組マナケレバ超過スル虞ガアル、超過シタ時ニハ手直シヲスル、手直シハ中々簡單ニ行カナイ、結局ソレハゴタ／＼ガ生ズルト云フコトニナルト思ヒマスガ、併シハ先月カラ何人モガ質問致シマシテ御答辯ヲ得テ居リマスルケレドモ、マダ頭ニ入ラス問題デアリマスルカラ、是ハ後日ニ殘スト云フヨリモ、寧ロ間違ヒノナイヤウニ、又能ク徹底スルヤウニ、關係下級ノ方面ニ御諭シテ戴ケバ結構ト思ヒマスカラ、此ノ點ニ付テハ議事ノ進行上質問ヲ打切りタイト存ジマス

ス 次ニ市町村ノ特別稅ノ問題デアリマスルガ、御承知ノ通り、現在何レノ市町村ニ於キマシテモ、色々ノ事情及ビ必要カラ幾多ノ特別稅ガ現存シテ居ルコトト信ズルノデアリマスガ、是ハ今回ノ稅制改革ニ際シテ、府縣稅ニ組替ヘラル以外ノモノ全部ヲ市町村ノ特別稅トシテ其ノ儘存置セシムル御意思ナリヤ否ヤト云フコトヲ伺ヒタイノデゴザイマス

○狹間政府委員 ソレハ今度ノ地方稅法ニ於キマシテ第六十三條ニ法定致シテ居ルモノガアリマス、是ハ全部差支アリマセス、其ノ他ノモノニ付キマシテハ新法ニ依ツテ許可ヲ受ケルト云フコトニナルノデアリマ

○長野委員 第九十一條ニ依リマシテ現在市町村ガ既ニ特別稅トシテ、此ノ指定以外ノモノヲ取ツテ居ル所ガ相當アルト思フノデアリマスガ、是ハ如何デスカ、其ノ儘御認メニナルノデヤナイカト思ヒマスガ、無論府縣稅ニ組替ヘラルモノハ致シ方ガアリマセスガ、殘リマスモノハ其ノ儘認メラレ

ルコトガ私ハ穩當ナ方法デヤナイカト思フノデアリマスガ、モウ一度御尋致シマス
○三好政府委員 是ハ精査シテ決定ヲ致シマスガ、大體ノ考ト致シマシテハ、此ノ規定ヲ設ケマシタ趣旨ハ長野サンノ仰シヤルヤウナ意味デ指定ヲシタイト云フコトデアリマス、唯戸數割類似ノ稅ノ如キモノハ勿論指定カラ外シマシテ、大體差支ナカラウト認メラレル稅デケテ指定致ス考デアリマスガ、考ヘ方ハ長野サンノ仰シヤルヤウナ趣旨ニ於テ此ノ規定ヲ設ケタ譯デアリマス
○長野委員 政府當局ニ於カレマシテハ、

先頃ノ稅制委員會ニ於キマシテ、來年度カラ地方行政連絡委員會ヲ設ケテ、年々歲々増加ノ一途ヲ辿リツツアリマスル國政委任事務ノ取扱ニ關シテ市町村ノ財政上ノ壓迫ヲ緩和シタイ、或ハ自治ノ活動ヲ阻害スルコトノナイヤウニ十分考慮シタイ、斯ウ云フ趣旨デ御説明ニナツテ居ルノデアリマス、果シテ事實デアリマスレバ、是ハ洵ニ結構ナ御企テデアリマシテ、私共一日モ速ニ其ノ實現ヲ希望シテ已マスノデアリマスガ、此ノ委員會ノ構成内容及ビ其ノ審議事項ハ如何ナルモノデアリマスカ、御示シテ願ヒタイト存ジマス

○狹間政府委員 是ハ官制ノ内容ニナリマスノデ、此處デマダハツキリト申上ゲル程度ノ腹案ヲ持ツテ居リマセスガ、大體官廳内部ノ組織ニ致シタイト思フノデス、即チ地方行政ニ關係ノアル各省ノ次官ト申シマスカ、局長ト申シマスカ、サウ云フモノヲ以テ組織シマシテ、ソシテ地方行政ニ關係アル行政各部門ノ事項ニ付テ連絡ヲ執リ、審議ヲスル、隨テ御述ニナリマシタ國費、地方費ノ負擔區分ノ問題、國ノ事務ヲ地方ニ委任スル場合ニ於テドウ云フ風ニスルカト云フヤウナ事項等ヲ、此ノ機關ニ於テ協議シ決定シタイト考ヘテ居リマス

○長野委員 サウスルト地方ノ下級團體ト云フヤウナモノカラハ委員ノ御採リニナラヌト云フコトデアリマスカ、例ヘバ市町村方面カラ御採リニナラヌト云フコトニナリマスカ

○狹間政府委員 ソレハ必要ガナイト思フノデアリマシテ、専ラ中央官廳ノ連絡ヲ取ルノガ必要デアリマス、今御述ニナリマシタヤウナ地方ノ聲ト云フコトハ、今度地方

稅制ノ改正ニ伴ヒマシテ監督機構ガ中央地方ニ出來マスノデ、其ノ方デ十分聽取ルコトガ出來ルヤウニ考ヘテ居リマス

○長野委員 本年度カラ自轉車稅ガ地方市町村ノ財源ニ委讓サレタノデアリマスガ、此ノ自轉車稅ハ多年惡稅トシテ其ノ撤廢ガ叫バレテ來テ居ルコトハ、既ニ當局ノ御承知ノ通りデアリマス、而モ之ヲ徵稅致シマスル其ノ技術ノ方カラ申シマシテモ、異動ノ極メテ激シイ洵ニ困難ナモノデアリマスルカラ、若シ將來地方團體ニ於キマシテ、他ニ代ルベキ稅源若クハ財政上ノ餘裕ガ出來タト云フヤウナ場合ニハ、先ヅ第一ニ之ヲ廢止セシムベキモノデアルト私共ハ考ヘルノデアリマスガ、御當局ノ御意向、竝ニサウ云フ場合ニハ政府自ラガ之ヲ指導シテ其ノ實現ヲ圖ラシメルコトニ御努力ナサル御意思アリヤ否ヤト云フコトヲ承ツテ置キタイト思ヒマス

○狹間政府委員 自轉車稅ニ付テハ度々御意見ガ出テ居リマスガ、今度ノ稅制ニ依リマシテ半額程度ニ減稅ヲ致シマス、唯之ヲ存置致シマシタノハ、他ノ舟稅トカ或ハ荷車稅トカ云フヤウナモノトノ權衡モアリマスシ、ソレカラ地方ノ施設ノ受益ノ關係モアリマスノデ之ヲ存置致シテ置キマシタ、併シ地方ノ實情ニ依ツテ、之ヲ廢止シヨウト云フ場合ニハ、ソレハ洵ニ結構デアラウト思ヒマス、唯他ノ稅トノ鈞合、受益ノ關係等ヲ考慮シテ廢止ノ方針デ進ミマス場合ニハ、ソレハ結構ナ態度デアアル、斯ウ考ヘテ居リマス

○長野委員 最後ニ一點伺ヒタイノデアリマスガ、制限外課稅ノ問題デアリマスガ、法案第六十一條ノ但書ノ中ニ、地租、家屋

及ビ營業ノ三收益稅ノ市町村附加稅ハ、特ニ數項目ヲ舉ゲラレマシテ、本稅ノ百分ノ二百ノ制限外ヲ二百四十マデハ不要許可事項トシテ認メラレテ居ルノデアリマス、此ノ項目ノ中ニハ、先ヅ、小學校ノ營繕費、災害應急費並ニ災害復舊費、傳染病豫防費及ビ國營事業費負擔金ニ充ツル爲ニ借入レマシタ負債ノ元利償還ノ爲ニ費用ヲ要スルトキ、斯ウ云フ風ニナツテ居ルノデアリマス、是ガ第一デアリマス、ソレカラ第二ハ、災害應急又ハ復舊ノ爲ニ費用ヲ要スルトキ、第三ハ、傳染病豫防ノ爲ニ費用ヲ要スルトキ、斯ウナツテ居ルノデアリマス、無論此ノ第二、第三ハ共ニ臨時突發ノ事項ノ應急措置ノ方法トシテ當然デアリマスルガ、併シ之ニ小學校ノ營繕ノ費用ヲ要スル場合ヲモ追加スベキモノデヤナイカト云フ風ニ考ヘルノデアリマス、申上ゲルマデモナク、現今小學校ノ増築又ハ修築等ノ急ヲ要スルモノガ頗ル多イコトハ、先日來此ノ小委員會ニ於キマシテノ教員給ノ問題ニ關スル論議ノ中ニモ、極メテ明瞭トナツテ居ルノデアリマシテ、而モ此ノ營繕修築等ノ費用ト、法案第六十一條但書第一號ニ規定スル所ノ小學校營繕費ニ要シタル借金ノ元利支拂ノ費用トハ、何レヲ先ニシ何レヲ後ニスベキカト云フコトニ付テハ全然差違ヲ認メラレヌコトト私ハ考ヘルノデアリマス、況ンヤ都市ノ實情カラ申シマスレバ、小學校ノ營繕費ハ一般歲入ト起債ニ依リマシテ、年々歲々之ヲ繰返シテ豫算ノ上ニ計上シテヤツテ來テ居ルノデアリマシテ、決シテ一時ニ多額ノ借金ヲシテ、之ヲ年々ボツ／＼支拂ツテ行クト云フヤウナ實情ニハ置カレテナイノデアリマス、サウ云フ風ナ生ヤサシイ

モノデハナイノデアリマスルカラ、私ハヤハリ此ノ小學校ノ營繕即チ建築修築等ニ要スル費用モ、百分ノ二百四十マデハ不要許可事項トシテ御認メニナルコトガ適當デハナイカト考ヘルノデアリマスルガ、此ノ點御説明ヲ戴キタイと思ヒマス

○挾間政府委員 第一號ハ負債ノ元利償還ノ問題デアリマシテ、第二號、第三號ニ掲ゲラレマシタモノト一寸性質ヲ異ニシテ居リマス、隨テ小學校ノ營繕費ニ付キマシテハ、二號、三號ノ如キ費用トハ性質ヲ異ニシテ居リマスシ、又借金ノ問題トハ別ニ考ヘタイト思ヒマス、隨テ此ノ二號、三號ト併セテ小學校ノ營繕費ハ茲ニ掲ゲテ居リマセヌガ、併シナガラ、元來此ノ規定自身ガ、此ノ但書ト云フモノハ許可ヲ省略スルト云フ意味デ出來テ居ルノデアリマス、小學校ノ營繕費等ニ付キマシテハ、無論必要ニ應ジマシテ制限外ノ課稅ヲ、一定率ヲ増加シテ課稅スルト云フコトハ承認スル方針デアリマス

○長野委員 ソレデハ只今此ノ許可ヲ求メレバ支障ナク承認シテ行クト云フ御意向デアリマスネ——能ク分リマシタ、ソレデハ私ノ質問ハ一應是デ打切りマス

○小山委員 飯田君、何カ關聯質問ガアルノデスカ

○飯田委員 今日ハアリマセヌ

○小山委員 今ソレデハ武田君

○武田委員 先程御伺シタコトニ付テ更ニ御伺致シマス、私ハ内務大臣デナクテモ宜シウゴザイマスカラ、大臣ガ若シ御差支ガアルナラバ、他ノ方ヘオ出デテ願ツテモ私ノ質問ニ關スル限り差支アリマセヌ、先程

地方局長ニ尋ネタ點ニ付キマシテ、私ハ此

ノ分與稅ノ性質ハ、地域のナ不均衡ヲ是正スル目的トシテ初メテ分與稅ノ意味ガアルモノト考ヘテ居ルノデアリマスガ、内務當局ハ、ソレト強力ナル財源ヲ地方ニ與ヘルト云フ意味モ加ヘテノ立案ダト云フコトデアリマスカラ、其ノ點ハ私ト實ハ見解ヲ異ニシテ居ルノデアリマスカラ、其ノ點ハ別ト致シマシテ、從來御承知ノ通り地域のノ不均衡ヲ是正センガ爲ニ、地方財政調整交付金ト云フモノハ漸次増額サレマシテ、一億五千萬圓程度ニナツテ居ルト思ヒマス、從來地方ノ自治團體ガ地域的ニ負擔ノ甚ダシク不均衡ノアルト云フ聲ハ、ココ一二年ニ始ツタコトデハナイノデアリマス、最早十數年位此ノ事ハ非常ニ強ク唱ヘラレテ、國庫負擔ノ教育費ノ地方ヘノ交付モ、隨テ此ノ調整ノ意味デ交付サレテ來タコトハ申スマデモナイノデアリマス、ソレダケデハイカスト云フコトデ、衆議院ガ再三政府ニ要望シテ、順次ハ三四回ニ互ツテ増額サレテ、今日一億五千萬圓近クニナツテ居ルノデアリマス、其ノ衆議院ノ要望モ結局ハ此ノ程度デ先ヅ宜カラウト云フヤウナ意味デ、前々議會デ是ガ決定サレタノデアリマシテ、私ノ知レル限りニ於テハ、此ノ地方財政交付金ト義務教育費ノ國庫負擔ノ調整ノ作用ニ依ツテ、地方ノ地域の不均衡ハ稍、是正サレテ居ルノデアリカト思ツテ居ルノデアリマスガ、内務當局ハマダ此ノ程度ノ金額デハ十分ニ是正サレナイト云フ御見込デ、此ノ度三億數千萬圓ノ金ヲ調整交付金トシテ豫定サレタノデアリマスガ、果シテサウデアルト致シマスレバ、從來ノ地方財政交付金ノ増額ニ對スル内務當局ノ態度ト、今度此ノ稅制改正ニ當ツテ俄ニ大

盤振舞ヲスルヤウナ御心持ニナラレタ内務當局ノ態度トハ、甚ダシクソコニ懸隔ガアルノデ、一寸私ハ解シニクイノデアリマス、ドウモ私ノ見ル所デハ、稍、是ハ是デ是正サレテ居ルノデアリカ、故ニ地域のノ不均衡ヲ是正スルト云フ意味デアリマスナラバ、是程配付稅ハ多額デナクモ宜イノデハナイカ、元來餘リニ此ノ配付稅ヲ多額ニサレテ居ルカラ、地方ノ財政自主權トノ衝突ガ甚シクナツテ來ルノデ、今議會ニ於テモ此ノ點ハ最初カラ論議ノ的ニナツテ居ルノデアリマス、金額ガ少ケレバサウ云フ論議ハ少イノデアリマス、餘リニソレヲ一足飛ビニ、從來一億五千萬圓デアツタモノヲ三億五千萬圓ニモ飛上ル、又義務教育費國庫負擔金ヲ調整財源ト假ニ見マシテモ、二億二千萬圓位ニ過ギナイノデアリマス、ソレヲ一億圓以上モ俄ニ引上ゲルト云フノハ私ハ餘リニ飛ビ過ギハシナイカ、斯様ニ實ハ思フノデアリマス、思フニ内務當局ハ、財源ガ無イカラ其處ヘ行ツタノダト云フ結論デアラウカト思フノデアリマスケレドモ、ドウモ地域のノ負擔均衡ト云フコトカラノミ見マス、少シク餘計飛ビ過ギハシナイカト云フヤウニ思フノデアリマスガ、其ノ點ハ如何デアリマスカ

○挾間政府委員 今度ノ分與稅ト、只今マデアリマス臨時地方財政補給金トハ全然性質ガ違フノデアリマシテ、補給金ハ廢減稅以外ニハ使ヒマセヌ、併シナガラ分與稅ハ左様ナ稅ノ輕減ト云フコトヲ目的トシテ居ルノデハナクシテ、只今申上ゲマシタヤウニ、地方團體間ノ負擔ノ均衡ヲ圖リ、又地方ノ財源ヲ充足シテヤルト云フコトヲ目的ト致シテ居ルモノデアリマス、隨テ一方ニ

於テ廢減稅以外ニ使ヘナイ臨時補給金ト違
ツテ、是ハ一般ノ地方費トシテ地方團體ガ
如何ナル費途ニモ使用シ得ルト云フ特質ヲ
持ツテ居ルノデアリマシテ、補給金ノ増額
ト云フヤウナ意味合デ是ガ出來テ居ルノデ
ナクテ、全ク地方稅制ノ一部トシテ之ヲ考
ヘテ居ルモノデアリマス、隨ヒマシテ是ハ
決シテ地方團體ノ自主制ト申シマスカ、地
方自治ノ手足ヲ縛ルヤウナ考ハ、此ノ分與
稅制ニハナイノデアリマシテ、之ニ依ツテ
益、地方自治ガ十分發達ヲ遂ゲルコトガ出
來ル譯デアリマス、詰リ稅制全體ガ獨立稅
ト配付稅ト合ハサレマシテ、地方ニ適當ナ
ル必要財源ガ各團體ニ付テ得ラレルヤウナ
構成ヲ致シテ次第デアリマス

○武田委員 其ノ點ハ大體了承致シマシタ、
然ラバ更ニ進ンデ御伺ヲ致シタイノデアリ
マスガ、此ノ點ハ先程私ノ質問ニ對スル御
答辯デ御諒承ヲ願ツテ居ル筈ダト私ハ存ジ
マスガ、即チ所得稅並ニ法人稅ノ一部ヲ分
與稅ノ財源ト致サレマシタノハ、更ニ遊興飲
食稅モ其ノ中ニ入ツテ居リマスガ、是ハ其
ノ稅種ヲ地方稅トシテ與ヘルモノト認メテ
宜カラウト思ヒマスノデ、其ノ點ハ先程ノ
御答辯デ私ト同ジ御意見デアルヤウニ私ハ
予承シテ居ルノデアリマス、唯其ノ徵收配
付方ノ手段ガ違フト云フダケデ、詰リ所得
稅、法人稅、並ニ遊興飲食稅ヲ地方稅構成
ノ一部ニ編込シテアルト見テ宜カラウト私
ハ思フノデアリマス、左様ナ了解ノ下ニ、
是カラ御伺シテ宜シイノデアリマセウカ、
念ノ爲ニ其ノ點ヲ今一應確メテ置キマス
○狹間政府委員 御述ニナリマシタ通りデ
アリマス
○武田委員 サウ云フ風ナ意味デアルト致

シマスナラバ、配分ノ基準ニ付テ、私ハ此
ノ原案ト非常ニ違ツタ考ヲ實ハ持ツテ居ル
ノデアリマシテ、其ノ點ヲ御同致シタイト
思ヒマス、既ニ所得稅、法人稅並ニ遊興飲
食稅ヲ單ニ配付稅ノ財源トシテノ意味ニア
ラズシテ、是等ノ稅種ヲ地方稅ノ構成ノ一
部ニ入レテ居ルノダト云フ觀念カラ參リマ
スト、各地方ニ於テ、所得稅ノ對象タル國
民ノ所得、法人稅ノ對象タル法人ノ所得並
ニ資本金、又遊興飲食稅ノ對象タル遊興飲
食ヲシテ居ル所ノ料理屋其ノ他ノモノガ、
各地方ニ稍、均分ニサレテ居ルナラバ、必ズ
シモ此ノ分與稅ノヤウナ組織ヲ採ラスデ
モ、附加稅ノ組織デ差支ナイモノト私ハ思
フノデアリマス

〔委員長退席、石井委員長代理著席〕

是ガ唯均分ニ分布サレテ居ナイカラ、ソレ
ニ附加稅ヲ許シタダケデハ負擔ノ不均衡ハ
是正セラレナイト云フ意味デ、其ノ手段ト
シテ分與稅ノ組織ヲ設ケラレタモノト思フ
ノデアリマスガ、其ノ點ハ如何デアリマス
カ

○狹間政府委員 所得稅、遊興稅ダケニ
付テハ御述ニナリマシタ通りデゴザイマス
ガ、併シナガラソレニ關聯シマシテ、地租、
家屋稅、營業稅ノ三收益稅ノ財源ノ分布ト
云フコトヲ併セテ考ヘナケレバナラヌト思
ヒマス

○武田委員 是ハ私一寸其ノ意味ガ了解ニ
苦シムノデアリマスガ、三收益稅ハ、之ヲ
今ノ配付稅ノ性質デ還付稅ニスルト云フノ
ハ、ソレハ其ノ狀態デ大差ナイ、差支ナイ
ト云フ御見解カラ還付稅ニサレタモノト私
ハ思フ、ダカラ若シ所得稅並ニ法人稅等ノ
稅ヲ對象物ガ各地方ニ稍、均一ニ分布サレ

テ居ツテモ、今ノ局長ノ御意見カラスレバ、
分與稅ノ制度ニシナケレバナラヌト云フ結
論ニナルノデアリマスガ、ソレハドウデア
リマスカ

○狹間政府委員 其ノ點ハ此ノ三收益稅
ハ、一應獨立ノ財源ト致シマシテ、サウシ
テ所得稅、法人稅等ヲ配付稅トシタノデア
リマシテ、是ハ三收益稅ヲ獨立稅ト致シタ
其ノ建前ノ上ニ於テ、今回ノ配付稅ノ配付
ノ基準ヲ定メタノデアリマシテ、全體ヲ睨
ミ合ツテノ構成ニナツテ居ルノデアリマス
○武田委員 配付稅ト獨立稅トヲ御分ケニ
ナツタノハ、獨立稅ニスベキモノハ獨立稅
ニシテ差支ナイト云フ御認識ノ上ニナサ
ツタノデアリマセスカ、此ノ配付稅ハ其
ノ所得ノ對象ガ地域的ニ非常ナ差ガアツ
テ、其ノ儘ヲ地方ノ自治團體ノ財源ニシタ
ノデハ、地域的ノ不均衡ガ是正セラレナイト
云フ見地カラ、片方ハ配付稅ニサレタモノ
ト私ハ思フ、サウデナケレバ理窟ガ合ハナ
イヤウニト思フノデアリマスガ、其ノ點ハ
ドウデアリマスカ

○三好政府委員 御尤モデアリマスガ、是
ハ只今局長ガ申上ゲマシタ通り、兩方睨ミ
合ツテノ問題デアリマシテ、三收益稅ニ於
キマシテモ、地域的ノ偏在性ハ或ル程度ゴ
ザイマス、是ハ御承知ノ通りデアリマス、
之ヲ還付稅附加稅ト云フ形式ヲ採用シテ、
實質上ニ於テ獨立稅ト同ジ效果ヲ舉ゲルヤ
ウニ致シマス、或ル團體ハ相當多額ノ稅
收入ヲ得ルガ、或ル團體ハ其ノ三收益稅ノ
稅收入ガ少イト云フ所ガアリマシテ、ソレ
ノ地均シノ爲ニ、地域的ニ偏在性ノ強イ所
得稅、法人稅ト云フモノノ一部ヲ更ニ而モ
兩方睨ミ合セマシテ、獨立財源トシテノ三

收益稅ハ收入ガヤハリ凹凸ガアルケレドモ、
一方モツト凹凸ノヒドイモノヲ凹凸ノ儘ニ
ヤラナイデ、調整的ニ使フ、兩方デ合セテ
見ルト地均シガ出來ル、斯ウ云フ意味ニ於
テ配付稅ノ分與ヲヤル、配付稅ノ分與ヲサ
ウ云フヤウニヤリマスカラ、地域的ニ偏在
致シテ居リマスル三收益稅ト云フモノヲ獨
立稅ト同ジヤウナ仕組ニシテ、地方團體ノ
財源トシテヤツテ行ケル、斯ウ云フヤウニ
相成ル譯デアリマス

○武田委員 今財政課長ノ御話デ稍、了解シ
マシタガ、若シ左様ナ觀念カラ申シマス、
理想的ニ言ヒマスナラバ、三收益稅モ今ノ配
付稅ト同ジヤウナ組織ニシタ方ガ一番完全
ニ行クト云フコトニナリハシマセスカ

○三好政府委員 御尋ノ通り唯地均シヲス
ルト云フダケノ意味デゴザイマスナラバ、
或ハ偏在性ノ強イ地租、家屋稅ニ比ベテ、
營業收益稅ハ配付稅ニ致シマスレバ地均シ
ハ完全ニ出來マス、併シナガラソレデハ地
方財政ノ自主性ト云フモノガ失ハレマスカ
ラ、自治トノ調和ノ形ニ於キマシテ、一方
ヲ獨立財源トシテ置イテ、サウシテ最小限
度ノ地均シヲスル、斯ウ云フコトニ致スノ
デアリマス

○武田委員 サウシマス、モウ一步進メ
テ伺ハネバナラスノデアリマスガ、是ハ先
般小委員會ノ出來ナイ内ニ、ドナタデシタ
カ、既ニ質問デソレニ觸レテ居ツタノデア
リマス、私モ御尤ナ質問ダト思ツテ居ツタ
ノデアリマスガ、左様ニ致シマス、結局
地均シヲスルコトニ非常ニ力ヲ御入レニナ
ツタ結果、自治體ノ自主權ト云フモノガ、
ソレニ犠牲ニナツタヤウナ形ニナラウカト
思ハレルノデアリマス、何トナレバ、三收

益税ノ比較の不足ノ所、即チ其ノ財力ガ不足ト認メラレル所ニハ、逆比例ニ分與税ヲ餘計ナルト云フコトニナラナケレバ、地均シニナラスノデアリマスカラ、其ノ地均シノ意味デ此ノ法案ガ出來テ居ルノデアリマセウ、サウ致シマス、其ノ地方ノ自治團體ノ創意ヲ勵カシ、努力シテ結果、三收益税竝ニ附加税ガ餘計ニナツタ所ノモノハ、其ノ創意ヲ勵カシタコトヤ、努力ト云フヤウナモノノ結果ハ何ニモ認メラレナイデ、自動的ニ分與税ガ減ツテ來ル、勵力ナイモノハ餘計貫ツ、勵クモノハ少ク貫フト云フコトニナツテハ、私ハ地方ノ自治團體ノ自主性ト云フモノハ非常ニ害ハレルコトニナリハシナイカト思フ、ソコノ調和ヲ巧クスルコトニ、此ノ税制ノ構成ノ妙味ガアル、サウ云フヤウニ税制ヲ御立テニナラナケレバチラスノデハナイカ、何ト云ツテモ今度ノ此ノ分與税ノ新シイ組織ハ、極メテ巧妙ナ組織デアリマス、此ノ立テ方如何ニ依ツテハ、私ハ地方自治團體ノ自主權ノ衝突ハ免レナイト思フデアリマス、地均シニ餘力ヲ入レルト云フコトニナリマスレバ、ドウシテモ其ノ自治團體ノ自主權ト云フモノヲ認メル程度ガ薄クナルト云フコトハ、是ハ已ムヲ得スコトダラウト思フ、サウスルト、是ハ甚シキニ至リマスレバ、一種ノ共產思想ニ流レテ行ク危險ガアリハシナイカ、之ヲ個人ニシテ見テモサウデアリマス、各地方自治團體ノ自主權ヲ十分ニ認メルト云フナラバ、是ハ均分スル筈ガナイ、非常ニ勤勉ナ自治團體モアレバ、又勤勉ナラザル自治團體モアリマセウ、自分ノ團體ノ文化施設ニ力ヲ入レル團體モアレバ、單ニ經濟發達ニ力ヲ入レル團體モアル、

ソレヲ各自ノ自治團體ノ自主的ノ自由意思デサウ云フ計畫ヲスル所ニ、私ハ自治團體ノ自治團體タル所以ガアルノデアルト思フノデアリマス、現ニ此ノ點ニ付テハ、外ノ委員カラモ屢、質問サレタ時、内務大臣ハ明白ニ御答ニナツテ居ル、地方自治團體ニハ從來ト何等變リハナイ、益、其ノ基礎ヲ鞏固ニシテ、自治團體ノ發達ヲ圖ル積リデ、今度ノ此ノ税制ナドハ決シテ所謂全體主義ト申スカ、國家主義ト申スカ、サウ云フ觀念カラ出タモノデナイト云フコトヲ屢、御言明ニナツテ居ルケレドモ、之ヲ實施シタ結果ハ、私ハサウ云フ結果ニナリハシナイカト思フ、餘リニ當局ハ地均シニ力ヲ入レ過ギテ、地方自治團體ノ自主權ト云フモノニ衝突ヲ來シタヤウナコトニナツタノデハアルマイカト私ハ思フデアリマス、其ノ點ハ如何デアリマセウカ

○**狹間政府委員** 今回ノ此ノ税制ヲ立テルニ付キマシテ、地方自治ノ調和、地方自治ノ尊重ト云フコトニ付キマシテハ、十分注意ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、寧ロ此ノ税制ニ依リマシテ地方自治團體ノ活動ガ敏活ニナリ、活潑ニナルト私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ト申シマスノハ、多數ノ財政貧弱ナ團體ニ於キマシテハ、自分デ獨立ノ財源ヲ持ツテ居ルトハ申シマスケレドモ、實際ニハ形ノミアツテ、其ノ實ハナイノデアリマシテ、如何ニ腕ヲ揮ハウト致シマシテモ、必要ナル財源ヲ得ナイ、得ルコトガ出來ナイト云フノガ現在ノ貧弱ナル地方團體ノ財政狀況デアリマス、之ヲ放任致シマシテハ、幾ラ努力致シマシテモ、其ノ團體ガ、過重ナル負擔ヲサセマセス限リハ仕事ハ出來マセス、ソコデソレヲ補足シテ、十分ナ

ル財源ヲ與ヘルト云フ限度ニ於キマシテ、今回ノ配付税制度ヲ設ケタノデアリマス、隨テ此ノ配付税ヲ設ケマスノハ、其ノ必要ナル限度ニ止メナケレバナリマセスカラ、特ニ三收益税ノ如キモノハ、各地方團體ノ獨立財源トシテ殘シテアルノデアリマシテ

〔石井委員長代理退席、委員長著席〕

總計致シマシテ、六割六七分ト云フモノハ各地方團體ノ獨立ノ財源デアリマシテ、三割三四分ト云フモノガ配付財源調整財源トナツテ居ルノデアリマスカラ、詰リサウ云フ地方團體ノ活動ノ最少限度ノ下積的ノ財源トシテ配付税ガ與ヘラレ、其ノ上ノ六割六七分ト云フモノガ團體ノ自由ナル財源トシテ、獨立ノ腕ヲ揮フベキ餘地ニナツテ居ル譯デアリマス、殊ニ此ノ税ノ課率、税種等ニ付キマシテハ、十分自治體ノ自由ヲ認メルコトニ致シテアリマスカラ、此ノ税制ハ決シテ地方團體ノ自主權ト云フモノヲ拘束スルヤウナ結果ニハ相成ラヌト考ヘテ居リマス

○**武田委員** ソレ以上ハ或ハ意見ノ相違デアルカモ知レマセスカラ、先ヅ其ノ程度ニ致シマシテ、ソレニ關聯シテモウ一ツ伺ツテ見タイノハ、先程私が申上ゲマシタヤウニ、此ノ配付税ニ非常ニ金額ヲ多クシタト云フコトハ、他ニ適當ナ獨立財源ガナイ結果デアルト云フコトハ、是ハ内務當局モ既ニ御認メニナツテ居ル、ソレデ私ノ戶數割ト云フモノニ付テ少シク伺ツテ見タイノデアリマス、昨日モ地方局長ノ此ノ民税ニ付テノ御説明ハ、私共ニ適當ナ御説明トシテ承ツテ居リマシタ、即チ此ノ民税ハ負擔分任ノ從來ノ戶數割ノ長所ヲ採ツタノデアル、サウシテ國民負擔ノ均衡ト云フモノハ、民

税ヲ離レタ他ノ中央地方税ニ於テ負擔ノ均衡ヲ圖ツタノデアツテ、民税ハ負擔ノ均衡ト云フモノハ考慮ニ入レル必要ハナイノデアル、唯極輕イモノヲ、負擔分任ノ性質ダケヲ與ヘ、國民ガ地方自治團體ノ構成ノ一員ダト云フ自覺ヲ持タセル程度ノモノデアルト云フ御説明ノアツタノデアリマス、私ハ一應ノ御説明トシテハ洵ニ御尤モノ次第ダト思フデアリマス、併シナガラソレ故ニ從來ノ戶數割ノ長所ヲ棄テナケレバナラスト云フ理窟ニハナラスノデハナイカ、斯ウ云フ配付税ト云フヤウナ税ニ付テ、地方ノ自主權ト衝突スルヤウナ税種ノ金額ガ餘リ多過ギル、是ガ少ケレバサウ云フ議論ハ出テ來ナイ、成程全體ノ十億三千二百萬圓カラ比ベテ見マスナラバ、三千五百萬圓ト云フモノハ三分ノ一程度デアリマセウケレドモ、此ノ中央カラ地方ニ與ヘル税ト云フモノヲ受ケル自治團體ト致シマシテハ、ドウモ自分ノモノヲ自分ガ出シテ使フノト、國庫カラ貰フト云フ觀念トハ、何ト説明致シマシテモ、是ハ地方ノ自主權ノ觀念トハ、ドウシテモ受ケル方ノ人ノ頭ニ相違ガ出來テ來ルノデアリマス、ソレ故ニ地方ノ自主權ヲ尊重スルト云フナラバ、出來得ルダケ此ノ調整ヲ目的トシタ所ノ配付税ノ金額ヲ少クスルノガ私ハ相當デナイカト思フ、若シ此ノ私ノ考ヲ御肯定ニナリマスナラバ、其ノ他ノ財源トシテマダ認ムベキモノガ相當ニアリハシナイカト私ハ思フ、戶數割ノ如キハ、私ハ從來ノ戶數割ヲ存置サレテ何等差支ナイ、從來ノ戶數割ノ弊害ハ、是ハ殆ド天下ノ輿論ダト先達テ内務大臣ハ仰シヤツタガ、成程天下ノ輿論ニ相違ナイガ、是ハ税ノ性質ガ惡イト云フ意味ノ否定論デハナイ、金額ガ餘リ

多過ギテ負擔ニ耐ヘナイ、他ハ總テ制限サレテアツテ伸張ノ餘地ガナイノデアルカラ、總テ町村ノ必要ノ金ヲ戶數割ニ持ツテ行ツテ、即チ今日ハ二億何千萬圓ト云フモノガ戶數割ニナツテ居ル、餘リニ戶數割ガ多イカラ、其ノ弊害ガ今日現ハレテ來テ、殆ド天下ノ輿論トシテ戶數割ハ惡稅ナリト云フヤウナ結論ニナツテ來タノデアリマスルガ、詳カニ此ノ戶數割ノ内容ヲ見レバ、其ノ稅ノレ自身ガ必ズシモ非常ニ惡イノデハナイ、之ニ相當ナ制限ヲ加ヘマシタナラバ、寧ロ今日政府ノ認メラレテ居ル民稅ヨリハ稅ノ性質ハ良イノデハナイカト私ハ思フ、此ノ民稅ハ何トシテモ負擔分任ノ其ノ長所ダケヲ御用ヒニナラントシタ結果、甚シク人頭稅ノナモノニナツテ居ルノデアリマス、戶數割ハ見立割ノ部分モアリマスケレドモ、今日改正サレタ戶數割ニ於キマシテハ、所得稅ノ性質ヲ多分ニ帶ビテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ私ハ戶數割ト云フモノヲ今日現行法テ取ツテ居ル半額位ニ制限ヲ致シマスルナラバ、決シテ內務當局ノ御考ニナルガ如キ惡イ稅デナイ、相當良イ稅デアツテ、其ノ方ニ増サレタダケ、配付稅ノ方カラ減ズルコトガ出來ルノデハナイカ、斯様ニ私ハ考ヘルノデアリマス、多分內務當局ハ、所得稅ガ非常ニ高率ニナツテ居ルノデアリカラ、若シ今日マデノ戶數割ヲ認メルシタト同ジ結果ニナルト云フ風ニ御考ニナルカモ知レナイ、サウ云フ風ナ御説明ガアツタヤウニ承ツテ居ルノデアリマスガ、然ラバ中央地方ヲ見テ其ノ均衡ヲ圖ラウト云フ上ニ於テ、若シ眞ニ今日ノ新シク定メラレマシタル所得稅ガ、國民ノ負擔ノ限度ニ

ナツテ居ルモノト云フコトデアリマスレバ、是ハ已ムヲ得マセヌガ、私ハ限度ニナツテ居ルモノトハ思ハナイノデアリマス、是ハ地方稅トハ關係ガ薄イノデアリマスルケレドモ、一例ヲ以テ見マスルナラバ、佛蘭西ノ所得稅ヲ眞似タル我國ノ今度ノ提案ノ分所得稅ノ如キハ、御承知ノ通り佛蘭西ハ百分ノ十六ヲ課ケテ居ル、我國ハ百分ノ十シカ課ケテ居ラス、此ノ非常時局ニ當ツテ、私ハマダ所得稅ガ決シテ餘裕ガナイモノトハ思ハヌノデアリマス、又其ノ所得率ヲ以テヤルコトガ惡イト仰シヤルナラバ、ソレモ私ハ內務當局ノ御説明ト矛盾シタ點ガアリハセヌカト思フ、先般地方局長ハ、地方民稅ノ分配ヲドウ云フ方法デヤルカト云フ同僚ノ質問ニ對シテ、結局ソレハ地方ノ情勢デ作ルノデアル、詰リ各人ノ所得ヲ標準トシテ定メルコトニナルデアラウト云フ意味ノ御説明ガアツタノデアリマス、サウシマスト見様ニ依ツテハ、民稅モ亦所得稅ノ附加稅ノ一種ト認メラレヌコトモナイヤウニ私ハ考ヘラレルノデアリマス、何レニ致シマシテモ、此ノ戶數割ト云フモノヲ存置シナイデ民稅ニ變更サレタト云フ理由ニ付テ、私ハ十分ニ納得ガ行カヌノデアリマスガ、私ハ今申上ゲタ點ニ付テ御所見ヲ承レレバ幸ト存ジマス

○**換間政府委員** 戶數割ヲ輕減シテ存置シタラドウデアラウカト云フ御意見デアリマスガ、是ハ私共々、戶數割ト云フモノガ稅其ノモノトシテ惡稅デアルトハ考ヘテ居リマセヌガ、實施ノ結果ハ今日ノヤウナ狀態ニナツテ居ルノデアリマス、然ラバソレニ對シテ負擔ノ過重ヲ來サナイヤウニ、不合理ナ點ヲ是正シテ、長所ダケヲ殘サウト云フコトニ考ヘマシテモ、賦課ノ制限、之ヲ指導監督スルト云フ方法ニ付キマシテハ、到底判然トシタ基準ヲ求メルコトハ困難デアラウト思ヒマス、又之ヲ理想的ニ制限シテ參ルト云フコトニナリマス、實ハ戶數割ガ持つテ居リマス所ノ長所ヲ抑ヘテ行クト云フコトニナルノデアリマシテ、結局是ハ輕度ノ戶數割ト云フモノヲ存置スルト云フコトハ事實不可能デアツテ、假ニ是ガ一時的ニ出來ルト致シマシテモ、結局又何年カラ經テ參リマスレバ、元ノ通りニナツテ來ルノデハナイカト云フコトモ豫想ニ難クナイノデアリマシテ、此ノ意味ニ於テ戶數割ハ廢止セザルヲ得ナイト思フノデアリマス、又同時ニ市町村民稅ト戶數割トノ違ヒヲ色々申上ゲマシタガ、更ニ茲ニ市町村民稅ノ性質カラ考ヘマシテ、特ニ之ヲ創設スルコトガ必要デアルト思ヒマスノハ、戶數割ヲ施行セザル市町村ニ於キマシテモ、ヤハリ市町村民稅ハ創設セナケレバナラヌノデアリマシテ、其ノ意味カラ致シマシテ、負擔分任ノ精神ヲ稅制ノ上ニ於テ擴充スル爲ニハ、市町村民稅ニ依ル方ガ更ニ適切デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ意味ニ於キマシテ戶數割ヲ廢止シテ、新シク市町村民稅ヲ設ケタノデアリマス

○**武田委員** 其ノ點ニ付テモウ少シク伺ヒタイノデアリマスガ、從來戶數割ヲ設ケズシテ、其ノ代リニ所得稅ノ附加稅ヲ東京市ノヤウナ大都市ハ取ツテ居ツタノデアリマスガ、私共ノ承知スル所ニ依ルト、大都市デ戶數割ヲ取ラナイノハ、徵稅費ガ非常ニ殖エテ、手數ガ非常ニ煩雜ナ爲ニヤリ切レナイカラ之ヲ廢メテ、戶數割ヲ取ルノヲ所得稅ノ附加稅テ取ツテ居ルト云フ風ニ私ハ承知シテ居ルノデアリマス、若シソレガ事實デアルト致シマスレバ、民稅ニナツテモ同ジ結果ニナリハシマセヌカ、先程申上ゲタ通りニ先達テ地方局長ハ、此ノ民稅ノ賦課ノ率ヲドウスルカト云フ時ニ、詰リ段階ヲ所得ニ依ツテ定ムルノ外ハナカラウ、斯ウ云フ條例ヲ作ルコトニ結果ハ相成ルデアラウト云フコトニ御説明ニナツタ、私モドウモ全然之ヲ見立割ニスル譯ニハ行カナイデアリマス、最高ハ決ツテ居ルカラ最高ハソレト致シマシテ、ドウシテモ最高ト最低トノ間ニ——最低ハ此ノ法律デハ決ツテ居ラスノデアリマスカラ、詰リ最高以下ノ民稅ノ賦課ノ率ト云フモノハ、ヤハリ所得カ何カニ依ツテ決メル外ニ仕方ガナイノデアリマス、若シ其ノ所得ニ依ツテ率ヲ決メルモノト致シマスナラバ、大都市ニ於テハ今日ト少シモ變リハナイノデアリマスガ、其ノ實行ニ付テハ非常ニ支障ガアリハシマセヌカ、此ノ點ハ如何デアリマスカ

○**換間政府委員** 戶數割ノ課稅標準ノ決定ハ、御存ジノヤウニ非常ニ複雑ニナツテ居リマス、隨テ大都市等ニ於キマシテ之ヲ調査決定スルト云フコトハ、調査費ニ非常ニ金ガ掛ルノミナラズ、實際問題トシテ調査ガ致シ兼ネル事情モアリマスカラ、是ハ大都市ニ施行スルコトガ現在ノ實情トシテ出來ナイト思フノデアリマス、併シナガラ市町村民稅ニ於キマシテハ、戶數割ノヤウナ複雑ナ標準ヲ設ケテ居リマセヌノデ、市町村ノ實情ニ應ジマシテ簡易適切ナ手段ヲ用フレバ宜シイ譯デアリマス、例ヘバ大都市ニ於テ所得額ト云フモノヲ用フルト致シマスレバ、是ハ國稅ノ方デ調査決定致シマシタモノヲ用ヒルコトニ依ツテ、簡單ニ決定

ヲスルコトガ出來ルト思フノデアリマシテ、其ノ點ハ戶數割トハ餘程相違スルト考ヘテ居リマス

○小山委員長 武田サン、此ノ際本會議ニ決議案ノ上程セラレル都合ガアリマスカラ、大臣ノ居ラレル内ニ、前ニ留保シテ居リマシタ池本君ノ御質問ヲ許シタイト思ヒマスガ、如何デスカ

○武田委員 結構デス

○小山委員長 ソレデハ池本君

○池本委員 大臣ニ御尋致シマスルコトハ、是ハ寧ロ税制上ノ關聯事項デアリマスガ、偶、今日マデニソレガ此ノ委員會ノ席上ニ於テ御質問ガ出テ居リマシタノデ、ソレニ關シマシテ御同致ス譯デアリマス、近イ將來ニ地方制度ノ改革案ヲ御提出ニナル御意向ト承ツテ居ルノデアリマスガ、ソレヲ事實ト想像致シマシテ、其ノ場合ノ御心組ノ一二ニ付キマシテ御同致シタイノデアリマス、其ノ第一ハ中間機關設置如何ニ付キマシテノ御意見デアリマス、過般來此ノ委員會ニ於キマシテ、又新聞紙上デ拜見致シテ居リマス、貴族院ニ於キマシテモ、府縣ト町村間ノ中間機關設置ニ御賛成ノヤウナ意味ノ御答辯ヲ爲シテ居ラレニ付キマシテ内務大臣如何デゴザイマセウカ、御同致シタイト思ヒマス

○兒玉國務大臣 府縣ト市町村トノ間ニ於キマスル何カ中間機關ヲ設ケタ方ガ、執務上並ニ地方ノ事務ノ取扱上便利デハナイカト云フコトハ、可ナリ有力ナ説ト私ハ拜承致シテ居ルノデアリマス、郡役所ガ廢サレマシテ以來、國ノ市町村並ニ府縣トノ間ニ取扱ハレマスル事務モ、其ノ分量ニ於テモ

其ノ質ニ於テモ非常ナル變化ヲ來シツツアルノデアリマス、此ノ際ニ郡役所其ノモノヲ復活スルノガ宜シウゴザイマス、或ハ數町村ヲ集メマシタ中間機關ヲ設ケテ其處デ綜合シテヤルノガ宜シイノデゴザイマス、其ノ點ニ付テ今日マデ深キ研究ヲ遂ゲテ居ル暇ハナカツタノデアリマスルケレドモ、要スルニ此ノ間ニ何等カノ機關ヲ置イタ方ガ大體ニ於テ便利デハナイガラウカト云フ有力ナル議論ガアルノデアリマス、是ハ現在ノ制度ニ向ツテ一大改革ヲ加ヘナケレバナラヌト云フ問題デアリマスルノデ、今回地方制度ヲ改正スル上ニ於キマシテ、研究スベキ所ノ一ツノ大キナ問題デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、此ノ中間機關設置論ニ付キマシテ、私ハ是ハ必ズ置クベキモノナリト云フ斷定ヲ下スダケノ今日研究ガ積ンデ居ル譯デハナイノデアリマスガ、其ノ議論ハ有力デモアリ、又常識的ニ考ヘテ見テモ其ノ方ガ宜イデハナイカト云フヤウナ意向ヲ持ツテ居リマスカラ、近キ將來ニ於キマシテ地方團體ノ制度ヲ立テマスル際ニ於テハ、重要ナル一ツノ重點トシテ此ノ問題ヲ取上ゲテ考ヘテ見タイ、斯ウ云フ意味ニ於テ申上ゲテ居ルノデアリマス

○小山委員長 池本君、一寸御諮リ致シマスガ、御質問ヲ十分開程度ニ壓縮ヲ願ヒマス、サウデナイトアト御發言ノ機會ガナカラウト思ヒマス、大臣ノ御答辯モ左様ニ御願致シマス

○池本委員 只今内相ガ斷定的御賛成ノ意ヲ持ツテオ居デニナラヌト云フコトハハツキリ致シタト思ヒマス、仰セノ如クソレガ一體ドウ云フ形デドウ云フ性質ノモノデアリカ、ソレニ依ツテモ亦色々考ヘ方違ツ

テ來ルモノト思ヒマスガ、若シソレガ昔ノ郡役所ノヤウナモノデアリマスナラバ、此處デ贊否ヲ申ス譯デハアリマセヌガ、御參考ノ爲ニ御聽キヲ願ヒマスルナラバ私ハ要ラナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、其ノ理由ハ、既ニ各種ノ交通機關ガ日ニ月ニ便利ニナツテ來テ居リマシテ、地理的ニハ非常ニ縮小サレテ居ル、又其ノ機關ノ權限ノ如何ニモ依リマスガ、結局私ハ中途半端ナルモノニ終ルノデハナイカ、サウ致シマスルト其ノ機關ヲ通ラナケレバナラナイガ爲ニ、或ハソレニ中々日數ヲ要スル、或ハ判ノ數ガ殖エル、サウシテ中途半端ナ人ニ依ツテソレガ取扱ハレルノデアリマシテ、徒ニ事務ノ進捗ヲ妨ゲル、或ハ能率増進ノ邪魔ニナルト云フヤウナ、利害ハ無論各、アリマセウガ、差引私ハ良イ方ガ少ナカラウト考ヘルノデ、サウ云フ意見ヲ持ツテ居ル譯デアリマス、ソコデ序ニ御同シマスガ、然ラバ府縣ト町村トノ間ノ中間機關ト共ニ、又道府縣ト國トノ間ノ中間機關ノ設置モ時ニ問題ニサレテ居ルヤウデアリマスルガ、此ノ設置ノ可否如何ニ付キマシテノ御意見ガアリマスレバ一應承ツテ置キタイト思ヒマス

○兒玉國務大臣 此ノ中間機關ノ問題ニ付キマシテハ、只今申上ゲタル通りニ、重要ナル一事項トシテ研究シテ見ヨウト云フノデアリマシテ、之ニ對シテハ確ニ反對ノ御意見モアラウト思ヒマス、只今御話ニナリマシタヤウナ意見ヲモ併セ考ヘテ見タイト思ウテ居リマス、ソレカラ國ト府縣トノ間ノ中間機關ノ問題ニ付テハ、私今マダ何トモ申上ゲル機會ニ達シテ居リマセヌ

○池本委員 私ハ縣ト町村トノ間ノ中間機

關ト同ジヤウナ意味合ニ、只今ノ此ノ中間機關ヲ取ツテ居ルノデアリマス、大體ニ於キマシテハ是モ要ラナイト云フ意見ニナル譯デアリマス、若シソレデモドウデモ必要ダト云フヤウナ所モアルカモ分リマセヌ、デアリマスルカラサウ云フヤウナ場合ニハ其ノ地方地方ノ特殊ノ事情ニ鑑ミマシテ、全國畫一的ニヤルノデハナクシテ、實際ノ其ノ地方ノ狀況ニ依ツテ最小ノ必要限度ニ御作リニナルノデアラナラバ、私ハ又別ノ意味合ニ考ヘテ宜イガラウト思フノデアリマス、私ノ考ハサウ云フモノデアリマスカラ、唯御參考ニ御考置キヲ願ヒタイト思ヒマス、次ニハ現在御承知ノ郡デアリマスガ、此ノ取扱ニ付キマシテ一ツ是ハ地方ノ爲ニ御考置キヲ願ヒタイ、斯ウ思フノデアリマス、ト申シマスノハ御承知ノ如ク郡ハ今日法律上ノ何デモナイ、地理的或ハ社會的ノ區域デアリマシテ、法律上ノ存在デハナイ、ダガ實際ヲ申シマススト御承知ノ如ク是ガ有ニル產業團體ノ一階段ノ區域ニナツテ居リマス、其ノ外教育其ノ他ノ教化團體、或ハ衛生其ノ他ノ團體ノ區域ニナツテ居ル、又法制上カラ申シマシテモ、立派ニ例ヘバ道府縣會議員ノ選舉區ニナツテ居ル、衆議院議員ノ選舉區ノヤハリ基準ニサレテ居ル、警察管區ニナツテ居ル、デアリマスカラ立派ナ行政上ノ區域ノ實ヲ示シテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ實際ノ團體ノ區域ニナツテ居ルノデアリマスカラ、郡ハ一方ニハ生キテ居ル、所ガ一面ニハ法律上ノ取扱ガナイノデ死ンデ居ルト云フコトニナルノデアリマス、是ハ地方ニモ依リマセウガ、例ヘバ地理人情ガ全ク一ツデアアル、或ハ大都市ガアリマシテ、ソコノ隣接町村ノ編入ヲヤツテ

小サイ村が殘ル、ソレハ隣ノ郡ヘデモ入リタイ、斯様ナ場合ニドウモ入リヤウガナイ、是ハ決シテ惡イ意味デモ何デモナイガ、モウ一ツニナリタイト云フノデスガ、ナリヤウガナイ、私共素人デ色々苦心ヲ致シテ考ヘタ末、ドウナルカト云フト、例ヘバ郡ハ違フガ何處カ隣ノ町村ヘ一旦合併シテ、

○兒玉國務大臣 御承知ノ通り、何トカ表彰ノ方法ヲ考ヘタイト目下手續ヲ致シテ居ル向モアルノデアリマス、御諒承願ヒマス

スガ、時間ガナイヤウデスカラ私ハ是デ御遠慮申上ゲマス

分與稅ノ、殊ニ配付稅ノ性質ハ、地方團體ノ地域的、是正ヲ中心トスルモノデアリマスルカラ、如何ナル程度ノ配付稅ガアツタナラバ、今日ノ實狀ニ即シテ地方自治體ノ地域的均衡ノ是正ガ出來ルカト云フコトヲ先ヅ定メテ、サウシテ分與稅ヲ決メテ、其ノ不足分ヲ何レノ稅デ如何様ニ取立テルカト云フコトヲ定メルノガ本筋デハナイカ、斯様ニ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、丁度政府ノ御立案ト逆ノ行キ方ニ行クノガ本筋デハナイカト斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、

サウシテ其ノ郡ノ名ガ殘シタケレバ隣間のニソレカラ離レル、サウスルト一ツノ郡ニナル、サウ云フ面倒ナコトヲシナケレバナラス、又サウシタ方ガ宜イト云フ場合ガアルノデスガ、ドウモ扱ヒ方ガナイノデス、是ハ理窟ヤ質問デハナイノデ、寧ろ御願致シマス、是ハ生カサズ殺サズト云フコトニナツテ居リマスノデ、何トカ之ニ付キマシテ地方ノ實際ノ必要上カラ致シマシテ、サウ云フ場合ノ取扱ノシ易イヤウナ方法ヲ御考置キヲ願ヒタイ、ソレハ今日デモ何カ良イ方法ガアリマスレバ御示ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

○池本委員 普通ノ方法ナラバ、今日マデノ事變デモヤツテ居リマスカラ當リ前ノコトデ、ソナコトハ伺ハナクテモ宜イノデスガ、ソレニ付キマシテ今度ノ事變デハ特別ニ從來ヨリハ苦勞ガ多イヤウデスカラ、御考ヲ願ヒタイト思フノデス、ソレカラ私ハ府縣ノ吏員ノ簡拔登用ト云フ點ヲ考ヘテ居ルノデアリマスガ、之ヲ申セバ長クナリマスカラ省イテ置キマス、ソレニ關聯致シマシテ地方長官ノ取扱ナノデス、是ハ昔ハ公選論ト云フモノガ唱ヘラレテ居リマシタガ、ソレト必ズシモ關聯シテ居ルト云フ譯デハアリマセヌガ、唯自由任用位ヲオヤリニナツテハドウカ、或ハソレデイクナイト云フナラ、何カ弊害ノ少イヤウナ選舉方法ヲ執ツテ、ソレニ對シテ內務大臣ガ認可セラレルト云フヤウナ方法、斯ウ云フヤウナモノハドウカト思ツテ居ルノデアリマスルガ、一應何カ御考ガアリマスレバ承ツテ置キタイト思ヒマス

○小山委員長 是ヨリ開會致シマス、休憩前ニ引續キ質疑ヲ繼續致シマス——武田君

自治團體ノ自主性ト衝突スル程度ガ多クナル、出來得ベクンバ地域的負擔ノ均衡ヲ是正スル最小限度ニ於テ其ノ配付稅ノ金額ヲ定メルコトハ、自治團體ト配付稅トノ調整ヲ圖ル捷徑デナイカト、斯様ニ實ハ考ヘテ居ル者デアリマス、ソレデ先程一寸其ノ點ニ觸レタノデアリマスルガ、今日既ニ一億五千萬圓ノ財政補給金ト云フモノガアリマスルシ、ソレト此ノ教育費ノ八千五百萬圓ト云フ限定シタ數字デ、稍々地方ノ負擔ノ均衡ノ是正ガ實現シテ居ルノデハナイカト私ハ見テ居ルノデアリマス、ソレデ其ノ限度ニ於テ、即チ現在ノ限度ニ於テ分與稅ヲ決メテ、而シテ其ノ殘リヲ獨立稅竝ニ附加稅ニ於テ之ヲ課スルト云フ方法ヲ講ジテハドウデアアラウカト考ヘルノデアリマス、更ニ若シ今日ノ政府ノ立案セラレテ居ル獨立稅竝ニ附加稅ダケデアトノ不足分ガ賄ヒ切レヌト云フコトデアリマスルナラバ、政府ノ立案セラレテ居ル所ノ民稅ヲモウ少シ其ノ額ヲ増シテモ差支ナイノデハナ

是ハ理窟ヤ質問デハナイノデ、寧ろ御願致シマス、是ハ生カサズ殺サズト云フコトニナツテ居リマスノデ、何トカ之ニ付キマシテ地方ノ實際ノ必要上カラ致シマシテ、サウ云フ場合ノ取扱ノシ易イヤウナ方法ヲ御考置キヲ願ヒタイ、ソレハ今日デモ何カ良イ方法ガアリマスレバ御示ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

○武田委員 私人議事進行ノ便宜上、先ヅ私ノ意見ヲ申上ゲテ、ソレカラ當局ノ御意見ヲ承ル方ガ非常ニ時間ガ簡單ニ行クト思ヒマスカラ、左様ナ方法ヲ執リタイト存ジマス、此ノ度ノ地方稅ノ改正ノ中心ハ、分與稅配付稅ト、戶數割ヲ廢シテ民稅ヲ新タニ設ケラレタ點ダト思フノデアリマス、先程ノ質問ニモ申上ゲマシタガ、私ハ是ハ餘程掘下ゲテ論議ヲシテ見ル必要ガアルト思フノデアリマスルケレドモ、左様ニ致シマスコトハ非常ニ時間ヲ取リマスノミナラズ、他ノ委員諸君ノ御質問ニモ御迷惑ヲ掛ケルコトト考ヘマスカラ、斯様ニ致シタナラバ

○武田委員 私人議事進行ノ便宜上、先ヅ私ノ意見ヲ申上ゲテ、ソレカラ當局ノ御意見ヲ承ル方ガ非常ニ時間ガ簡單ニ行クト思ヒマスカラ、左様ナ方法ヲ執リタイト存ジマス、此ノ度ノ地方稅ノ改正ノ中心ハ、分與稅配付稅ト、戶數割ヲ廢シテ民稅ヲ新タニ設ケラレタ點ダト思フノデアリマス、先程ノ質問ニモ申上ゲマシタガ、私ハ是ハ餘程掘下ゲテ論議ヲシテ見ル必要ガアルト思フノデアリマスルケレドモ、左様ニ致シマスコトハ非常ニ時間ヲ取リマスノミナラズ、他ノ委員諸君ノ御質問ニモ御迷惑ヲ掛ケルコトト考ヘマスカラ、斯様ニ致シタナラバ

本案ニ現ハレテ居ル矛盾ヲ多少ナリトモ是正スルコトガ出來ルノデハアルマイカト云フ私ノ意見ヲ申上ゲテ、當局ノ御意見ヲ承ハレバ、一舉ニシテ其ノ問題ハハツキリスルカト思フノデアリマス、私ハ此ノ分與稅ノ中配付稅ノ額ヲ定メルノハ、當局ノ御説明ノ如ク、各地方團體ノ稅收入ヲ凡ソ十億三千二百萬圓ト限定シテ、サウシテ三收益稅其ノ他ノ收入ヲ先ヅ定メテ、其ノ不足分ヲ總テ分與稅ニ充テルト云フ組織ハ、稅ノ組立デノ上ニ於テ考ガ間違ツテ居ルノデハナイカト云フ風ニ思フノデアリマス、元來

○兒玉國務大臣 只今ノ御意見ハ參考トシテ承ツテ置キマシテ、此ノ問題ヲ實際處理スル時ニ於テ篤ト考慮ヲ加ヘルコトニ致シタイト思ツテ居リマス

○池本委員 私人地方ニ居リマシテ實際ノ問題ニブツカツテ、觀切ニシテヤリタイガ出來ナイト云フコトニナリマスノデ、一ツ能ク御考置キヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ町村吏員ノ優遇トカ、町村吏員ノ待遇トカ云フコトガアリマスガ、ソレハ止メニシテ、一寸町村長ノ問題デゴザイマスガ、今度ノ事變ノ經過ヲ見マス、地方ノ町村長ハ殆ド不眠不休、皆自分ノ金ヲ捨テヤツテ居リマスガ、ソレニ付テ今事變ノ表彰ノ方法ヲ御考ニナツテ居ルデアリマセウカ

○兒玉國務大臣 會テ一時公選ト云フヤウナ議論ガアリマシタケレドモ、今日ニ於テハ大體其ノ議論ハ唱ヘラレナイヤウニ思ヒマス、併シ是ハ或ル時代ニ於キマシテ一ツ考ヘナケレバナラス方法デアラウト思ヒマス、ソレカラ自由任用ノ問題デアリマス、是ハ一般官吏ノ問題等ノ時ニ考ヘラレル問題デアリマスガ、大體ニ於テ地方長官ハ自由任用ノ範圍ノ外ニ置イテ宜イノデヤナイカ、原則的ニ斯ウ云フヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス

○池本委員 色々申上ゲタイコトモアリマス

○兒玉國務大臣 只今ノ御意見ハ參考トシテ承ツテ置キマシテ、此ノ問題ヲ實際處理スル時ニ於テ篤ト考慮ヲ加ヘルコトニ致シタイト思ツテ居リマス

○池本委員 私人地方ニ居リマシテ實際ノ問題ニブツカツテ、觀切ニシテヤリタイガ出來ナイト云フコトニナリマスノデ、一ツ能ク御考置キヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ町村吏員ノ優遇トカ、町村吏員ノ待遇トカ云フコトガアリマスガ、ソレハ止メニシテ、一寸町村長ノ問題デゴザイマスガ、今度ノ事變ノ經過ヲ見マス、地方ノ町村長ハ殆ド不眠不休、皆自分ノ金ヲ捨テヤツテ居リマスガ、ソレニ付テ今事變ノ表彰ノ方法ヲ御考ニナツテ居ルデアリマセウカ

○池本委員 色々申上ゲタイコトモアリマス

○池本委員 色々申上ゲタイコトモアリマス

○兒玉國務大臣 只今ノ御意見ハ參考トシテ承ツテ置キマシテ、此ノ問題ヲ實際處理スル時ニ於テ篤ト考慮ヲ加ヘルコトニ致シタイト思ツテ居リマス

○池本委員 私人地方ニ居リマシテ實際ノ問題ニブツカツテ、觀切ニシテヤリタイガ出來ナイト云フコトニナリマスノデ、一ツ能ク御考置キヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ町村吏員ノ優遇トカ、町村吏員ノ待遇トカ云フコトガアリマスガ、ソレハ止メニシテ、一寸町村長ノ問題デゴザイマスガ、今度ノ事變ノ經過ヲ見マス、地方ノ町村長ハ殆ド不眠不休、皆自分ノ金ヲ捨テヤツテ居リマスガ、ソレニ付テ今事變ノ表彰ノ方法ヲ御考ニナツテ居ルデアリマセウカ

○池本委員 色々申上ゲタイコトモアリマス

○池本委員 色々申上ゲタイコトモアリマス

○兒玉國務大臣 只今ノ御意見ハ參考トシテ承ツテ置キマシテ、此ノ問題ヲ實際處理スル時ニ於テ篤ト考慮ヲ加ヘルコトニ致シタイト思ツテ居リマス

○池本委員 私人地方ニ居リマシテ實際ノ問題ニブツカツテ、觀切ニシテヤリタイガ出來ナイト云フコトニナリマスノデ、一ツ能ク御考置キヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ町村吏員ノ優遇トカ、町村吏員ノ待遇トカ云フコトガアリマスガ、ソレハ止メニシテ、一寸町村長ノ問題デゴザイマスガ、今度ノ事變ノ經過ヲ見マス、地方ノ町村長ハ殆ド不眠不休、皆自分ノ金ヲ捨テヤツテ居リマスガ、ソレニ付テ今事變ノ表彰ノ方法ヲ御考ニナツテ居ルデアリマセウカ

○池本委員 色々申上ゲタイコトモアリマス

○池本委員 色々申上ゲタイコトモアリマス

○兒玉國務大臣 只今ノ御意見ハ參考トシテ承ツテ置キマシテ、此ノ問題ヲ實際處理スル時ニ於テ篤ト考慮ヲ加ヘルコトニ致シタイト思ツテ居リマス

○池本委員 私人地方ニ居リマシテ實際ノ問題ニブツカツテ、觀切ニシテヤリタイガ出來ナイト云フコトニナリマスノデ、一ツ能ク御考置キヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ町村吏員ノ優遇トカ、町村吏員ノ待遇トカ云フコトガアリマスガ、ソレハ止メニシテ、一寸町村長ノ問題デゴザイマスガ、今度ノ事變ノ經過ヲ見マス、地方ノ町村長ハ殆ド不眠不休、皆自分ノ金ヲ捨テヤツテ居リマスガ、ソレニ付テ今事變ノ表彰ノ方法ヲ御考ニナツテ居ルデアリマセウカ

○池本委員 色々申上ゲタイコトモアリマス

○池本委員 色々申上ゲタイコトモアリマス

イカ、先程モ申上ゲタ通り、戸數割ハ必ズシモ税ノ性質カラ言ツテ惡イ税デハナイ、斯ウ云フコトヲ私ガ申上ゲタラ、地方局長ハ其ノ點ニ向ツテハ私ノ意見ト御同感ノ意味ヲ御答辯ニナツタノデアリマス、今日五千萬圓ヲ一億圓ニ増額サレテモ、決シテサウ大キナ故障ハナイノデハナイカ、實際ニ言ウナラバ私ハ戸數割ヲ存置シテ、之ニ適當ナル是正ヲ加ヘタ方宜イト思フノデアリマス、既ニ此ノ立案ガ出來タ以上ハ、根本的ニ之ヲ變ヘルト云フコトハ實際問題トシテハ甚ダ遠ザカル處ガアリマスカラ、私ハ民税ヲ倍額位ニ致サレマシタナラバ、ソレデ適當ナ、私ノ申上ゲルヤウナ希望ニ副ウタ地方税ノ組織ガ出來ルノデハアルマイカ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、ソレガ第一デアリマス

ソレカラモウ一ツハ配付税ノ配付ノ率ノコトデアリマス、是ハ政府ノ御説明ニ依リマス、一面ニ於テハ地方團體ノ財政要求ニ應ジ、一面ニ於テハ地方團體ノ財政力ニ應ズル、斯ウ云フ御話デ、一寸聞クト如何ニモ御尤モノヤウデハアリマス、ケレドモ、ドウモ詳シク此ノ法案ヲ見マス、其ノ御趣意ニハ必ズシモ副ウテ居ナイ、三收益税ヲ以テ地方團體ノ財政力ヲ測量スルト云フコトハ甚ダ實際ニ遠ザカツテハ居ナイカト思フノデアリマス、何トナレバ今日ノ地方財政、殊ニ大都市等ニ於キマシテハ、税ヨリハ税外收入ノ方が多クテ居ルノデアリマス、殊ニ公營事業ヲシテ居ルヤウナ大都市ニ於テハ、是ハ相當有力ナル財源ニナツテ居ルノデアリマス、眞ニ地方團體ノ財政力ヲ測量スルト申シマスナラバ、收益税ノ三税ノミヲ以テ其ノ團體ノ收益力ヲ測

ルト云フコトハ、實際ニ甚ダ遠ザカツタ問題ニナリハシナイカト私ハ考ヘル、現ニ民税ノ如キハ政府ノ御意見デハ是ハ一種ノ團體ノ會費ミタヤウナ心持デ、所謂負擔分任ノ精神ヲ採入レルモノダト仰シタルケレドモ、兎ニ角此ノ五千萬圓ト云フモノハ、各團體ニ依ツテ種々ナル相違シタ數字ニ於テ現レルノデアリマス、是ガ一ツノ其ノ地方團體ノ財政力ヲ測量スル——大キナル部分デハナイケレドモ、——或ル程度ノ部分デアルコトハ事實デアリマス、ノミナラズ三收益税ト云フモノデ必ズシモ地方團體ノ眞ノ財政力ヲ測量シ得ルハ言ヒ得ナイト私ハ思フ、何トナレバ此ノ三收益税ハ、申スマデモナク農業所得ト營業所得ト、家屋ノ所得ダケヲ標準ニシテ、而モソレハ總收入ヲ目的トシタモノデアリマシテ、家屋ト地租ハ總收入デアルニ拘ラズ、營業税ハ純益ヲ標準トシタモノデアリマシテ、其ノ間ニモ非常ニ税ノ性質ノ違ツテ居ル點ガアリマス、ノミナラズ此ノ三收益税ノ外ニ、國民所得ト云フ點カラ申シマスナラバ勤務所得、並ニ利子所得ト云フモノモ考ヘテ見ナケレバナラズノデアリマス、然ルニソレハ此ノ所得税ニハアリマス、ケレドモ、地方税トシテハ是等ノ點ハ何等考慮ヲ加ヘテ居ラレナイノデアリマス、ソレ故ニ此ノ三收益税ノミヲ以テ地方團體ノ財政力ヲ測ルト云フコトハ、ドウモ實際ニ遠ザカル嫌ヒガアリハスマイカト云フコトガ其ノ次ノ問題デアリマス

第三ノ問題ハ、私ハ先刻ノ質問ノ中ニモ申述ベタル如ク、此ノ配付税ト云フモノハ地域のニ其ノ税ノ對象ガ、即チ國民ノ所得ガ衡平ニ分配サレテ居ナイカラ、之ヲ直チニ地方税ニスルコトハ出來ナイカラ、一度國稅トシテ取ツテ、其ノ幾分ヲ地方ニ分與シテ、之ヲ或ル標準ニ依ツテ分ケテ地域的ノ負擔ノ均衡ヲ圖ラウト云フ趣旨ニ出タノデアツテ、是ガ若シ其ノ税ノ對象タル所得ガ各地方的ニ稍、均分ニ分布サレテ居リマスナラバ、左様ナ手數ヲセズシテ直チニ附加税デ宜イ筈デアアルノデアリマス、此ノ點モ地方局長ハ私ノ問ニ御同意ニナツテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ私ハ此ノ所得税並ニ法人税及ビ分與税ノ財源ニナルモノヲ、之ヲ附加税ヲ課スルト同様ナ結果ニナリサヘスレバ此ノ税ノ目的ハ達スルノデハナイカ、斯様ニ私ハ考ヘル、サウスルニハドウスレバ宜イカト言ヘバ、是ハ人口ニ割當テ——全國ノ三收益税ノ稅額ヲ日本ノ全人口ニ割當テ、其ノ一人當リノ標準率ヲ出シマシテ、ソレニ依ツテ各町村ノ戶數ニ掛ケタモノデ宜イ筈ダト思フノデアリマス、勿論先程長野君デシタカ、ドナタカノ質問ニ對シマシテ、唯人口ト申シテモ、人口ノ内容ニ色々變化ガアルカラ、之ニ對シテハ割増人口ヲ加ヘルト云フ局長ノ御意見モアツテ、是ハ私モ御尤ト思ヒマス、ケレドモ此ノ分賦ノ際ニ於テハ、一人當リノ平均率ヲ割増人口ヲ加ヘタモノニ掛ケレバソレデ宜イコトニナリハシナイカ、左様ニ致シマスレバ、丁度此ノ所得税並ニ法人税、遊興飲食税ノ如キモノハ、各地方ニ稍、均分ニ分配サレタモノニ附加税ヲ加ヘタト同ジ結果ニナルデアラウト私ハ考ヘマス、斯様ニ致シマスレバ、地方ノ稅收入並ニ其ノ彈力性ニ於テハ此ノ御立案ト何等變ル所ハナクシテ、而モ地方ノ自治權ト調和ガ餘程ヨク取レルノデハナイカト實ハ考ヘルノデア

リマス、此ノ點ニ對シテ當局ノ御意見ヲ承レバ私ノ質問ノ趣旨ガハツキ致スト思ヒマス

○挾間政府委員 種々ナル點ニ付テノ御質疑デゴザイマス、順次御答致シマス、第一ノ御尋ノ配付税ト三收益税ノ關係ニ付キマシテハ、是ハ配付税ヲ主ニスル、或ハ三收益税ヲ主ニスルト云フ意味デハナイノデアリマシテ、今度ノ稅制ヲ立デマスニ付キマシテハ、獨立財源ト地方調整財源ト睨ミ合セマシテ、六割七分ト三割三分ト云フヤウナ率ヲ以テ、適度ニ地方財政ノ調整ヲ行フト同時ニ、一面地方自治體ノ財政的ノ獨立、自主ノ立場ヲ確保シヨウト云フ意味ヲ以チマシテ、此ノ割合ヲ定メタモノデアリマス、無論此ノ點ニ付キマシテハ國ノ稅收入トノ負擔關係等モゴザイマス、左様ナ複雜ナル關係ヲ考慮シマシテ、只今提案致シテ居リマスヤウナ割合ニ、調整財源ト獨立財源トヲ定メテ居ル譯デアリマシテ、配付税ノ方ハ、獨立稅ヲ一應見積ツテ其ノ殘リヲ此ノ方デ賄フト云フコトニ致シタノデハナイノデアリマス、又從來ノ小學校教員給ノ國庫負擔、臨時財政補給金ヲ以テ大體負擔ノ均衡ガ取ラレテ居ルカラ、其ノ程度デ宜クハナイカ、斯ウ云フ御話デアリマスガ、元來配付税ト云フモノハ先程申上ゲマシタヤウニ、地方ノ地域的負擔ノ不均衡ヲ均衡化スルト云フ一面ニ於キマシテ、地方團體ニ對シマシテ必要ナル財源ヲ充足セシメルト云フコトヲ目的トシテ居ルノデアリマス、小學校教員給ノ國庫負擔及ビ臨時、財政補給金ハ何レモ其ノ目的ハ異ツテ居リマシテ、財政補給金ノ如キハ廢減稅ヲ主トシテ居ルノデアリマス、假ニ是ガ其ノ意味ニ於テ財

政調整ヲ致シテ居ルト致シマシテモ、此ノ額ヲ以テシテハ吾々ノ希望致シマスヤウナ地方ノ負擔均衡ヲ得ル程度ニ至ツテ居リマセヌノデ、今回ノ如キ額ニ於テ配付稅ヲ決定シテ譯デアリマス、更ニ市町村民稅ヲ増額シテ倍額ニシタラドウカト云フ御意見デアリマスガ、是ハ元來賦課方法ガ極メテ素朴簡易ナリ方ニ致シテ居ルノデアリマシテ、此ノ額ヲ一億圓ニ増シ、更ニ増額スルト云フコトニナリマス、是ハ負擔ノ不均衡ト云フコトガ自然ノ結果トシテ現レテ參リマスノデ、度々申上ゲマシタヤウナ稅ノ性質カラ申シマシテ、成ベク輕イ税金ニシテ、而モ普遍的ニ各市町村住民ニ賦課サレルヤウニ致シタイ考ヲ持ツテ居リマスカラ、之ヲ増額スルコトハ適當デナイト考ヘテ居リマス

レデ何等カ調整ヲ御圖リニナルヤウナ御考デアルト云フコトヲ承ツテ、其ノ點ニ付テ相當ナ考慮ヲ寄セテ居ラルト云フ政府ノ御誠意ハ之ヲ認メルコトガ出來ルノデアリマス、併シ私ハ根本ニ週ツテ、今日ノ地方財政ノ増加スル原因ハ何デアルカト云ヘバ、大部分ニ義務教育費ト委任事務費デアルコトハ明瞭デアリマス、故ニ適當ナル財源ヲ地方團體ニ與ヘテ、地方團體ノ財力ヲ豐ニスルト云フナラバ、ドウシテモ此ノ稅制改正ノ前提トシテ委任事務費ヲドウスルカト云フコトヲ御決定ニナラナケレバナラス、斯ウ私ハ考ヘテ居ルノデアリマシテ、本會議ニ於テ其ノ御質問ヲ申上ゲタラ、内務大臣モ其ノ趣旨ハ諒トシテ、ソレ故ニ此ノ度其ノ中ノ最モ大キナル所ノ義務教育費ト、連帶支辨金、是等ニ向ツテ國家ノ委任事務ノ分界ヲ茲ニ定メタルノデアアル、斯ウ云フ御答辯デアツタ、是ハ洵ニ結構デアリマス、併シ既ニソレマデ御考ニナリマシタナラバ、何故ニモウ一步進メテ、此ノ委任事務費ノ經費ニ向ツテ國家ガドウ云フ方法ヲ負擔スルカト云フコトヲ、一般的ニ御決メニナラナカツタノデアラウカト思フ、私ハ是ハサウ困難ナコトデアナイト思フノデアリマス、現ニ政府ノ御配付ニナツタ參考資料ヲ拜見シテモ、委任事務費ノ中デ國政事務タル性質ヲ特ニ濃厚ニ帶ベルモノト云フノガ府縣ニ於テ二億圓、市町村ニ於テ約五億圓アルト云フコトノ參考資料ヲ載イテ居ルノデアリマス、是等ニ付テ最モ濃厚ナモノハドウ云フ程度ニ於テ之ヲ分ケルカト云フ根本ノ基準ヲ定メタル法令ヲ御出シニナレバ、ソレデ宜イ筈デアルト思ヒマス、政府ハ現ニ如何ナル國家ノ事業ヲ御計畫ニナツテモ、之

各團體ニ於テ凹凸ニナツテ居ルコトヲ、此ノ配付稅ニ依ツテ地均シラスルト云フコトヲモ意味シテ居ルノデアリマス、ソコデ所得稅ハ何故加ヘナイカト云フ御尋デアリマスガ、是ハ地方稅デアリマセヌカラ、之ヲ地方財源ノ問題トシテ考慮ニ加ヘルコトハ出來ナイト考ヘテ居リマス

最後ノ御意見ノ配付稅ヲ配付スルニ付テ所得稅一人當リノ額ヲ算出シテ、是ノミニ依ツテ配付稅ヲ配付シタラドウカト云フ御意見デアリマスガ、御趣旨ノヤウナ點ハ今回ノ配付ノ標準ノ第二御話ノ通りノ方法ガ掲ゲラレタルノデ、之ニ依ツテ御意見ノ點ハ十分到達出來ルト思ヒマス、第一ノ點ニ國稅ノ附加稅ヲ單位稅額ト致シマシテ標準ニ用ヒテ居リマスノハ、此ノ三收益稅ノ凹凸ニナツテ居ル關係ヲ、此ノ配付稅ニ依ツテ出來ル限リ調整シ、地方團體ニ對シテ適當ナル財源ヲ與ヘルト云フ意味ヲ以テ、第一種配付額ノ標準ニ致シテ居ルノデアリマス、御希望ノ點ハ十分此ノ方針ニ依ツテ到達セラレルトニナツテ居ルト見テ居ルノデアリマス

ソレカラ次ノ問題ハ分與稅配付稅ノ分與ノ標準ト致シマシテ、稅外收入ノ問題ヲ何故考慮シナイカト云フ御意見デアリマスガ、稅外收入ハ負擔ノ均衡ノ問題ト致シマシテハ考慮ノ外ニ置クノガ適當デアルト思ヒマス、又大都市等ニ於キマス公營事業ガ、一般財政ヲ援助シテ居リマス程度ト云フモノハ、左程大ナルモノデハナイノデアリマシテ、殊ニ公營事業ノ本質カラ申シマシテ、之ニ非常ナル收益の性質ヲ認メルト云フコトニ付キマシテハ、公營事業ノ本質カラ見マシテモ相當考慮ノ餘地ガアルト考ヘルノデ、何レニ致シマシテモ課稅力ヲ測定致シマス標準トシテハ、ヤハリ國稅附加稅ト云フモノヲ主トシテ對象トスルノガ適當デアルト考ヘルノデアリマス、尙ホ此ノ三收益稅ヲ算定致シマス標準ニ用ヒマシタノハ、此ノ三稅ノ課稅力ガ

ナイカト云フコトヲ私ハ申シタノデハナイノデアリマス、即チ地方ノ財力ヲ測ルニハ、地方ノ國民ノ所得ヲ測ラナケレバナラス、是ハ三收益稅ニ依ツテモ測ラレマスガ、其ノ外ニモ利子ノ所得或ハ勤勞所得モアルノデアリマス、是等ニ付テハ國稅ハアリマスケレドモ、地方稅ハ之ニ當ルモノガナイノデアリマスカラ、本當ノ意味ニ於テ地方ノ財力ヲ測ルノニハ、此ノ三收益稅ダケデハ公平ナ地方ノ團體ノ財力ヲ測ルコトハ出來ナイ、斯ウ云フヤウニ私ハ申シタノデアリマス、併シ今ノ御說明ニ依ルト、稍私ハ了解シタト申スノハ、從來ノ說明ト違ツテ居ル、詰リ三收益稅ソレ自身ニ凹凸ガアル、ソレデ其ノ三收益稅ヲソレダケニシテ置イテハ、地方ノ不均衡ハ非常ニ甚シクナルカラ、配付稅ノ一部ヲ三收益稅ノ凹凸ヲ直スヤウニ向ケル、斯ウ云フ御說明デアリマス、私ノ今日マデノ考ト大分違ツテ、ソレモ一ツノ見解トシテ了解致シタ、斯ウ云フコトヲ申上ゲルノデアリマス、併シ私ハ直チニソレニ贊意ヲ表スルコトハ出來マセヌガ、今日マデ私ガ政府ノ御意見トシテ考ヘテ居リマシタノトハ其ノ點ハ大分違ツテ、稍、政府ノ御考ガ論理的デアアルヤウニ思ヒマスカラ、其ノ點ハ其ノ程度ニ止メテ置キタイト存ジマス

○武田委員 多少私ノ誤解モアリマシタガ、只今ノ御說ヲ稍了解致シマシタ、併シ今日マデノ御說明ハ、三稅ニ依ツテ各地方團體ノ財力ヲ測リ、財政力ノ少イ所ニハ逆比例ニ配付稅ヲヤルト云フ今日マデ御說明デアツタノデアリマス、ソレデ私ハ地方ノ財力ヲ測定スルノニハ、三收益稅ノミデ測量スルコトハ誤ツテ居リハシナイカ、其ノ他ノ獨立稅モアリマスシ、稅外收入モアル、ノミナラズ此ノ地方ノ財力ハ、今地方局長ハ私ノ申シタコトヲ多少誤解サレテ居ルヤウニ思ヒマスガ、所得稅ヲナゼ入レ

ソレカラモウ一點ダケ御伺シタイト思ヒマス、是ハ私ハ本會議ノ時申上ゲテ大臣カラ御說明ガアツタノデアリマスガ、委任事務ノ經費ノコトデアリマス、是ハ先程長野君デシタカノ御質問ノ中ニモアツタノデアリマシテ、政府ノ御意見デハ、ソレバ或種ノ委員會ト申シマスガ、サウ云フ地方ノ財政ノ連絡機關ノヤウナモノヲ作ツテ、ソ

レデ何等カ調整ヲ御圖リニナルヤウナ御考デアルト云フコトヲ承ツテ、其ノ點ニ付テ相當ナ考慮ヲ寄セテ居ラルト云フ政府ノ御誠意ハ之ヲ認メルコトガ出來ルノデアリマス、併シ私ハ根本ニ週ツテ、今日ノ地方財政ノ増加スル原因ハ何デアルカト云ヘバ、大部分ニ義務教育費ト委任事務費デアルコトハ明瞭デアリマス、故ニ適當ナル財源ヲ地方團體ニ與ヘテ、地方團體ノ財力ヲ豐ニスルト云フナラバ、ドウシテモ此ノ稅制改正ノ前提トシテ委任事務費ヲドウスルカト云フコトヲ御決定ニナラナケレバナラス、斯ウ私ハ考ヘテ居ルノデアリマシテ、本會議ニ於テ其ノ御質問ヲ申上ゲタラ、内務大臣モ其ノ趣旨ハ諒トシテ、ソレ故ニ此ノ度其ノ中ノ最モ大キナル所ノ義務教育費ト、連帶支辨金、是等ニ向ツテ國家ノ委任事務ノ分界ヲ茲ニ定メタルノデアアル、斯ウ云フ御答辯デアツタ、是ハ洵ニ結構デアリマス、併シ既ニソレマデ御考ニナリマシタナラバ、何故ニモウ一步進メテ、此ノ委任事務費ノ經費ニ向ツテ國家ガドウ云フ方法ヲ負擔スルカト云フコトヲ、一般的ニ御決メニナラナカツタノデアラウカト思フ、私ハ是ハサウ困難ナコトデアナイト思フノデアリマス、現ニ政府ノ御配付ニナツタ參考資料ヲ拜見シテモ、委任事務費ノ中デ國政事務タル性質ヲ特ニ濃厚ニ帶ベルモノト云フノガ府縣ニ於テ二億圓、市町村ニ於テ約五億圓アルト云フコトノ參考資料ヲ載イテ居ルノデアリマス、是等ニ付テ最モ濃厚ナモノハドウ云フ程度ニ於テ之ヲ分ケルカト云フ根本ノ基準ヲ定メタル法令ヲ御出シニナレバ、ソレデ宜イ筈デアルト思ヒマス、政府ハ現ニ如何ナル國家ノ事業ヲ御計畫ニナツテモ、之

ソレカラモウ一點ダケ御伺シタイト思ヒマス、是ハ私ハ本會議ノ時申上ゲテ大臣カラ御說明ガアツタノデアリマスガ、委任事務ノ經費ノコトデアリマス、是ハ先程長野君デシタカノ御質問ノ中ニモアツタノデアリマシテ、政府ノ御意見デハ、ソレバ或種ノ委員會ト申シマスガ、サウ云フ地方ノ財政ノ連絡機關ノヤウナモノヲ作ツテ、ソ

ニ伴フ經費ハ必ズ其ノ法案ト共ニ帝國議會ニ御出シニナルデアリマセヌカ、然ラバ同ジク國家ノ事務ヲ地方團體ニ命ズル場合ニ、其ノ財源ヲ如何ニスルカト云フコトヲ、其ノ命令ト共ニ考慮セヌト云フ答ハナイノデアリマス、詰リ純然タル國家ノ事務ハ勿論ノコト、所謂濃厚ナ國家ノ委任事務ニ向ツテハドウスルト云フ、事務ノ性質ソレ自身ニ依ツテドウ云フ工合ニ國家ガ之ヲ負擔スルカト云フコトヲ、根本原則トシテ其ノ基準ヲ法律ニ依ツテ御定メニナツテ置ケバ、必ズシモ一々――義務教育費ノ如ク、若クハ警察ノ連帶支辨金ノ如ク一々御定メニナルコトモ一ツノ方法デアリマセウ、併シナガラ全體ノ基準ヲ御定メニナツテ置ケバ、自ラ之ヲ解決スル途ガアルノデハナカラウカ、少クトモ此ノ委任事務費ノ經費ヲドウスルカト云フコトノ前提タルベキモノヲ御定メニナラズシテ、地方稅制ノ改正ヲ行ツタト云フコトハ、私ハ根本ニ於テ誤ツテ居リハシナイカ、又地方ノ自治團體ノ財源ニ向ツテ深キ考慮ヲ加ヘラレバ加ヘラレル程、ドウシテモ此ノ問題ヲ先ヅ以テ解決シテ置カナケレバナラスノデアラウト思フノデアリマス、是ハ其ノ金額ガ餘リ大キクナケレバ、ソレハ便宜上或ハ今ノヤウナ連絡機關ヲ御作りニナツテ、サウシテ調整ノ途ヲ御圖リニナルノモノ一ツノ行キ方デアリマセウ、ケレドモ今日ノ委任事務費ハ非常ニ多イノデアリマス、而モ統制經濟ガ益、強化サレル今日ノ狀態ニ於キマシテ、委任事務費ハ非常ニ殖エル傾向ニナツテ居リマス、然ルニ之ヲ放擲シテ、地方制度ノ財政ノ體制ヲ御作りニナツテモ、後カラノ崩レテ行キハシナイカ、先日來屢、將來ノ稅制ノ彈

力性ニ付テ同僚諸君カラ御質問ニナツテ居リマスガ、此ノ問題ガ解決シナケレバ、私ハドウシテモ地方自治團體ノ財政ノ安固ヲ圖ルコトハ不可能デハナイカト深ク考ヘテ居ルノデアリマス、此ノ點ニ於テ何故ニ此ノ委任事務費ノ財源ヲ考慮セズ、之ヲ如何ニ解決シテ國家ト地方團體ニ於テ分擔スルカト云フ分界ヲ定メズシテ、此ノ案ヲ御立テニナツタカト云フコトヲ承リタイノデアリマス、是ハ私ハ必ズシモ政治的ナ意味ニ於テ承ルノデアリマセヌカラ、寧ロ地方局長カラ之ヲ御立案ニナツタ時ノ御精神ヲ承レバ宜シイノデアリマス、ドウゾ地方局長カラ御説明ヲ承ルコトガ出來レバ便宜カト思ヒマス

ノ關係ニ付テ御述ニナリマシタコトハ、政府當局トシテモ全く同感ノ意ヲ表スルノデアリマス、地方財政ノ問題トシマシテ大キナ問題ハ、ヤハリ地方稅制ト、一面ニ於キマシテハ國費地方費ノ負擔區分ノ問題、又委任事務ノ整理ノ問題デアルト思フノデアリマス、唯此ノ委任事務ノ整理及ビ國費地方費ノ負擔區分ノ問題ハ、各省ニ互ル非常ニ大キナ問題デアリマス、又委任事務トハ申シマスガ、是ハ此ノ前ニモ此ノ委員會デ申上ゲマシタと思ヒマスガ、ソレハ畢竟ノ程度ガ國費事務デ、ドウ程度ガ地方ノ事務デアルト云フコトノ限界區分ト云フコトガ非常ニ困難デアリマス、又其ノ限度ニ於キマシテ、ヤハリソレハ地方ノ事務デアリマズノデ、負擔區分ハ其ノ限度ニ從ツテ幾分ガ國費デアリ、幾分ガ地方費負擔スベキモノデアルカト云フコトヲ定メテ參ラナケレバナラスと思フノデアリマス、ソコデ稅制改正ノ際ニ於キマシテモ、此ノ問題ハ隨分論議致シタノデアリマス、稅制調査會デモ熱烈ナル御意見ガ出マシテ、ソレニ付テ此ノ度解決シマシタモノハ、警察費ノ問題、或ハ教員給ノ問題、職業紹介法ニ依ル地方負擔ノ問題トカ云フ大キナ問題ハ解決致シタノデアリマスケレドモ、尙ホ其ノ他ニモ相當殘ツテ居ルト思ヒマス、ソレカラ吾々ノ懸念シマス所ハ、將來ニ於ケル此ノ問題デアルト思フノデアリマス、是ハ併シナガラ御話ノヤウニ、概括的ニ、一般的ニ、何分ノ一ガ國費デアリ、何分ノ一ガ地方費デアルト云フコトハ決メ兼ねル問題デアリマシテ、個々ノ問題、個々ノ事務ニ付テ、其ノ負擔割合、負擔區分ヲ定メテ參ラナケレバナラスと思フノデアリマシテ、是ハ將來ニ

於テハ、政府トシテハ個々ノ問題ニ互ツテ十分研究ヲシ、負擔區分ヲ決定致サネバナラスト考ヘテ居リマス、今回地方行政連絡委員會ヲ設ケルコトニナリマシタノモ、其ノ點ガ非常ニ大切ナ動機ニナツテ居ルノデアリマシテ、御述ニナリマシタヤウナ問題ニ付キマシテモ、此ノ委員會デ關係各廳ノ者ガお互ニ意見ノ交換ヲシテ、負擔區分ノ是正ニ付テ適當ナル標準ヲ定メルト云フコトニ進ンデ參リタイト思ツテ居ルノデアリマス、斯様ナ考ヲ持ツテ居ル次第デアリマシテ、只今ノ委任事務費ノ問題ニ付キマシテハ、政府トシテモ大ニ御意見ハ諒承致シマシテ、考究ヲ進メテ參リタイト思ツテ居リマス

○武田委員 尙ホ此ノ點ニ付テ一寸伺ツテ置キタイノデスガ、今ノ地方局長ノ御意見デハ、其ノ點ハ非常ナ關心ヲ持ツテ居テ、順次ニ各委任事務費ノ限界――國庫ノ負擔

地方負擔トノ限度ヲ定メルト云フ御話デアリマシタガ、サウ云フ御方針ダト云フコトダケデハイカス、是ハサウユツクリシテ居ル問題デハナイト思フノデアリマス、先程モ申上ゲル通り、統制經濟ハ益、強化シナケレバナラスト云フ今日ニ於キマシテハ、委任事務費ト云フモノハ、私ハ非常ニ殖エテ來ルト思フノデアリマス、最早今日ニナツテ議會デソレヲ論議シマシテモ、此ノ案ニ向ツテ吾々ノ態度ヲ決メナケレバナラスコトハ一兩日ニ迫ツテ居リマス、幾ラ論議ヲシテ見テモ仕方ノナ話デアル、私ハドウシテモ是ハ此ノ立案ノ前ニ當ツテ御決定ニナルベキ管ノモノト思ヒマス、ケレドモ、左様ナ論議ヲ幾ラ重ネテモ仕様ガアリマセヌカラ、之ヲドウ云フ方法デ何時マデニ御

○兒玉國務大臣 先程地方稅制ノ組立方ニ付テ御意見ヲ拜聽シタノデアリマス、私ハ御意見ヲ拜聽致シマシテ、實ハ一ツノ新シイ御考ヘ方デアルト考ヘテ拜聽致シテ居ツタノデアリマス、而シテ今回提案ヲ致シマシタ立テ方トハ其ノ行キ途ガ稍異ツテ居ルコトハ明白デアリマスケレドモ、御話ニナツタ立テ方モ一ツノ組織アル系統的ノ御考ノヤウニ私ハ拜聽致シタノデアリマス、併シ只今地方局長ヨリ、御説明申上ゲマシタ通りニ、今回提出致シマシタル稅制改正モ一貫シタル方式ニ依リマシテ、國稅地方稅ヲ通ジテ稅制改正ノ目的ヲ達成スル爲ニ組織致シマシタノデアリマスルカラ、其ノ點ヲ篤ト御諒承ヲ願ヒタイト思ツテ居ルノデアリマス、サウシテ只今改メテ御質問ニナリマシタ件ニ付テハ、私ヨリハ地方局長ノ方ガ明瞭ニ御答ガ出來ルカト思ヒマス、ドウゾ御聽取ヲ願ヒタウゴザイマス

○扶間政府委員 今只委任事務ト地方財政

第六類第二號附屬 所得稅法改正法律案外三十件委員中地方稅法案外七件小委員會會議錄

第六回 昭和十五年三月九日 一四一

定メニナル見込デアルノデアリマスカ、是ハ餘程御考下サツテ早ク御決メ願ヒタイ、地方ノ財政ノ安固ヲ圖ルコトハ懸ツテ此ノ點ニアルノデヤナイカト私ハ思フノデアリマス、元來地方ノ財源ト云フモノハ、斯様な國費ノ非常ニ増ス場合ニ於テ、地方ノ財源ニ適當ナモノガサウアル筈ガナイ、一個人ニ於テモサウデアリマス、自分ノ財産ガナケレバ、其ノ生活費ヲ下ゲルヨリ仕方ガナイノデアリマス、財産ノアル程度、自分ノ創意ヲ以テ色々ナ計畫ヲシ得ル程度ニ於テ、自分ノ生活ヲ向上スルコトヲ圖ラナケレバナラヌノデアリマス、然ルニ此ノ生活ノ向上、自主的ノ考デナクシテ他ノ意思ニ依ツテ生活ヲ向上シナケレバナラヌヤウニ順次ニ仕向ケラレテ來ルト云フコトデハ、其ノ一個人ハ立行カヌ、地方團體ト雖モ之ニ變ルコトハナイノデアリマス、之ヲ御決定ニナラズシテ地方財政ノ安固ヲ圖ルコトハ、ソレコソ本ニ緣ツテ魚ヲ求ムルノ類デアツテ、到底ソレハ可能ノ事デアルト思フノデアリマス、私ハ之ヲ一般的ノ原則トシテ其ノ區分ヲ定ムルコトハ出來ルト思ヒマス、地方局長ハソレハ出來オイト仰シヤル、サウ云フ水掛論ヲ致シテモ仕様ガアリマセヌガ、然ラバ現ニ茲ニ御定メニナツテ居ル國稅事務タル性質ヲ殊ニ濃厚ニ帶ベルモノハ相當澤山數ガアリマスガ、ドウ云フ方法ニ依ツテ、ドウ云フ事務ヲ目標トシテ御定メニナル御腹案デアリマスルカ、ソレヲ一ツ承ツテ置キタイト思ヒマス

○挾間政府委員 國費地方費ノ負擔區分ノ問題ハ、非常ナ大切ナ問題デアリマス同時ニ、最モ根本ノ問題デアルコトハ私ハ度々申上ゲタ所デアリマシテ、只今御手許ニ差上ゲテ居リマス現在ノ各種ノ事務ニ付テテノ負擔狀況ヲ調べマス、大體其ノヤウニナルト思フノデアリマス、是モ一應ノ調デゴザイマスガ、然ラバソレヲ何時如何ニシテ負擔區分ヲ是正スルカト云フコトニナリマス、是ハ既ニ既成ノ一ツノ負擔關係ガ出來上ツテ居リマス、御覽ノ通り義務教育費ノ問題ニシマシテモ、警察費連帶支辨金ノ問題ニシマシテモ、過去何年カ研究ヲ繼續シテ漸ク今度實現シタヤウナ狀況デアリマス、茲ニ申上ゲル程度ト致シマシテハ、出來得ルダケ努力ヲシテ、區分ノ是正ニ進ンデ行キタイ、斯ウ申上ゲルヨリ外ハナイト思ヒマス、併シナガラ將來ノ問題ニ付キマシテハ、先程申上ゲマシタヤウナ委員會等ニ依リマシテ、十分負擔關係ヲ事務的ニ合理的ニシテ參リタイト思フノデアリマシテ、一二ノ例ヲ申上ゲマス、今回此ノ議會ニ提案ニナツテ居リマス法律ニシマシテモ、例ハバ國民體力管理法乃至優生法ノ如キモノニ於キマシテモ、地方費ノ負擔ヲ掛ケナイヤウニ致シマシテ施行スル方法ヲ執ツテ居ルノデアリマス、ソレハ必要ナル國費ヲ要求ヲ致シテ居ルノデアリマシ、又法律ニ依ラズシテ、最近色々勅令等デ事務ヲ委任シマス場合ニ於キマシテモ、出來得ル限リ合理的ナル國費ノ負擔モ致シテ、其ノ事務ヲ市町村ニ致サシメルヤウナ手段ヲ執ツテ居ルノデアリマシテ、將來ノ問題ニ付キマシテハ、斯様ナル手段方法ニ依リ、又既成ノ問題ニ付キマシテモ出來ルダケノ努力ヲ致シタイ、斯ウ考ヘマス

○武田委員 此ノ問題ハ其ノ程度ニ止メテ置キタイト存ジマス、尙ホ序ニモウ一ツ伺ツテ置キタイコトハ、委任事務ノ限界ヲ定メルト云フコトニ關聯致シマシテ、今日ハ地方ノ各種團體、若クハ地方自治團體ニ對シテモ相當ナ國庫ノ補助ガ段々殖エテ居ルノデアリマスルガ、ソレト今ノ委任事務ノ改革ノコトニ向ツテ銳意方法ヲ講ジテオ出デニナルト同時ニ、地方ノ補助費ヲ整理スルコトハ當分困難デアルト云フ御見込デアリマスルカ、或ハ又之ニ向ツテモ相當思切ツタ整理ヲ加ヘルト云フ御見込デアリマス、其ノ點ヲ一ツ伺ツテ置キタイト存ジマス

○挾間政府委員 是ハ色々ナ中央官廳ニ關係ナル問題ダト思ヒマスガ、此處デ私カラ申上ゲルノハ負擔區分ニ關係ヲ持チマスヤウナ問題ニ付キマシテハ、成ルベクソレガ合理的ニ按配セラレルヤウニ、補助費ノ問題モ整理シ、増額スベキモノハ増額スル、減額スベキモノハ減額スルト云フ方針デ進ンデ行キタイト思ヒマス、其ノ他ノ補助費ノ問題ニ付キマシテハ、是ハ各省、其ノ他大藏當局ニ於ケル財政ノ關係ニナリマス、此處デ私ヨリハツキリト申上ゲ兼ネマスルガ、負擔區分ニ關聯スル問題ニ付キマシテハ、今申上ゲマシタヤウナ方針デ進ンデ行キタイト思ツテ居リマス

○武田委員 尙ホ細カナ點ガ二三アルノデアリマスルケレドモ、他ノ諸君ノ御都合モアリマセウカラ、私ハ是デ打切ルコトニ致シマス

○小山委員長 長野君、ドノ位掛リマスカ

○長野委員 十五分開位デスガ——私ノ分デ殘ツテ居リマス分與稅ノコトヲ御尋シテ全部ヲオ終ヒニ致シマス、政府ハ今回ノ分與稅法ノ實施ニ依リマシテ、地方團體ノ財政ノ調整ヲ圖ラウトシテ居ラレルノデアリマスルガ、是ハ趣旨ニ於テ至極贊成ノ點デアリマス、併シナガラ此ノ分與稅法ハ極メテ複雑デアリマシテ、法案ヲ一讀致シマシテモ中々難解ナ點ガ多イノデゴザイマス、ソコデ私共ノ臆測カモ存ジマセヌガ、斯様ナ難解ノ法文ヲ御立デニナルニ付キマシテハ、其ノ裏ニ何カノ根據ニ基イテオヤリニナツタト云フコトガ實ハ想像サレルノデアリマス、ソレハ何デアアルカト申シマスルト、即チ地方ノ各團體ニ例ヘバ配分サレル其ノ數字ト云フヤウナモノガ、豫メ當局ニ於カレテハモウ豫想ガ出來テ居ルノダト思ハレル、斯様ナ難解ナ法文ヲ御示シニナリマシテハ、一方審議ノ便ノ上カラ其ノ豫想サレテ居ル數字ヲ御示ニナルコトガ、私ハ議事ノ進行ノ上カラ申シマシテモ、極メテ適切ナル方法デアリ、親切ナルヤリ方デアルト存ジマシテ、先日來厦、之ヲ要求シタノデアリマシタガ、幸ニ昨日頃ニ至リマシテ漸ク其ノ一部分ヲ御示ニナリマシタノデ、私共ガ考ヘテ居リマシタ或ル程度ノ不安モ一掃サレタノデアリマス、又心配致シテ居リマシタ所ガ一片ノ杞憂ニ過ギナイト云フコトモ茲ニ分ツタノデアリマス、併シ尙ホ其ノ點ニ付キマシテ二三御同致シマシテ、自分ノ不明ノ點ヲハツキリサシタイト考ヘテ居リマス、即チ第十條ノ規定ニ於キマシテ、配付稅ハ道府縣ト市町村ノ配分割合ハ百分ノ六十二ト百分ノ三十八ト云フコトニナツテ居ルノデゴザイマス、然ルニ第四十九條ノ規定ニ於キマシテハ、昭和十五年度ハ府縣ガ百分ノ六十四、町村ガ百分ノ三十六、ソレカラ又翌年即チ十六年度ニ於キマシテハ府縣ガ百分ノ六十五、市町村ガ百分ノ三十五ト云

フコトニナツテ居リマシテ、市町村方面カラ申シマスルト、其ノ配分率ガ著シク減額サレテ居ルノデアリマス、併シナガラ是ハ計算上ノ結果斯ウ云フコトニナルノデアツテ、何等政策的ノ意味ヲ含ンデ居ラスト云フコトニ解釋シテ宜シイデアリマス、其ノ點ヲ御伺シタイデアリマス

○**換間政府委員** 此ノ分與稅法案ハ非常ニ法文ガ複雑ニナツテ居リマスケレドモ、理論トシテハ簡單ナノデアリマス、計數的ノコトヲ條文ニ現スト致シマス、ドウシテモ斯ウ云フ風ニ複雑ニナルノデアリマス、豫想ノ數字ハ實ハ各町村ニ付テハ出來ナイノデ、六大都市ノ數字ヲ本日差上ゲマシタケレドモ、是モ大體ノ見込デ、實際ニ算盤ヲ當ツテ見マス、多少ノ算盤ノ狂ヒガ出テ來ルカトモ存ジマス、ソレカラ第四十九條デ經過的ニ率ヲ變ヘテ居リマス、六十二ヲ六十四ニシ、又六十五ニ致シテ居リマスノハ、十五、十六兩年度ハ平年度化シタ額デナイノデアリマシテ、言葉ヲ換ヘテ申シマス、十五、十六年ハ舊稅法ニ依ル過年度收入ガ一億九千萬圓バカリアルノデアリマス、ソレガ府縣都市町村トニ入ツテ參リマス、此ノ過年度收入額ノ相違ガアリマス、之ヲ數字のニ算盤ヲ彈キマス、斯ウ云フ數字ニナル譯デアリマシテ、茲ニハ何モ政策的ノ意味モ何モナイ、是デ平年度ニ於ケル六十二ト三十八ト云フ數字ニビツタリ合フ譯デアリマス

○**長野委員** 極メテ明白ナ御答辯ヲ戴キマシテ非常ニ有難ウゴザイマシタ、次ニ御尋致シタイ點ハ第五十六條ノ規定デアリマスガ、本法案ヲ通覽致シマスルニ、配付稅ノ分與方法ト致シマシテハ、先ヅ財政事情ノ

共通シタ所ノ地方團體ヲ一括致シマシテ、道府縣、大都市、都市、町村ノ四「ブロック」ニ區分フシマシテ、各「ブロック」毎ニ配付稅額ヲ算出決定スル仕組ニナツテ居ルノデアリマス、然ル所第五十六條ノ經過規定ニ依リマシテ、折角各「ブロック」毎ニ算出決定シタモノヲ、更ニ打壞シテ他ノ「ブロック」ニ融通セシムルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、而モ是ハ慥カ五箇年ノ長期ニ互ルモノト存ジテ居リマスルガ、サウ云フコトニナルト折角ノ「ブロック」毎ニ額ヲ算出スル仕組ニナツテ居ル根本精神ヲ、自ラ破壞スルト云フコトニナルノデアリマシテ、此ノ點ハ聊カ自家撞著ニ陥ルノデハナイカト云フ感ガアルノデアリマス、若シ當局ノ言ハレマス通り、之ニ依ツテ或ル方面ノ歳入ノ激減ヲ防ガントスルト云フコトデアリマスナラバ、是ハ地方分與金特別會計法ニ依リマシテ借入金ヲ以テ之ヲ一時補填シテ、其ノ補填額ハ總額ニ於テ制限ヲ加ヘテ置クト云フヤウナ方法モアルノデヤナイカト考ヘルノデアリマス、此ノ點ハ先頃ノ此ノ委員會ニ於テ私關聯質問シテ御尋シタノデアリマスガ、十分ナル御答辯ヲ得マセヌデシタカラ御尋スル次第デアリマス

○**換間政府委員** 此ノ第五十六條、第五十七條ハ三「ブロック」ニ對スル割當ノ經過規定デアリマスガ、是ハ實ハ第五十九條以下ニ於キマシテ各大都市、各中小都市、ソレカラ各町村ニ於テ經過的ノ負擔ノ激減緩和ノ暫定措置ヲ致シマス必要上、此ノ三「ブロック」ニ對シテ配付スベ配付稅ノ額ニ付キマシテモ、其ノ年度間ノ經過的調整ヲ致シテ置カナケレバナリマセヌノデ、此ノ規

定ヲ設ケテアル次第デアリマス

○**長野委員** 只今ノ問題ニ付キマシテハ、何ト申シマスルカ、考ヘ方ノ相違ト申シマスルカ、十分ニ諒解致シ兼ねルノデアリマスガ、議事ノ進行上ノ問題ニ移リタイト思ヒマス

最後ニ御尋致シタイト存ジマスルコトハ、即チ第六十二條ノ規定デアリマスガ、此ノ乘率ノ問題ハ此ノ案ニ依リマスルト、昭和十五年度カラ十九年度ニ至ル五箇年ノ長キニ互リマシテ、毎年度百分ノ五ノ開キヲ以テ、舊稅額ニ對スル增收額ヲ標準トシテ改正後ニ於ケル稅收入ヲ抑ヘントシテ居ルヤウニ見受ケラレルノデアリマス、即チ百分ノ五以上ノ增收ガアリマシタ場合ニハ、其ノ超過シタ所ノ額ノ三分ノ二ハソレノ配付額カラ減額サレルト云フ風ニ解釋致シテ宜シイデアリマセウカ、此ノ點御説明ヲ求メマス

○**三好政府委員** 失禮デスガ、一寸聽キ漏ラシマシタガ……

○**長野委員** 此ノ第六十二條ノ乘率ノ問題デアリマス、是ハ此處ニモ出テ居リマスル通り、昭和十五年度カラ十九年度ノ五箇年間ニ於キマシテ——是ハマア經過規定デアリマセウガ、毎年度百分ノ五開キト云フコトニナツテ居リマス、是ハ要スルニ自然増収ヲ見越シテ斯ウ云フ風ニ掲ゲラレタノデハナイト云フ風ニ考ヘルノデアリマスガ、サウデナイデセウカ、更ニ若シ是ガ百分ノ五ヲ超過致シマシタ場合ハ、即チ增收ガアツタ場合ニハ、其ノ增收分ノ三分ノ二ヲソレノ配付額カラ減額スル、即チ之ヲ何處カ外ニ持ツテ行クノデハナイカ、增收ノアツタ分カラ外ニ取上ゲテ持ツテ行クノデハナイ

カト云フ風ニ解釋サレ易イノデアリマスガ、實際ノ眞意ハサウ云フ所ニアルノデアリマスガ、御尋致シマス

○**三好政府委員** 第六十二條ノ制限ノ問題ハ、第六十三條ト併セテ實ハ御覽ヲ願ヒタイノデアリマス、第六十二條ニ於テ制限ヲ致シマスノハ、此ノ率ニ段階ヲ付ケテ居リマスガ、自然增收ヲ抑ヘル意味デハゴザイマセヌ、稅制ノ改正ニ依リマシテ增收ノアリマス所ノ增收分ヲ或ル限度ニ於テ制限シテ行ク、ソレヲ五箇年間ニ段々濟シ崩シニ制限シテ行ク、斯ウ云フ趣旨デアリマス、其ノ制限ニ依リマシテ出マシタ額ハ、第六十三條ニ依リマシテ減收ヲ生ズル團體ニ持ツテ行ツテ、第六十三條ノ二項ノ規定ニ依リマシテ、ソレニ餘リマス金ハ又元ニ還リマシテ、人口ニ按分シテ分ケルト云フヤウニ複雑ニ相成ツテ居リマスガ、兎ニ角稅制改正ニ依リマシテ稅收入ガ急激ニ殖エルト云フコトヲ第六十二條デ制限スル、而シテ制限ニ依ツテ出マシタモノハ一應第六十三條ノ規定ニ依ツテ減收ノ極端ニ來ル團體ニ割當テル、殘リマシタモノハ一般原則デ再分與スル、斯ウ云フ風ニ致シテ居ル譯デアリマス

○**長野委員** 只今ノ御説明デ稍々了解ガ出來タノデアリマス、サウ致シマス、此ノ百分ノ五ノ開キト云フモノハ自然增收デハナイ、斯ウ云フコトデアリマスガ、

○**三好政府委員** 趣旨トシマシテハ自然增收ヲ抑ヘル趣旨デハゴザイマセヌ、稅制改正ニ依ル增收ヲ抑ヘル、斯ウ云フ意味デアリマス、其ノ抑ヘ方ハ毎年百分ノ五ツツ緩メテ行ク、斯ウ云フコトニ相成ルノデアリマス、併シナガラ自然增收ガゴザイマスレ

バ、自然此ノ規定ニ依リマシテ其ノ限度ニ於テ抑ヘラレト云フ結果ニ相成リマス、

○長野委員 結局御話ヲ聽イテ見マスルト、自然増収ヲ抑ヘルト云フコトニナルト思ヒマス、更ニ自然増収ナリ此ノ稅制改革ニ依ツテ著シク増収ノアル場所カラ之ヲ取上ゲテ少イ所ニ配分スル、是ハ非常ニ趣旨ニ於テ結構デアリマスガ、サウ致シマスト現在ノ實情ヲ多少無視シタト云フ嫌ヒモアルカニ思ハレルノデアリマス、ト申シマスルノハ、既ニ當局ニ於テモ能ク御承知ノ通りデアリマスルガ、一體全國平均ノ自然増収率ト云フモノハドレ位ニナツテ居リマスカ、昨日モ私が喧シク御要求致シマシタケレドモ、御答辯ガナカッタノデアリマスルカラソレヲ知ルコトガ出來マセスガ、併シ大都市ニ於ケル自然増収ハ、ソレハ財務當局ノ發表スル數字ニ依リマスルト、約一割前後ト云フコトニナツテ居ルノデアリマスルカラ、少クトモ六大都市ニ於キマシテハ百分ノ五デ抑ヘラレト云フコトハ聊カ迷惑デアル、更ニ御承知ノ通り大都市ニ於テハ地方ノ農村ト違ヒマシテ、或ハ銃後ノ施設ニ致シマシテモ、或ハ傳染病ノ關係施設ニ致シマシテモ、小學校費ニ致シマシテモソレハ臨時ニ所謂追加豫算ノ財源ヲ必要トスル事業ガ多クアルノデアリマスルカラ、是ハ畫一的ニ百分ノ五デ抑ヘラレトソコニ無理ガアルノデハナイカ、サウ云フ現地ニ於テ相當收入ノアル所ハ、自然ノ儘ニシテ相當ノ額ヲ御認メニナルコトガ實際ニ適應シタモノデナイカト云フ考ヲ持ツノデアリマス、此ノ點ヲ最後ニ一ツ伺ヒマス

○三好政府委員 是ハ此ノ限度ニ於キマシ

テ制限ヲ致スノデハゴザイマセスデ、之ヲ超エマシタモノノ三分ノ二ノ額ヲ制限ヲ致シテ居ルノデゴザイマセスガ、隨ヒマシテ自然増収ヲ十トカ十五ノ程度ニ抑ヘルト云フ程度ニハ相成ラヌト云フコトヲ一ツ御考ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラモウ一ツ御考ヲ願ハナケレバナリマセヌ問題ハ、此ノ舊稅額トハ何デアアルカト申シマス、第六十四條ノ規定ニ依リマシテ昭和十三年度ニ於ケル稅額ヲ押ヘテ居リマス、隨ヒマシテ第六十二條デハ比較的制限ヲ受ケマス代リニ、第六十三條デ減收ヲ來ス所ヘ持ツテ行ク金ガ比較的少クナル、其ノ結果第六十三條ノ二項デモウ一遍人口割ニ再分與スル額ガ相當出テ來ル見込デゴザイマス、其ノヤウニ兩方ノ規定ヲ併セテ適用シマシタ結果ハ、第六十二條ノ規定ノ表面カラノミ來ル結果トハ大分違ツタモノニ相成ルト想像致スノデアリマス

○長野委員 サウ云フコトデアリマルト、必ズシモ將來實際問題トシマシテ、自然増収ノ多イ場所ニ於キマシテハ此ノ百分ノ五ノ規定、即チ第六十二條デ抑ヘラレトデハナイト云フ風ニ考ヘテ宜シイデスカ

○三好政府委員 具體的ニ算盤ヲ當ツテ見マセスト、只今ノ御尋ハハツキリシタ結論ヲ得難イノデアリマスガ、唯規定ノ上カラ見マスト結局配付稅額ノ澤山行ク團體、六大都市ナラバ京都トカ横濱トカサウ云フ所ガ、配付稅ニ於テ比較的經過年度強イ制限ヲ受ケル、サウ云フコトガ考ヘラレトデアリマス、隨ヒマシテ獨立財源ニ於ケル自然増収ガ之ニ依ツテヒドク抑ヘラレト云フコトハ勿論起ラナイノデアリマス

○長野委員 私ノ質問ハ是デ終リマス

○小山委員長 青木君ガ關聯シテ質問ヲ要求シテ居リマスカラ之ヲ許シマス

○青木委員 只今ノ質問ニ關聯シテ御伺致シマスガ、今御質問ニナリマシタ經過規定ノ中デ、新稅額トカ舊稅額トアリマスガ、新稅額ト云フノハ前ノ單位稅額ト云フ分ハ其ノ縣デ徵收スル、或ハ其ノ市町村デ徵收スルモノデハナクテ、百分ノ百乃至百分ノ二百ヲ以テヤル譯デアアルガ、併シナガラ經過規定デハ、新稅額ト云フモノガドウ云フモノデアアルカト云フコトハ規定シテナイヤウニ思ヒマスガ、新稅額トハ一體ドウ云フモノヲ指スノデアリマスカ

○三好政府委員 單位稅額ノ計算ニ付キマシテハ、個々ノ團體ノ課稅力ノ測定デゴザイマスカラ、實際ニ取ツテ居リマス稅額トハ無關係ニ算定ヲ致シマセスト不公平ヲ生ジマス、隨ヒマシテサウ云フ規定ニ致シテ居ルノデアリマス、此ノ新稅額ト舊稅額ノ問題ニ付キマシテハ、是ハ單位稅額ノ算定ト異ナリマシテ、各種ノ獨立稅等モ加算致スノデアリマス、三收益稅ノ附加稅ニ付テハ、制限率或ハ標準率ニ依ツテ算定致ス積リデアリマス、ソレハ命令ニ依リマシテ其ノ内容ヲ規定致スノデアリマス

○青木委員 此ノ新稅額ト舊稅額ヲ今命令ニ依ツテ規定スルト云ハレルガ、其ノ命令ニ依ルト云フコトハ、何處カ條文ニ現ハシテアルノデゴザイマスカ

○三好政府委員 方々ニアリマスガ、例ヘバ大都市ノ配付稅ニ付テ申シマス、第六十四條ノ二項ニ規定ヲ致シテ居リマス

○青木委員 サウシマスソレニ關聯シテ又御伺シテ見タイト思ヒマスガ、此ノ度十億三千二百萬圓ト云フ總額ヲ決メラレマシ

タ計算ヲ見マス、此ノ還附稅並ニ地方ノ附加稅ハ限度マデ、即チ府縣ハ百分ノ百、市町村ハ百分ノ二百、大體ソレニ相當スル位ノ金額ハ計算サレテ居ルヤウニ思ヒマス、併シ百分ノ百並ニ百分ノ二百ト云フコトハ制限デアリマシテ、別段ソレダケ全部各團體ガ取ラナケレバナラヌト云フモノデハナイ、所ガ今回ノ計算ハ之ヲ最高限マデ取ツタ場合ヲ豫想シテ、計算ヲ立テテ居ラレルヤウニ思フノデアリマス、サウシテ其ノ計算ハ自然増収ト云フモノヲ見込シテ立テテ居ラレル、自然増収ヲ見込シテ結果十億三千二百萬圓ニナルト云フ御見込デアリマス、所ガ此ノ經過規定ヲ見マス、舊稅額ヨリ一割以上ニナル、ソレ等ノ分ハ一應取上ゲテ、舊稅額ニ足りナイモノニ廻スト云フコトニナツテ居リマス、サウスルト或ハ團體ガ今度ノ新稅額ニ於テ、百分ノ百乃至百分ノ二百取ラナイヤウナモノガ出來ル、少クトモ百分ノ九十、百分ノ百五十ト云フヤウナ比率ヲ以テヤツテ行クモノガ出來マシタ場合ニハ、其ノ團體ハ成程稅外收入ガ多イ、其ノ他又今回ノ稅ノ改正ニ依リマシテ、非常ニ惠マレタ團體デアアルガ故ニ、ソレダケ取ル必要ガナイト云フコトニ依ツテ、ソレダケ取ラナイト云フコトニナリマス

ト——今回ノ總稅ヲ抑ヘラレタモノハ、大體今申上ゲタヤウニ自然増収ヲ見込シテヤツテ居ラレマス、ソレダケヲ各團體ガ減ラシテ參リマス、ドレカノ惠マレタ團體ダケガズツト減ツテ來ルト云フコトニナリマス、サウスルト結局全體ノ總計額ヲ算盤ニ入レテ見マス、十億三千二百萬圓ニハナラナイノデハナイカ、サウシマス、成程配付稅ヲ行フ上ニ於キマシハ、前ニ申シ

マシタヤウニ單位稅額ヲ實際ニ賦課シテ居
ル所ノ附加稅ニ依ラズシテ、百分ノ百乃至
百分ノ二百ニ依ツテヤウテ居ルノデアルカ
ラ、配付稅ヲ行フ上ニ於テハ、其ノ團體ガ
ドレ位ノ附加稅ヲ課スルカドウカト云フコ
トハ問題デハナイガ、併シナガラ全各團體
ノ總稅收入ヲ合計致シマス、今マデ當局
ノ說明セラレマシタ十億三千二百萬圓ヨリ
幾許カ減少スル、即チ惠マレタ團體ハ減
少シテモチツトモ痛苦ヲ覺ユナシ、併シ結
局ハソレダケ減ル、サウシテソレガ減少シ
テモ良イ團體ハ宜イガ、總額ガ丁度自然増
收ニ堪ヘルダケノ經費トシテ政府ガ押ヘラ
レタ十億三千二百萬圓ハ、賦課シテ十分ニ
シテ必要ナル數字デハアリマスケレドモ、
併シナガラ實際ニ稅收入トシテ現ハレルモ
ノハ、ソレヨリ幾許カ減少シタモノニナ
リハシナイカ、殊ニ今日配付セラレマシタ
數字ヲ見マシテモ、六大都市ノ如キハ可ナ
リ惠マレタ數字ニナツテ居ル、是等ニ致シ
マシテモ或ハ附加稅ノ最高限ヲ課スルカド
ウカト云フコトハ、是ハソレハノ團體ニ於
テ考ヘラレルコトダラウト思ヒマス、サウシ
マス、ト今言フヤウニ數字ノ上ニ於テ、一團
體ニ五萬圓位ノ差ガ出テ來ルコトハイト
易イコトデアリマス、之ヲズツト合計致シ
マス、十億三千二百萬圓ハ、或ハ五萬圓
或ハ一億圓マデ位ノ差ガ出テ來ルカドウカ
分リマセヌガ、相當ノ數字ガ出テ來ルダラ
ウト考ヘラレマス、サウスルソレハ貧弱
ナル方面ニ流レテ行ク、其ノ分與稅ニ依ツ
テ受クル所ノモノハ、計算ニ於テハ増減ハ
アリマセヌケレドモ、政府ノ思ハレタヤウ
ニ總額ガ十億三千二百萬圓ニハナラナイヤ
ウナ結果ニナルト云フコトデ、何處カ思ツ

タヨリモ満足シナイ所ガ出テ來ルノデハナ
イカト云フコトガ想像サレマスガ、此ノ點
ハ如何デアリマス

○三好政府委員 十億三千二百萬ト云フ數
字ハ、實ハ改正後ニ於テ取リマス稅額トハ
事實多少違フト思ヒマス、是ハ還付稅ノ關
係デ違フト思ヒマスガ、混亂ヲ防ギマス爲
ニ十億三千二百萬圓ト云フモノハ改正ノ對
象トナル數字デアアルト致シマシテ、其ノ數
字ハドウ云フ意味ヲ持ツテ居ルカト申シマ
ス、地方稅ノ改正ノ目標トナリ對象トナ
ル數字トシテ、全國總體ニ付テ定メマシタ
數字デアリマス、隨ヒマシテ稅制改正ノ計
畫ト致シマシテハ、三收益稅附加稅ハ百分
ノ百或ハ百分ノ二百取ルモノト云フ前提
ノ下ニ、十億三千二百萬圓ノ算盤ニ合ハシテ
居リマス、併シナガラ現實ニ各團體ガ昭和
十五年度ニ十億三千二百萬圓取ラナケレバ
ナラスト云フ意味決メタモノデハゴザイ
マセヌカラ、現實ニ此ノ地方稅制ガ運用サ
レ、各團體ガ條例ニ依ツテ自己ノ團體ノ稅
制ヲ組立テルト云フ結果ハ、或ハ十億三千
二百萬圓ヲ超エルコトガアルカモ知レマセ
ヌ、同時ニ又此ノ十億三千二百萬圓ヲ割ル
コトガアルカモ知レマセヌ、是ハ此ノ十億
三千二百萬圓ト云フ數字ヲ定メマシタコトト
ハ無關係ナル問題デアリマス

○青木委員 大體御說明ハ了解致シマシタ
ガ、各團體ガ十億三千二百萬圓ヲ是非トモ
必要トシテ計上スルカドウカト云フコトガ
分ラナイコトハ尤モデアリマスガ、私ノ懸
念致シマスコトハ、十分ノ團體ハ幾ラカ減
ル、併シナガラ不足スル所ノ團體ニ交付セ
ラレルモノガ、十分ニ行カナイ結果ニナル
ノデハナイカ、即チ改正案ニ依ツテ惠マレ

タル團體ガ、最高限マデ附加稅ヲ課シナイ
ト云フ結果生ジタ其ノ差額程、其ノ團體ダ
ケガ差控ヘタフデハナクシテ、實ハソレガ
總額ノ見ルナラバ、惠マレザル團體ニ取
ツテハソレダケ財政上ノ壓迫ヲ意味スルモ
ノニナルノデヤナイカ、即チ經過規定ニ於
テ百分ノ八十以下ニナル、或ハ百分ノ九十
以下ニナルモノニ對シテハ之ヲ補充スルト
云フ規定ガアリマスケレドモ、併シソレハ
不足シタ分ヲ全部ヤルト云フノデハナクシ
テ、ソレヲ基準トシテ按分比例的ニ之ヲ補
充シテヤルノダト云フコトニナルノデ、結
論ニ於テハ只今申シマスヤウニ總額ニ於テ
幾許カ足りナイ、若シ仰シヤルヤウニ十億
三千二百萬圓ヨリ超過スルヤウナ結果ニナ
ツタ場合ハ、ソレガ惠マレタル都市ガ百分
ノ百マデ取ツテ大イニ施設ヲスベシト云フ
コトニ依ツテ十億三千二百萬圓ニナツタノ
ナラバ宜イケレドモ、サウデナイ、惠マレ
ザル團體ガ是デヤ足りナイカラト云フノデ
早速百分百以上ノ、詰リ制限以上ノ課率ヲ
課スルコトヲ許可ヲ御願シテ、ソレニ依ツ
テ漸ク其ノ不足額ヲ滿シタト云フヤウナ結
果ニナルヤウナ憂ハナイカト云フコトヲ御
伺シタイノデアリマス

○三好政府委員 御尤モデゴザイマス、是
ハ稅制全體ニ付テノ考ガ斯ウ云フ風ニ致シ
テ居ルノデアリマス、即チ各團體トモ通常
ノ人並ノ經理ヲ致シマスナラバ、三收益
稅ニ付テ言ヘバ百分ノ百、百分ノ二百ト云
フ程度ノ附加稅ヲ徵收スレバヤツテ行
ケルヤウニスル、併シナガラ地方自治
ヲ認メマス以上ハ、或ル團體ニ於テハ多少
負擔ハ高クテモ仕事ヲ澤山ヤツタ方ガ宜
イ、或ハ仕事ハ少クテモ宜イカラ負擔ガ輕
イ方ガ宜イト云フ風ナ、自治ノ方針ヲ
立テル團體ガアリ得ル譯デアリマス、
過去ニ於テモ現ニサウ云フ風ニ相成ツテ居
ルノデアリマス、隨ヒマシテサウ云フ團體
ニ於キマシテハ百分ノ百或ハ百分ノ二百ト
云フ標準率ヲ超エテ高イ稅ヲ取ル團體、或
ハソレヨリモ少イ稅ヲ濟ム團體、サウ云フ
モノガ置カレルト云フコトニナラナケレバ、
負擔ノ平衡ハ却テ期セラレナイノデアリマ
ス、隨ヒマシテ御心配ニナツテ居リマスヤ
ウナ此ノ改正案施行ニ依ツテ減收ヲ來スト
云フ風ナ所ハドウ云フ所デアアルカト云フト、
從前比較的施設ヲ多ク致シテ居リマシテ、
稅金ガ割ニ高クナツテ居ルト云フ所ニ相成
ルカト思フノデアリマス、サウ云フ團體ニ
於キマシテハ此ノ案ガ施行サレマシテモ、
餘所ヨリハ幾ラカ高イ稅ヲ取ツテ賄ヒヲ付
ケテ行クト云フ風ニ致サナケレバ相成ラス
ノデアリマシテ、サウナルコトガ却テ負擔
ノ均衡ヲ期スル所以デアアル、斯ウ云フヤウ
ニ考ヘルノデアリマスガ、サウ云フ風ニナ
ツテ居ルカドウカト云フコトニ付テハ、ハ
ツキリシタ表ガ出來テ居ラナイノデアリマ
スカラ申上ゲニクイノデアリマスガ、六大
都市ノ表ヲオ目ニ掛ケマシタガ、是等カラ
多少御判斷下サイマシテモ、或ル程度サウ
云フコトガ現ハレテ居ルト云フコトニナル
ト思フノデアリマス

○青木委員 只今ノ御答辯ニ依リマス、
結局政府ガ百分ノ百並ニ百分ノ二百ヲ府縣
並ニ市町村ノ最高限度、ソレ以上ハ許可ヲ
要スルト云フコトニセラレマシタコトハ、
ソレヲ制限トシタノデナクシテ、ソレガ丁
度標準デアアル、大體ニ於テ百分ノ百並ニ百
分ノ二百ヲ中心點トシテ、全國ノ團體ガ或

ハ上ニ或ハ下ニナルノデアル、ダカラ其ノ標準ヨリ以上ニ取ルヤウナモノハ許可ヲ要スルガ、併シ標準ヨリ以上ニナツタカラト云ツテ決シテソレハ不都合ナモノデアル、負擔ノ均衡ヲ害スルモノデアルトハ決シテ考ヘテ居ラナイ、即チ百分ノ百、百分ノ二百ハ其ノ「レベル」デアツテ、ソレヲ中心トシテ上下スベキモノデアルト云フ所ノ御見解カラ拵ヘラレタモノデアルト云フヤウニ承リマシタガ、ソレデ間違ヒアリマセスカ

○三好政府委員 其ノ通りデアリマス、第四十六條或ハ第六十一條ノ規定ヲ御覽下サイマス、是ハ制限トカ、或ハ超エテハイケナイト云フ文句ハ使ツテゴザイマセヌ、之ヲ超エル時ハ許可ヲ受ケロト云フコトニ致シテアルノデアリマシテ、是ハ現行ノ制限外課稅制度ノ整備擴充ヲシタ、サウシテ此ノ三收益稅ノ附加稅ヲ地方ノ獨立財源ノ中心ニシ、之ニ依ツテ財政ノ自主性ト云フモノヲ持タセヨウ、伸縮性ヲ持タセヨウ、斯ウ云フ考カラ出デ居ルノデアリマシテ、全ク御覽ノ通りニ出來デ居ルノデアリマス

○小山委員長 本日ハ是ニテ散會致シマス、明後日ハ午前十時ヨリ開會致シマス、午後七時散會